

こどもエコクラブくしろのみなさんへ
師範から一言！

こどもエコクラブくしろのみなさん、ボリュームたっぷりの「エコ活釧路湿原通信2019」を作ってくれて、ありがとう！ウチダザリガニ、サクラマス、水源林、ヒグマなどのわだいたっぷりの記事がとてもいねいにわかりやすく、ふつうの新聞とおなじようなスタイルで書かれたすばらしい壁新聞です！！

在来生物にわるいえいきょうをあたえる特定外来種のウチダザリガニを2000年から毎年ほかくして、そのほかく数を棒グラフであらわしているところが一目ですぐにりかひできますね。そしてみなさんのがんばりにより、このほかくくじょ効果がとてもうまく説明されて、そして最後に「外来種問題は人間が引き起こした問題なので責任をもって解決しなければならない課題だ」と思っています。」と終わっているところがとても大切に、決してウチダザリガニの責任にしていないところにとてもかんしんしました。サクラマスの一生が絵できれいにくわしく説明されているので、この壁新聞を読むお友だちにはひじょうに親切でやさしいと思います。また釧路湿原再生の森づくりに関しても、ウチダザリガニと同じように人間が引き起こした問題ですね。森林をこわすことはかんたんですが、森林再生はたくさんの人たちがひじょうに長い時間をかけて協力しながらけいぞくしていかなければならないとても重要な問題ですね。

とっておきのゴシドウ★

日本の自然の中でとても重要な外来種や森林再生問題に長い間いっしょうけんめいにとりくんでいてくれて、ありがとう！！森と水と湿原とともに生活しているいろいろなたくさんの生きものたちのためにこのとりくみをたやさないように、クラブの一人一人がOneTeam(ワンチーム)としてこれからも釧路湿原のためにがんばってくださいね！！



オホーツクエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

まずたくさんの記事が書けていることにおどろきました。やったことだけではなく、活動を通じて考えたこと、感じたこともしっかり書かれていてすばらしいです。北海道らしい活動が書かれているのもとくちょうてきですね。よみごたえのあるおもしろい壁新聞になっていると思いました。

みなさんの新聞を読むと、いろいろなことの「大切さ」を考えることがエコにつながるものがよく分かります。またエコのために特別なことや大変なことをする必要はなく、毎日の生活や身近なところでエコができるということも、よく伝わってきました。まさに北見市が進めている「クールチョイス」を自分たちのやり方で実践できましたね。そしてなによりすてきなものは、エコ活動って楽しそう、と思える記事になっていることです。新聞を読んだ人は「自分たちにもできそう」「やってみよう」と思ってくれると思います。

とっておきのゴシドウ★

構成はとてもよいと思いますが、みなさんの新聞がさらにわかりやすくなるようお伝えします。紙面の上のほうには「生活のなかでできるエコ」、下のほうには「2018年胆振東部地震から学んだこと」が多く書かれていますね。それぞれを特集しているのは、新聞を読む人にとくに伝えたい内容があったからだだと思います。特集した意味など伝えたいことがあるときには、記事のテーマをはっきり書いてみるなどの工夫をしてはどうでしょうか。伝えたいことを強調すれば注目をひくこともできると思います。また家電のお得な使い方や節約できるお金は1日あたりの金額でしょうか。数字を書くときには、単位も書いておくとより読み手が理解しやすいですよ。これからも元気に活動を続けていってください。



おおぼし保育園エコフレンドのみなさんへ
師範から一言！

カラフルでたくさんのお絵かきや写真がちりばめられていて、楽しい紙面になっていますね。楽しみながらエコ活動をしていることが伝わってきます。ペットボトルのキャップを800個集めると、ワクチンが買えるんですね。キャップを集めるというちょっとした行動で命を救うことができるなんて、ステキなことです！

廃材を使った工作は、オリジナルの作品がたくさん出てきそうですね。それに、野菜づくりもうらやましいです。食べるものを自分たちで種から育てて、草取りや水やりを続け、最後は収穫、そして食べる。生きた食育ですね。子どもたちみなさんの生き生きとした姿もステキです。

とっておきのゴシンドウ★

リサイクル廃材を使って、どんなものをつくったのかな？写真がたくさんあって楽しそうなんだけど、具体的に何を使って何をつくったのか教えてもらえると、読んだ人も「私もやってみよう！」って思ってくれるかもしれませんね。野菜づくりは、ダイコンの収穫をした様子が新聞に載せてありましたね。いつ頃タネを蒔いて、収穫をしたのは何月だったんだろう？野菜を育てていく中で、楽しかったこと、工夫したことや苦労したことはあったかな？次は、そんなことも新聞を通して伝えてみてください。



HEP21エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

まずは、国連の生物多様性の10年日本委員会認定連携事業への認定、おめでとう！その喜びが伝わってくるような紙面ですね。色紙でつくったロゴマーク、制作現場の苦労も書かれていて、親しみが持てます。みなさんの日頃の活動が、小さな箱ごとに見やすく示されていて、年間を通していろいろな取り組みをやっているんだということがわかりました。それぞれに分担を決めて書いたのかな？そして、紙面の周りには毎週コツコツと測ってきたたんぶり池のデータがきれいに並んでいます。すごいですね！みなさんの地道な調査活動に感心するとともに、この紙面にきれいに収められたというのもすごいテクニックだと思います。そしてこの紙面全体からは、みなさんのたんぶり池への愛を感じますね！

とっておきのゴシンドウ★

たんぶり池でのいろいろな活動や、そこで得られた水質のデータ(pH、電気伝導度)は分かりやすく書かれていました。では、このたんぶり池ってどんな池？左上の欄に休耕田を活用してつくった池と書かれていました。写真やイラストを入れてみてもいいかもしれませんね。どのくらいの広さなのかな、周りにはどんな草が生えているのかな。いろいろと興味が湧いてきます。たんぶり池の自己紹介みたいなコーナーがあるといいな、と思いました。そして、1年間コツコツと測ってきた水質のデータ、これは何のために、どうやって測っているのかな。赤いシールの印は何だろう？そして、青森県の地図は調査の日のアメダスかな？どうしてこれを隣に並べているのかな？そうした調査のねらいや、くわしい方法、データの見方なども書かれていると、読者の人たちにとっても、もっと理解が深まっていくと思いますよ！

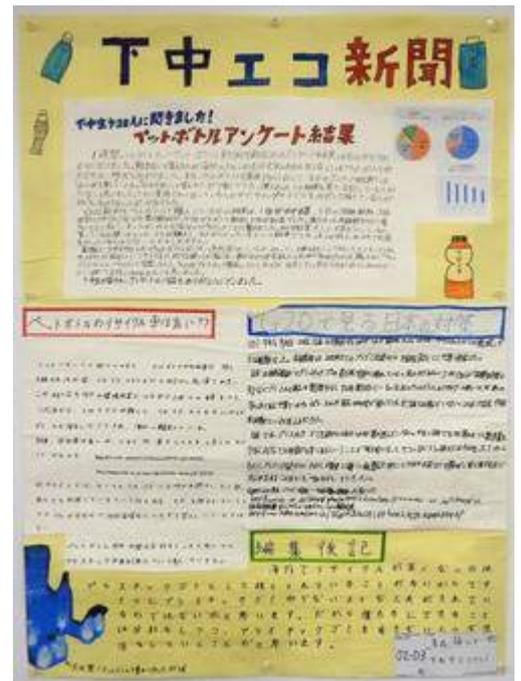


下長中エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

いろいろと考えさせられる新聞ですね。とても興味深く読めました。全校のアンケートをして、その結果をわかりやすくまとめていますね。データをとって、その数字から現状を考察することはとても重要なアプローチです。ペットボトルの回収率は高いけれどリサイクルは必ずしもそうではないこと、リサイクルする場合、洗浄水が有害であること、その結果、回収されたペットボトルが海外に流れてしまっていること。また、日本がプラスチックごみの対策について世界でも遅れをとっていること。ウェブサイトも駆使しよく調べられていて、感心しました。また、テーマがペットボトルやプラスチックごみのことに絞られていてわかりやすく、自分たちの調査と、情報収集による考察があり、とても良い内容になっています。

とっておきのゴシドウ★

新聞というよりも研究レポートと言ってもいい内容になっていると思います。この成果をぜひとも校内はじめ地域の人たちに伝えていってほしいと思います。そして、改善するための行動をみんなで考えてほしいと思います。レジ袋の有料化も、数年前は実現されるとは考えられませんでした。今では当たり前になりました。みなさんがここに書いたように、プラスチックを使わずに、紙製品を使うとか、お茶を自分の家でわかすとか、メーカーの努力や家庭での努力で実現ができることもたくさんあるはず。世の中の環境問題の課題の数々は多くの人の声で変えていけるとと思います。今後のご活躍に期待しています！



緑と太陽の保育園グリーン・キッズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

いっしょけんめいがんばって、壁新聞を作ってくれたことがよくわかりました。とくにびっくりしたのは、絵や工作がとても上手だということです。沢山の絵を描いてくれたので、楽しい新聞に出来上がっていますね。エコ活動で製作した、うさぎぐみさんのトナカイ、ぱんだぐみさんの七夕かざり、きりんぐみさんのこいのぼりもとてもよくできています。ゴミになるはずだったものから、季節のすてきなかざりができるなんて、うれしいですね。エコ活動を表にしてまとめているので、1年を通じてたくさんの活動をしてきたことがよくわかります。楽しく活動していることもすばらしいですね。次にチャレンジしてみたいことができたこともすごいことです。新聞を読んだ人も「エコ活動っておもしろそう。自分たちもやってみたいな」と思ってくれるのではないのでしょうか。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

この新聞を読んだひとは、もっとくわしく活動のことが知りたくなるのではないのでしょうか。たとえば4月には魚のちぎょ放流をしたとのことですが、どんな魚を放したのかな？(鮭かな?) また7月にはエコバックを使ってお店やさんごっこをしたそうですが、何のお店屋さんをやってみたのかな？こまかいことは新聞の中には書ききれないですよ。そこで作った新聞を家族やおもだちに発表する場を設けてみても、おもしろそうだと思います。壁新聞の内容を発表し、その内容についてみなさんと直接お話しできれば、エコ活動のことをもっとよくわかってもらえるかと思ったからです。がんばって作った新聞だからこそ、この新聞を使ってたくさんの人に活動のことを知ってもらいたいですよね。



青森県十和田市 緑と太陽の保育園グリーン・キッズ

壁新聞のタイトル:①みどりりたいようグリーンキッズ ②グリーンキッズミニ

緑と太陽の保育園グリーン・キッズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

とてもきれいな新聞ができましたね。色紙や野菜の絵を新聞に貼って作っている
ので、立体感がでていて、本当の畑やグリーンカーテンのように見えました。野菜の名
札を畑にさしているように貼ったり、グリーンカーテンを網かざりで作ったりするなど、
表現を工夫しているところがすごいです。また記事のテーマごとに茶色や緑、黄色な
どの色をきれいに配色していて、見やすくわかりやすい新聞になっています。絵とい
っしょに写真も添えられているため、植物を育てたことがない人も、野菜や花などの
様子がよくわかるのではないのでしょうか。1年間、みなさんがどんな野菜や花を育て
てきたのか、具体的にはっきりと伝わってきます。

野菜を食べた感想が書かれているのもよいですね。初めて食べる野菜もあったか
と思います。それでもおいしく食べられたのは、自分たちでがんばって育てた野菜だ
ったこと、また園のみんなと一緒に食べることができたからではないのでしょうか。みな
さんが楽しく野菜を食べている光景が浮かんできました。

とっておきのゴシドウ★

今回は育てた野菜や花に注目して新聞を作りましたが、文章で書かれている「が
んばって水をあげたところ」や「野菜をばくばくと食べているところ」など、活動してい
るところの写真も使うと、いっそう活動の様子が伝わりやすくなるかと思いました。
また特に伝えたい内容がある場合には、文字を太くする、文字の大きさを大きくす
る、など記事を強調する工夫をすると、読む人にとってより分かりやすい新聞にな
ると思います。

次の年のお天気はどうなるでしょうか。野菜や花の育ち方もちがうかもしれません
ね。気づいたこと、発見したことをぜひ報告してくださいね。



宮城県仙台市 泉ヶ丘エコクラブ

壁新聞のタイトル:泉ヶ丘エコクラブ新聞

R1-04-01

泉ヶ丘エコクラブのみなさんへ
師範から一言!

主な3つの活動を分かりやすくまとめた新聞ができましたね!記事タイトルの色づ
かいがとてもきれいです。活動によって枠線の色を変えているのもいいですね。カ
ラフルですし、記事のまとまりをわかりやすくする効果もありそうです。
「エコポスター」「地域清掃」「サンちゃんまつり」それぞれの主な活動内容を紹介す
るとともに、メンバーの感想や意見を書いているのがいいですね。みんなが
いろいろなことを考えて、エコ活動をしたことがよくわかります。とくにエコポスター
からは、それぞれのアイデアや個性が伝わってきて感心しました。
またどの活動も、自分たちだけでやるのではなく、地域と一緒にやってい
ることが素晴らしいですね。クラブの活動を、たくさんのひとに知ってもらえ
ます。地域の人たちも、活動を通じてみなさんと交流ができ、うれしかったと思
いますよ。

とっておきのゴシドウ★

写真をたくさん使ってくれており、活動の様子がとてもよくわかります。いっ
ぽう、写真によっては小さかったり、内容がちょっと見えにくかったりするもの
があるようです。思い切って大きな写真を使う、写真をとるときに、新聞で
使いやすい写真になるよう意識して撮影する、など工夫してみるといいか
もしれません。
今回の新聞では実際の活動内容を記事にしてくれましたね。今までの活動を
ふまえて、これからやってみたい活動などはありますか?これからや
ってみたいことや今後の目標などがあれば、そのことも記事に入れてみては
どうでしょう。みなさんのやる気がより伝わるかと思いました。



イオン石巻 イオンチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

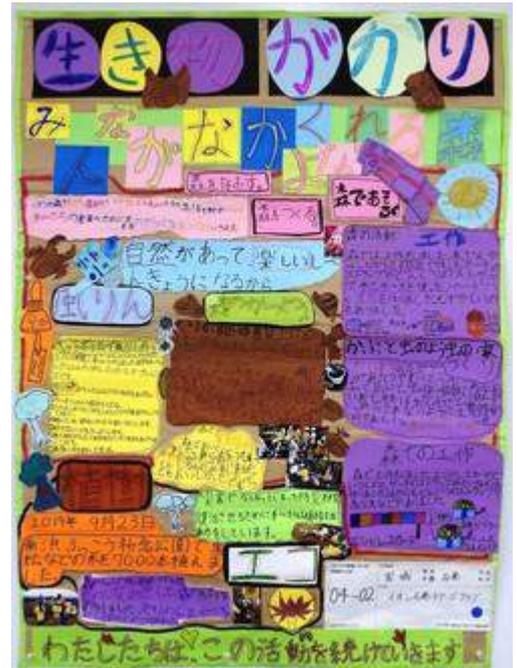
イオン石巻チアーズクラブのみなさん、「みんながなかよくなれる森」の壁新聞を作ってくれて、ありがとう！

“森をなおす”、“森をつくる”、“森であそぶ”というみなさんの活動は『森をまもる』ためにとてもじゆうようなことですね！この活動でたくさんのおともだちとなかよくなれて、さらに自然ともおともだちになれてよかったですね。

「イオンの森で虫や木、自然を大切にす〜私たちの未来のために森のかつどうをつづけていきます。」というすばらしいメッセージにとてもかんどしました！森の木が人間やほかのすべての生きものが生きていくために大切な水をためて、二酸化炭素をすってしんせんな空気をつくってくれて、そしてすな、かぜ、つなみなどの災害をふせぐ防災林の復活のために7000本の黒松などの植樹で、たくさんいろいろな「いのち」もすくうことができますね。みなさん一人一人の活動はとてもすばらしいと思います！森の中でのさまざまな工作にチャレンジして、楽しい思い出がいくつもできてよかったですね。みなさんの壁新聞をよんだおともだちは、きっと石巻の森にきて、いっしょに森をまもる活動をして、工作をしたくなると思います。次の壁新聞をわくわくしてまっていますよ！

とっておきのゴシドウ★

この壁新聞のさいごに『わたしたちはこの活動を続けていきます』というおわりのメッセージには、みなさんの森をまもる活動をつづけていくというみなさんのつよい気持ちがじゆうぶんにあらわれていると思います！これからもず〜と続けていくことがとてもたいせつで、またこのような森の活動をやったことのないおともだちや小さい子どもたちをぜひさそってあげて、森をまもるといりっぱな活動をしてくれるおともだちをもっともつとふやすこともわすれないうでほしいと思います。



南三陸少年少女自然調査隊のみなさんへ

師範から一言！

志津川湾にはたくさんの自然が残っていて、みんながそれを、調べながら勉強してみんなで大切にしようとしていることが伝わってきました。

不思議と魅力が一杯の海や川や森のことが学べていると思います。

みんな学校のみんなども教えあったり、こどもエコクラブの壁新聞を通じて、全国の子どもたちや大人にも教えてあげてほしいと思います。

ラムサール条約に湿地登録もされている場所を調べたり観察できるのはとても恵まれています。世界に通じる認められた大切な場所で、しっかり、継続して学んでほしいと思います。壁新聞も黒をベースに、項目を工夫して、興味を持ってもらい、そして読んでもらえるように工夫していることも伝わってきました。

海藻おしばもおじさんも何回も作ったことがあります。またおしばにしなながら、海藻のことや植物のことを調べてほしいと思います。海藻も植物もとても海や地球や人間にとって大切なんです。どうして大切なのかも自分たちで調べて考えてみてください^^

とっておきのゴシドウ★

壁新聞は、見やすく、読みやすく割り付けも、よくできていると思います。

キャッチコピーも読みたくなるようにできています。

すばらしいフィールドも持っているし、これからもテーマや指導に悩まれることもあると思いますががんばって継続的に発信して頂けたらと思います。自然調査隊というネーミングも活動内容も面白いし全国の見本にもなると期待しています。

自然のものがどう生かされたり守られたりということや、今回の壁新聞でも「人と海のつながり」とまとめているのですが、都会で暮らしているものとしては、普段のみなさんの生活との関係(ゴミや排水、エネルギーや食糧)や都会との関係も調査隊として調べてみてほしいです。

少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。



秋田県秋田市 マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:地球×SUN

R1-05-02

マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言!

マックスバリュ 東北秋田イオンチアーズクラブみなさん!

今回の大きなテーマは「地球×太陽」。新聞を見て、一番先に、太陽と地球がガッチリ握手(あくしゅ)をしているあざやかな貼絵(はりえ)が目飛び込んできました。これは、あまった紙をちぎって貼ったものだと思います。1まい1まい、色を合わせながら、ていねいに作り上げていった様子が目に浮かびましたよ。また、太陽の構造や太陽と地球の関係についても、イラストやグラフなどを使って、とてもわかりやすくまとめてくれました。

今、私たちは太陽の恵みをたくさん受けて暮らしている一方で、大気中に二酸化炭素(にさんかんたんそ)をたくさん排出して地球温暖化現象を引き起こしたり、プラスチック製品(せいひん)をポイ捨てして海洋プラスチックで海を汚したりしています。こうした地球に起きているいろいろな問題は、世界の目標となっているSDGsで解決しなければならない17のゴールにもつながっています。みなさんがいろいろ考えながら、このかべ新聞を作ってくれたことが伝わって来ました。

とっておきのゴシドウ★

この1年間で、みなさんは、たくさんのおこな活動をして来ましたね。

例えば、4月には「緑(みどり)の募金(ぼきん)」で、1年生ががんばって、たくさんのお金が集まりました。さて、その活動はSDGsのどの目標と関係しているでしょう?

集まったお金は緑を守ったり、ふやすために使われますから、SDGsの目標15「緑の豊かさを守ろう」につながりますね。緑がふえたら、目標13「気候変動(きこうへんどう)に具体的対策(ぐたいてきなたいさく)を」にもつながるし、緑をふやす目的の募金に、こどもも大人もいっしょになって参加したので、目標17「パートナーシップで目標を達成(たっせい)しよう」にもつながりますね。ほかにもあるかもしれません。

そう、みなさんの活動は、世界共通の目標であるSDGsの解決につながる重要な行動です。ほかにもできことがたくさんあると思います。

みんなで、考えてみてください。



秋田県秋田市 ひろおもてエコクラブ

壁新聞のタイトル:エコクラブの1年間楽しかったよ!

R1-05-01

ひろおもてエコクラブのみなさんへ

師範から一言!

メンバー同士が一年間、仲良く楽しく活動できた様子が伝わります。低学年のメンバーは自分が感じたことをていねいに書いていると思いますし、高学年のメンバーは、経験したこと・感じたことから、自分が考えたことを書いていると思います。それぞれに個性があって、全員そろって「ひろおもてエコクラブ」だなと感じました。

プラザクリプトンでの活動で、多羅葉(タロヨウ)の葉っぱに文字が書けたのは楽しい活動でしたね。そうゆう葉っぱがあることは知っていましたが、名前は初めて知りました。昔の人も、文字が書けることを発見した時には、みなさんと同じようなおどろきがあったでしょうね。

クリーンアップでは4.5kgものごみを拾ったとのことで、地域がとてもきれいになったと思います。「地球全体をきれいにする」はむずかしいですが、まず自分の身の回りから始める、というのはすばらしい考えだと思います。そうやって考える人がもっと増えれば、地球全体がきれいになりますね。

とっておきのゴシドウ★

「水辺の観察」ではたくさんの生き物を見つけることができました。他の川でも調べてみたり、次の年も調べる機会があれば、今回の結果と比べてみるのもいいですね。

みなさんは活動の様子をていねいに書いているので、クラブ内で読みあって感想を聞いてみるのもよいと思います。その時の楽しい活動を思い出したり、新しい発見をしたりするかもしれませんよ。これからも楽しく活動を続けていきましょう。



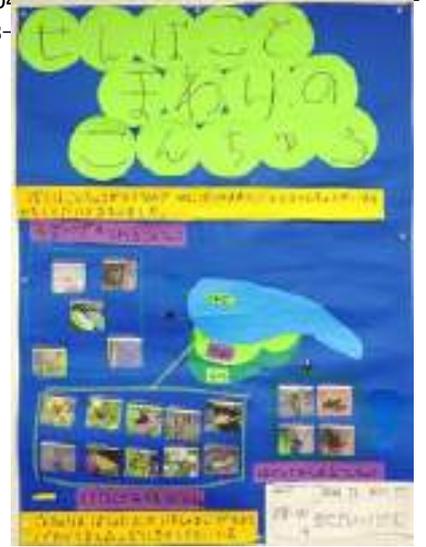
茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

R1-08-01 R1-08-02 R1-08-03 R1-08-04 R1-08-05 R1-08-06 R1-08-07 R1-08-08 R1-08-09 R1-08-10 R1-08-11 R1-08-12 R1-08-14(県1位推薦) R1-08-15 R1-08-16 R1-08-

逆川子どもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

虫が大すきなことや、いっしょうけんめいに、かべしんぶんをつくったことが、わかりました。かべしんぶんを見ると、おりがみを切って、せんばこをつくってくれました。せんばこの形がよくわかりました。それから、せんばこのまわりに、草はらがあって、そのおくに林があるようすわかりました。とてもよくふうだと、おもいました。

水べと、草はら、林では、虫のしゅるいがちがうことがわかりました。大はっけんだとおもいます。さらに、ばしょによって虫のしゅるいがちがうのは、どうしてかな？と、ぎもんをもつこともできました。水べの虫の子どもは？草はらの虫はなにを食べているのかな？どんな虫が林におおいのかな？など、かんがえていくと、ぎもんをかいけつできるとおもいます。ことしの夏も、虫をしらべてみてください。



サポーターへのおきゴシドウ★

昆虫が大好きな様子分かる壁新聞でした。新聞では、場所の違いによって、生息する昆虫が違うことを示してくれました。とても、すばらしい発見だと思いました。ひとつのことが分かると、さらに新しい疑問が生まれてきます。場所による種類相のちがいに疑問を持ったのも、自然の仕組みの理解が、一歩すすんだことからでしょう。この先、昆虫をチョウや、コウチュウ、トンボといった分類群で分けてみたり、生息数の差を比べてみたり、さまざまなアプローチが考えられます。疑問を持ち、それを解決していくという学習スタイルを習得することは、今の子どもたちに求められている資質でもあります。さらに調査し、解明していくことを期待しています。

壁新聞のレイアウトについては、千波湖とそれを取り巻く環境を、うまい具合に表すことができました。空白の箇所があったのは、ちょっと残念でしたが、調査が進みデータが蓄積されると、紙面に納まらなくなってくるでしょう。さらに、バージョンアップした壁新聞を見たいと感じました。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

ひぬま川げんりゅうの生きものが、一目でわかりました。とても見やすいかべ新聞にまとめることができました。水辺にはヘビトンボやコオイムシ、アカハライモリなどが見られ、林にはオオムラサキやカブトムシなどが生息していました。とても自然がゆたかな山だということがわかります。ひぬま川は、そんな山からながれでるのですから、きつとすてきな環境がのこされているのだなと思いました。

かべ新聞には、いろいろな工夫も見られました。地図があったので、県外の人にもひぬま川の場所がすぐわかりました。いきものの写真には、“絶滅危惧種”と“準絶滅危惧種”のくべつが分かるようにしていました。いきものを、かんさつしている写真もあり、がんばる姿を見ることもできました。

ひぬま川げんりゅうをしることで、ひぬま川のゆたかな自然をまもるには、どうしたらよいかについて、考えることができました。これからも、いろいろなことを調べたりたいけんしたりして、しぜんを大切にすることをそだてていってください。



とっておきのゴシドウ★

涸沼川源流の様子を記し、そこで観察した生きものを紹介、最後には感想を述べることができました。内容が精選されて、伝えたいことを端的に表すことができた壁新聞だと思いました。山から川が流れ出る様子を描いたり、生きものを写真で示したりしたので、言葉で説明しなくても分かることがたくさんありました。ワンポイントで「みどりのダム」の説明などを加えた点もよかったです。涸沼川をととても愛おしく思っている様子が伝わり、筆者がなぜ涸沼川源流を調べたくなったのかを知りたくなりました。

涸沼川源流の自然を知ることによって、新しい考えや、疑問が生じたのではないのでしょうか？その気持ちを大切に、次の活動につなげてほしいと感じています。次は、どんな調査を行うのでしょうか。ワンステップアップした壁新聞をお待ちしております。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

サケレンジャーのかつどうのようすが、よくわかりました。さくら川に入って、いっしょうけんめいちょうさしている姿もりっぱです!

「サケのとくちょう」や「なか川のサケのれきし」のないようは、とてもべんきょうになりました。サケは、川と海を行ったり来たりしていることを知らない人が多いと思います。役に立ちました。それから、日本でさいしょにサケの人工ふかをなか川で行ったことも、はじめて知りました。

なか川のサケはたくさんいるけど、さくら川のサケがへっているのは、なぜでしょうか。かんきょうのへんかが、大きなげんいんだと思いますが、いろいろなことを考えてほしいと思いました。どうしたらゆたかなしぜんをまもることができるか、みんなでかんがえていきましょう。それから、おいしいサケをずっと食べることができるといいですね。



サポーターへのおきゴシドウ★

サケレンジャーの活動を分かりやすくまとめることができました。特に、「那珂川のサケの歴史」の内容は、“地域自慢”としてアピールできることですね。桜川のサケが減少している記事には驚きました。千波湖では水質改善のための取組が、いろいろ行われていますが、その効果があらわれていないのでしょうか?いろいろと原因が考えられると思いますので、これからの調査が期待されます。

それから、サケという生きものに対して、“食べる”という視点から見ることは素晴らしいと思います。私たち人間も、生きものを食べねばならぬ動物であることを認識することは大切です。食べ物を“おいしくいただく”姿勢も、環境保全を進める中で考えていってほしいことですね。

さて、壁新聞をつくる際に大切にしてほしい視点を一つだけ述べておきたいと思います。それは、不特定多数の人が見るということを考えてほしいということです。水戸近辺の方は、桜川といえはすぐ分かります。しかし、他県の方は、場所がよく分かりません。簡単な地図を入れるだけで、分かりやすさが一段とアップすると思います。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

水戸市指定天然記念物のヒカリモについては、震災後に減少してしまったと聞いていました。県立水戸二高の生徒たちが、ヒカリモが生息する洞窟を調査しているものの、復活したという話も聞いていませんでした。この壁新聞で、ヒカリモが再びみられるようになったと知り、とてもうれしく思いました。

ヒカリモが減ったり増えたりするのは、何が原因なのでしょう?少しの環境の変化も敏感に感じる生きものであることは間違いありませんね。どのように保全していくか考えるうえでも、最新的话题を壁新聞で広報したことは、とても意義あることです。ヒカリモについては、まだまだ分からないことがたくさんあります。ヒカリモを維持するために、どうしたらよいか、皆で考えて行ってください。期待しています。

最後に、ヒカリモを調査している様子も知りたい情報でした。次に新聞をつくる時には、活動状況にも、ぜひ触れてみてください。



とっておきのゴシドウ★

水戸のヒカリモの最新の現状を知らせる壁新聞として、いい記事だと感じました。“ヒカリモの生態”や、“なぜ光るか”など、ヒカリモを知らない人にも分かるような解説があったことも、評価できる内容です。また、地図や、年代の記述をしっかりと記してあったので、新聞として伝えるべき内容を、ほぼ網羅することもできたと思います。

見出しの配色や付け方、紙面のレイアウトなどは工夫する余地がまだあると思います。壁新聞づくりを続け、回数を重ねるうちに工夫すべき点が見えてくると思いますので、この活動は継続して欲しいと思いました。

ヒカリモの生態的なことに関しては、まだまだ解明すべき点が多いと思います。児童・生徒の地道な観察から、大きな発見を導くことも多々あります。また、大発見がなくとも、自然を見る目は養われますので、調査や研究を続ける意義は大きいと思います。逆川子どもエコクラブの皆さんは、先輩からの伝統もたくさんあります。それらを引き継ぎながら、新しい発見を目指してください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑤の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

ひぬまようすが、くわしく紹介され、ひぬまの風景が思いうかぶような壁新聞になりました。特に、“きすいこ”のことや、“ラムサール条約とうろく地”であることを、きちんと説明しているので、ひぬまの特徴がとてもわかりました。また、ひぬまの地図をはってくれたので、その位置もよくわかりました。県外の多くの人も見る壁新聞ですから、とても役立つ情報だと思います。

それから、ひぬまについて壁新聞にまとめることで、自分のすんでいる宍戸のことも考えることができたと思います。宍戸小学校の前を流れるひぬま川は、ひぬまに通じています。ひぬま川の自然が守られることで、ひぬまの自然も守られることに、気づいたのではないのでしょうか?ひぬまが、ラムサール条約とうろく地にしていされたのは、多くの人ひぬまの自然を大切にしてほしいというねがいからです。宍戸の自然を守りながら、ひぬまや茨城の環境、そして日本や世界の環境も考えてほしいと思いました。



とっておきのゴンドウ★

涸沼の自然を概観できる壁新聞として、簡潔に仕上げることができました。特に、自分との関わりで、宍戸と涸沼の関係にも触れたことが良かったと思います。自宅からは離れた涸沼ですが、涸沼川を通してつながりを感じることができたことでしょう。自然は多くの生きものの連鎖の中で保たれているものです。そんな、ダイナミックな自然の営みを感じながら、涸沼を見つめてほしいと思いました。

それから、地図や活動の様子などの写真が、分かりやすく掲載されていました。中でも宍戸小学校の前の涸沼川は、とてもきれいに見えました。目の前に、自然観察しやすい環境が備わった学校を、うらやましく感じました。

壁新聞を仕上げるにあたっては、自分と涸沼の関係を記すと、訴える内容が明確になったと思います。「なぜ涸沼を調べようと思ったか」など項目があれば、良かったのかもしれませんが。生きものの紹介の前に、中タイトルを付けるような工夫もできそうです。最後に、ヤマトシジミとヒヌマイトンボの解説が逆になっていました。注意しましょう。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑥の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

千波湖の周辺には、結構多くの植物が生育しているのですね。千波湖のイラストの周りに、観察した植物の写真を張り付けてくれたので、どんな植物が生育しているのか一目でわかりました。中でも、環境省レッドデータで準絶滅危惧に指定されているタコノアシが見られました。千波湖は大きな町に隣接した湖ですが、適度な草刈りなどを行っているので、良好な環境が保たれているのだと感じました。

分かったことを見ると、千波湖の南側に植物の種類が多いことを発見しました。とてもすばらしい発見だと思います。今度は、なぜ南側に植物が多いのかを考えてみてください。日当たりのせいなのか、それとも道路などの人工物が影響するのか…、原因はいろいろありそうですね。理由を考えていくことが、自然を保全するための第一歩になると思います。ぜひ、原因を考え、千波湖の自然を守ってってください。期待しています。



とっておきのゴンドウ★

千波湖の植物相を見渡すことができました。単調に見える湖ですが、意外にも多くの植物が見られることに驚きました。特に、タコノアシなど準絶滅危惧に指定されている種などが見られる自然が残されていることを知り、千波湖の環境を維持・管理してほしいと感じました。

壁新聞を見ていると、千波湖の植物相の特徴をもっと知りたいという欲求が芽生えてきました。今回紹介された植物をよくみると、もともと千波湖に生育していたものと、持ち込まれて生えたり植栽されたりしたものがあると思います。また、水辺に生育しているか、その周辺に生育しているかのちがいも見えてきます。観察した植物を、いろいろな視点でクラス分けすることで、新しい発見があるはずですよ。ぜひ、観察した植物のなかま分けをしてみてください。

ひとつのことが分かると、さらに新たな疑問が生まれるものです。壁新聞にまとめることで分かったことを、さらに発展させて、千波湖の自然の特徴を解明してってください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑦の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

涸沼川の上流で行った生きもの調査の様子や、壁新聞を作成しようと思った動機、調査のまとめなどが、順を追って記されていたので、とても分かりやすい紙面構成となっていました。涸沼川上流のきれいな自然を再認識した様子も、うかがうことができました。それから、調査した地点を地図で示した点、見られた生きものを分類群ごとに整理した点など工夫の跡が見られました。特徴的な生きものとしてカワムツとヤツメウナギに示したワンポイント解説も、注目して見ることができました。いろいろな個所に、ちょっとした工夫が見られました。

さて、この壁新聞で訴えたいことをなんでしよう? 涸沼川の豊かな自然についてでしょうか? 訴えたいことを考えたとき、このタイトルでよかったかどうか、もっと目を引く題名でもよかったかもしれません。人に何を伝えたいか考えることも大切です。



とっておきのゴシドウ★

壁新聞作りのきっかけ、調査の方法や結果、そのまとめと、一連の流れを簡潔にまとめて示してくれたので、分かりやすい構成の壁新聞として仕上げることができました。先にも記しましたが、細かいところにもちょっとした工夫が施されていました。字もきれいで、感心させられました。

調査と壁新聞づくりによって、涸沼川の豊かな自然が分かったのではないのでしょうか! ラムサール条約湿地として登録された涸沼の自然を保全していくためには、その周辺の自然にも目を向けていかねばなりません。つまり、涸沼川の自然を守ることも、涸沼を守ることに繋がってきます。壁新聞作りで気が付いた自然の大きなつながりの大切さを、さらにみんなに伝えるためにはどうしたらよいかを意識してほしいと思いました。さらにバージョンアップした紙面がつけられるのではないかと期待が持てます。体験したことを、人に伝えることは、自分の考えをまとめる良い機会ですね。何を伝えたいか、どうしたら効果的か、などプレゼンの基本的な事柄が壁新聞作りにも必要です。逆川子どもエコクラブのさまざまな活動を、まとめて報告する取組を、大切にしていってください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑧の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

ヒヌマイトトンボは、涸沼を代表する昆虫の一種ですね。茨城県全体を見渡した時も、大切に守ってきたい昆虫のひとつです。そのヒヌマイトトンボの発見の歴史や、生態について詳しく、かつ分かりやすくまとめてくれました。汽水域で生活するので発見が遅れたことや、天敵の紹介もあり、この壁新聞を見ればヒヌマイトトンボのことなら、何でも分かると思いました。ところで、私もヒヌマイトトンボを見たことがあります。とても小さくよわよわしいトンボですよ。小さなヒヌマイトトンボが、涸沼でたくましく生き残っているのは、とてもすばらしいと思います。そんなトンボを“ひぬまビオトーププロジェクト”で取り上げ、放虫したことを知りました。どんな様子だったのか、実際にヒヌマイトトンボでどう感じたかなどについて、知りたくまりました。

生きものを見たり触れたりする経験は、とても大切なことだと思います。貴重なヒヌマイトトンボとかかわった体験で得たことを、いろいろな人に広めていってください。



とっておきのゴシドウ★

ヒヌマイトトンボの生態について、写真を織り交ぜながら詳しく説明してくれました。ヒヌマイトトンボの解説記事として、とても分かりやすく、かつ見やすくまとめることができました。

ヒヌマイトトンボは、全国的にも絶滅の恐れがあり、レッドデータにも指定されています。自然の仕組みを考え守っていきこうとするとき、ヒヌマイトトンボのような昆虫を通して保全を考えていけることができますね。そこで、今回の体験で学んだことや考えたことを、ぜひいろいろなところで伝えていってほしいと思いました。そのためには、自分の考えを持つことが大切です。ヒヌマイトトンボをどうしたいのか、どんなことをすればよいのかなどを、考えてほしいのです。壁新聞のタイトルにも、その気持ちを反映させることができるでしょう。

自然を守るには、自分でできることもあれば、多くの人の協力を得なければならないこともあるでしょう。みんなで考え、涸沼の豊かな自然を守ってほしいと願います。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ 壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑨の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

涸沼川の3地点の生きものの様子が、手に取るように分かりました。場所によって、魚の種類が大きく変わるようすが、一目で分かるように工夫されていました。川は下るにしたがって、小さな流れが集まりだいに大きな流れになってきます。周囲の風景も変わり、それにとまって川の生きものの種類も変化していきます。川の中だけでなく、大きなスケールでも自然の変化を感じ取ったと思います。

また、それぞれの魚について、くわしい解説をつけてくれました。特に、サケやニホンウナギは、涸沼や茨城での特徴を書いたくれたので、涸沼川の生きものの様子を知らる上で重要な記述だと思いました。魚ではありませんが、アカハライモリにも注目することができました。涸沼川の自然の豊かさを感じることができる壁新聞をつくることができましたが、ひとつだけリクエストがあります。新聞には大きな文字で「見出し」がありますよね。例えば、上流の生きものの特徴を示すような「見出し」があるといいと思いました。今度、壁新聞をつくる際の参考にしてください。期待しています。



とっておきのゴシドウ★

涸沼川の魚類相の変化がよく分かる壁新聞に仕上げることができました。魚の特徴を丹念に調べるなど、努力した跡もうかがえました。壁新聞にまとめることで、改めて涸沼川全体を見渡すことができ、自然の営みを強く感じることもできたと思います。壁新聞としては、先にも示しましたが項目ごとに、つまり今回の場合は川の調査地のちがいごとに「見出し」があると効果的だと思いました。できれば、見出しに続いてリード文があると、より新聞らしく見えます。全てを読まなくても内容の予想がつくような紙面構成を考えてみるとよいでしょう。

ラムサール条約湿地に指定された涸沼の自然を守るには、涸沼だけではなく流域河川を含めた広い範囲での自然保護を考えていく必要があります。自然のつながりを考えて、自分たちで何が出来るか、これからも考えていってください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ 壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

カビの生態や、カビの利用について詳しくまとめてくれました。カビの種類がたくさんあること、人の生活に役立つカビも多いことなどが分かりました。また、カビの増え方も参考になりました。それから、アオコがなぜ大量発生するかについてもまとめてくれました。これを解決することによって、千波湖の水質が改善されますね。

小さな生き物である菌類(キノコなど)や藻類(アオコなど)の働きが分かってきました。これらの生きものたちが、自然の中でどんな役割を果たしているのか分かってくると、どうすれば環境を守れるかが理解できてきます。いろいろな生きものについて、これからは調べて行ってください。壁新聞としては、何を伝えたいか考えることが大切です。アオコを減らしたいことを伝えたいなら、「アオコを減らすには？」のようなタイトルにすると、壁新聞の内容が一段と理解できます。ちょっと工夫してみてください。



とっておきのゴシドウ★

カビとアオコについて調べ、まとめることができました。どちらも小さな生きもので、気づかないことも多いですね。カビの中には、人との関係が密接な種類が少なくないことにも気づくことができました。

さて、カビは菌類、アオコは藻類で、分類的には大きな違いがあります。アオコの発生とカビの増殖を同じ紙面で扱うのは難しいと感じました。

千波湖では、アオコの発生が問題になっています。この点について、千波湖での調査の様子なども含めてまとめるよいでしょう。

千波湖の再現実験は、とてもおもしろい試みだと思いました。ただ、アオコやヤゴが発生するにはその元となるものがあつたはず。どこからやってきたのか不思議に思いました。実験の方法などをよく吟味する必要があると思います。

アオコの発生原因を考え、自分たちでは何が行えるかを考えて行ってください。小さな取組でも、多くの人が行えば大きな成果につながります。期待しています。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

何かを行おうとするとき、その実態を知ることは大切です。自然環境を考えると、同じですね。千波湖の環境改善のために働こうとするとき、まずは千波湖がどのような湖なのかを知ることが大切となります。壁新聞では、このことを踏まえて、千波湖の現況をしっかりと調査・観察したことをまとめてくれました。千波湖の生きものの様子、水質の様子が要領よくまとめられたと思います。そして、そこから浮かび上がった問題を、3つに整理しました。外来種やアオコが増加していることや水質汚濁が進んでいることが、一目でわかりました。まとめでは、問題解決に向けての考え方や、自分たちの意見も盛り込むことができました。目的からまとめまでの一連の流れがスムーズで、読んでも分かりやすくまとめることができました。

千波湖の形を示して、調査地の様子をイメージさせたり、特定外来種のバックを赤で示したりしたことも工夫ですね。また、環境学習会の様子も入っており、みんなが調査している様子を知ることもできました。

千波湖は、逆川子どもエコクラブのホームグラウンドです。よりよい環境目指し、様々な取組をこれからも実施していきましょう。期待しています。



とっておきのゴシンドウ★

内容が精査され、コンパクトに分かりやすくまとめることができました。生きものや調査風景の写真を張り付けてくれたのも、壁新聞では効果的です。

ただ、模造紙を一見すると、自由研究の報告のような印象を受けてしまいます。そこで、ちょっとした工夫を提案します。それは、「目的」や「方法」…といった項目を、新聞風の見出しに替えることです。例えば「調査」というタイトルを「外来種が増えた千波湖の今」というような、内容が分かるような見出しにするのです。それを行うだけで、みんなが伝えたい壁新聞に変身すると思います。次に、新聞を作成する時には参考にしてください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

まず、新聞の名前が目を引きました。逆川子どもエコクラブのホームグラウンドの水戸にちなんで、「水戸黄門新聞」と名付けたこと、気に入りました。

さらに、壁新聞の内容を、水戸黄門が愛でた生きもの4種を説明しながら、自分たちの活動を紹介している点、にくい構成です。感心しました。それでは、それぞれの生きものについて見てみましょう。

サケについては、那珂川に遡上することは有名ですね。今回、那珂川の支流である桜川でサケが見られるようになってきた経緯を知ることができました。サケレンジャーの活動を改めて認識しました。

英宏の泉でのホテルの活動については、最近いろいろな場で知ることができました。しかし、みんなの活動地域を把握していなかったので、ホテルネットワーク・エリア図で示してくれたので、位置関係がはっきりしました。

ホトケドジョウは、千波湖周辺に広く生息しているようですね。国の重要湿地に指定されたとのこと、環境も含めて見守っていきたいです。環境が保全されれば、自然にホトケドジョウも増えていくことでしょう!

千波湖でワカサギの記録があることは知っていました。黄門様の時代には、たくさんのワカサギが採れたのではないのでしょうか? ワカサギがたくさん採れる環境にしていきたいですね。植物を植える活動、続けてほしいです。

それから、図や写真を効果的に使った点も評価できます。背景にも工夫があり、いくつかのアイデアに感心させられた壁新聞でした。



とっておきのゴシンドウ★

いろいろな工夫が盛り込まれた壁新聞です。内容も盛りだくさんでした。ただ、黄門さまが好きだった水辺の生きものに挙げた4種以外にも、紙面の両端に千波湖の魚を示しました。サケ、ホテル、ホトケドジョウ、ワカサギが充実していたので、その他の生きものを示さなくてもよかったような気がします。内容を精選するのも、壁新聞づくりでは重要になってきます。伝えたいことは何か焦点化することが大切です。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

逆川子どもエコクラブの活動も、国際的になってきましたね。2019年7月21日～24日に、韓国の釜山で開催された日韓子ども環境交流会に、参加したときの報告ですね。ウポ沼やトキ復元センターの様子がよく分かりました。私は、トキの生きた姿を見たことはありません。自然の姿を見てみたいと思いました。交流の様子も分かりました。食事の様子の写真が多く見られたので、韓国料理に興味があったようですね。私も何度か韓国に行ったことがあります。本場の韓国料理は、一段とおいしいものですね。新聞にはヤツガシラやカササギの写真が掲載されていました。日本では、なかなか見ることができない鳥たちです。実物を見ることができたのなら、それだけでも貴重な体験です。韓国には、日本にはいない生きものが見られますが、日本との共通種もたくさんいます。風景も、海外でありながら日本に似ているところがあります。韓国は、ユーラシア大陸と日本を繋ぐ生態的な特徴を持っていることなどに気付いてほしいと思いました。それから、世界湖沼会議で得られたつながりが、さらに広がっていると感じられました。このつながりを、大切にしていってください。



とっておきのゴンドウ★

活動の様子の写真を見ると、とても楽しそうに見えました。貴重な体験を積むことができたと感じました。しかし、日韓子ども環境交流会に参加した記述が書かれていないので残念でした。韓国のウポ沼を視察し、その時を写真で示してくれたので、活動の様子は想像できました。でも、なぜ、ウポ沼を訪れることになったのかなどの経緯や、訪れたメンバーの様子、訪問で得たことなど、韓国を訪れた経験の中で、他のメンバーに伝えたいことは山ほどあるのではないのでしょうか？その中の一つに焦点当ててもよいし、満遍なく紹介してもよいと思います。何を伝えたいかを考えて、新聞の構成を考えてみると良いでしょう。訪韓の経験は、誰でも行えるものではありません。いろいろな方法で、その成果を伝え広めてほしいと思いました。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑭の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

日韓子ども環境交流会に参加した様子が、手に取るように分かりました。交流会の様子をカレンダー風にまとめたのも工夫の一つですね。毎日が、貴重な体験の連続であったことが分かりました。新聞の構成に従って、内容をみてみましょう。リード文では、この交流会に参加するに至った経緯を知ることができました。逆川子どもエコクラブの地道な活動が評価されての韓国派遣です。世界の中の日本、そして逆川を感じてほしいと思いました。

韓国滞在2日目は、伝統の小舟にのり、ウポ沼の自然を観察しました。見ることができたキイトンボやオニバスは、日本でも見ることができ生きものです。韓国と日本のつながりを感じ取ることができました。同日行われた活動発表では、地元の子どもの活動も聞くことができ、有意義な1日を締めくくったことが分かりました。

3日目は、田んぼの生き物調査と、トキ復元センター、博物館の見学の様子を要領よくまとめることができました。

3泊4日の活動を、コンパクトに壁新聞にまとめることができました。それぞれの活動で、いろいろな事を感じ取った様子もうかがえました。中身の濃い4日間、この経験を今後の活動にも生かしていってください。



とっておきのゴンドウ★

内容豊富な韓国滞在記録を、わかりやすくまとめることができた壁新聞です。紙面の構成にも工夫があり感心しました。さて、韓国の釜山で開催された日韓子ども環境交流会に参加できたのは、これまでの逆川子どもエコクラブの活動が評価されたことですね。皆さんは、会の代表として参加して、とても貴重な経験を行うことができました。しかし、残念ながら韓国を訪れることができなかったメンバーがたくさんいることを忘れないでください。その友だちのためにも、韓国で得たことを、いかにメンバーに還元するかを考えていってください。壁新聞にまとめることも、一つの方法ですね。その他にも、いろいろな活動ができると思います。韓国訪問を、ステップにして、会のさらなる発展を期待します。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

英宏の泉の歴史が概観できる壁新聞に仕上げることができました。英宏の泉で、ホタルが復活し見ることができるようになったのは、これまでもたくさんの報告があります。歴史も長いので、報告の量もたくさんありますね。今回の壁新聞では、それらをギュッとまとめることができたので、一目で歴史がわかると思いました。特に英宏の泉の過去の姿を、3つのポイント、ゴミの量、どんな場所だったか、ゴミの種類に分けて記した点は、とても素晴らしいと思いました。活動の写真もインパクトがありました。捨てられた自転車の山の写真には驚かされました。皆さんのご苦労がしのばれます。

現在、栄光の泉の環境はとても安定しているようですね。ゲンジボタルの数も増えているようですが、今後はどのくらいの個体が生息可能なのか調べていってほしいと思いました。

壁新聞の最後には、これからの決意も記されました。なかまをどんどん増やし、環境について考える子どもが増えれば、未来はもっと住みやすい環境になるはずです。活動を続けていってください。



とっておきのゴシドウ★

内容を精選して、英宏の泉の歴史をまとめることができました。インパクトのある写真を入れることもできたので、興味をもって歴史を振り返ることができました。

リクエストをするなら、英宏の泉の基本的なデータ、つまり場所や活動した年代などを、簡単に触れてほしいと思いました。この壁新聞は、HPを通して全国の人に閲覧されます。そうすると、県外の人には英宏の泉の場所が分からないと思います。5W1Hを意識し文章を構成すると、伝えたい情報の主旨が明確になるといいます。5W1Hとは、Who(だれが)、When(いつ)、Where(どこで)、What(なにを)、Why(なぜ)、How(どのように)を示す言葉です。参考にしてください。

全国の友だちに見られることを考えると、ワクワクしてきますね。人の気持ちを考えると、もう一工夫できる箇所があるかもしれません。次の壁新聞づくりも期待しています。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

科学部の活動の様子が分かりました。活動の幅が、学校全体や企業にも広がっているとのことですね。これまでの活動が評価されたからだだと思います。

「エコを楽しく学ぼう」の囲み記事は、学校で行った文化祭のような行事の一コマでしょうか? 体験活動があったり、プレゼン発表があったり多彩な取組があったようですね。エコステーションの囲み記事は、サッカーJ2の水戸ホーリーホックの試合での活動ですね。多くの観客を迎えるので、活動を知ってもらいよい機会になったのではないのでしょうか! また、大勢の人に見られることで、やる気も出たことと思います。

工作の活動も行っているようですね。体験的な活動をする、話をするだけでは伝わらない興味や関心が高まります。参加者の熱心な様子は、楽しい体験活動を行っている証拠だと感じました。囲み記事の最後には、感想も述べられていました。“やりがい”や“達成感”を感じ取れたようですね。活動を続けていって、さらに広がりを見せていってください。



とっておきのゴシドウ★

内容を精選して、英宏の泉での環境保全活動を紹介してくれました。写真をたくさん使ってくれたので、みんなの活動の様子をつかむことができました。熱心に取り組んでいることが分かりました。

一方、新聞記事の内容がかんたんだったので、どのような活動を行ったのかが分かりませんでした。例えば「エコを楽しく学ぼう」の囲み記事では、学校行事のどのような場面で活動を行ったのか? 出展した団体は何か? など、知りたいことがたくさんありました。どのような内容を記したらよいか、相手のことを考える事が大切ですね。

新聞を作成するとき、5W1Hを意識し文章を構成すると、伝えたい情報の主旨が明確になるといいます。5W1Hとは、Who(だれが)、When(いつ)、Where(どこで)、What(なにを)、Why(なぜ)、How(どのように)を示す言葉です。これを参考にすると「〇月〇日の〇〇校の文化祭では、『エコを楽しく学ぼう』をテーマに8団体がブース展示を行った。…」というように、具体的な日時や内容を記すとよいでしょう。参考にしてください。

英宏の泉での環境保全活動は、広く評価されている活動です。これからの活動も期待しています。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル: ⑭ウポ沼日韓子供交流会

逆川子どもエコクラブ⑭の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

常磐の森再生プロジェクトの活動の様子がよく分かりました。何よりも、英宏の泉や公園協会西の谷とともに、千波湖を中心に活動が展開されているのがよく分かりました。活動を行う時にはシンボリックな目的があると、うまく進みます。ホテルを再生することを通して森を復活させようとする試みは、皆に受け入れやすい取組だと感じました。

壁新聞では、常磐の森の現状が簡潔に記されていました。そして、目的や普段の活動内容、最終的に地域の拠点づくりを行いたい事がコンパクトにまとめられていました。写真で活動の様子を伝えてくれ、皆の努力も感じ取ることができました。

これまでに、英宏の泉でのホテル復活活動については、ひとつの成功事例として、いろいろな所でお話をうかがっていました。それらを参考にしながら活動が行えることや、ホテルネットワーク mito を形成してなま作りができてきていることなど、活動のノウハウをいろいろな形で知ることができますね。これらの利点を大いに利用しながら、幅広い保全環境がすすむことを期待しています。



とっておきのゴンドウ★

常磐の森の再生活動の主体は、中学生だったのか高校生だったのか、それとも大学生だったのかを知りたくなりました。写真で活動の様子を知ることになったのですが、メンバーの姿を見ると、大人っぽく見えました。

さて、壁新聞の構成を見ると、要領よく内容をまとめたという印象です。伝えたいと思わせる内容、常磐の森の再生活動の概略が分かりました。ただ、まとめたメンバーが高学年とすると、工夫の余地があると思います。新聞には「見出し」や「リード文」があります。それらを紙面に入れるのも、ひと工夫ですね。また、伝えたい情報の主旨を明確にするためには、5W1Hを意識すると良いといわれます。これらのことを意識してほしいと思いました。

常磐の森のその後については、興味がわきます。活動の成果などを、いろいろな場で紹介してってください。

茨城県龍ヶ崎市 龍ヶ崎市環境楽習講座
壁新聞のタイトル: 令和元年 夏休み環境楽習講座

R1-08-18

龍ヶ崎市環境楽習講座のみなさんへ
師範から一言!

龍ヶ崎市で毎年開催されている環境楽習講座に参加した感想を、壁新聞にまとめて毎年投稿してくれています。はじめのころは感想を並べただけであった壁新聞が、年を追うごとにバージョンアップしていると感じます。

壁新聞では、まず龍ヶ崎がどこにあるのか、今回紹介する内容をどこで行ったかを、地図を使って紹介してくれました。この壁新聞がHPを通して全国の友だちが閲覧することを考えると、龍ヶ崎の位置を示すことは読み手をきちんと意識していると思いました。講座で行った活動は、8月1日の「親子 de エコ・クッキング」と、8月8日の「施設見学と空気砲づくり」ですね。これも、目立つ色のリード文で内容を紹介してくれました。それによって写真や感想の内容がさらによく理解できました。

写真の大きさを工夫したり、見学した施設のチラシを貼ったりしたのも、効果的でした。写真からは、皆が熱心に活動している様子がうかがえました。それぞれの感想を見ると、充実した体験をしたことが記されていました。記憶に残る夏休みの活動になったと思います。



とっておきのゴンドウ★

写真の切り取り方一つにしても、角を丸めたり幅や高さをそろえたりしています。工夫の跡が見られます。模造紙を三段に使用したのもよかったのではないのでしょうか。

環境楽習講座のまとめとして感想を記すことは、体験したことを振り返るのによい取組です。イベントごとにきちんと感想を残してってください。また、活動の様子を壁新聞にまとめることは、次の講座受講者への広報にもつながりますね。たくさんの方の受講者の感想を、壁新聞1枚にまとめるのは苦労も多いと思いますが、続けてほしいと思います。

壁新聞の体裁として、ひとつだけリクエストしたいと思います。新聞では、読者の関心を引くために「見出し」を工夫すると思います。環境楽習講座の活動内容や伝えたいことを代表するようなメッセージを、見出しに採用してはどうでしょうか! 次回の壁新聞づくりの参考にしてください。

八溝自然たんけんたいのみなさんへ
師範から一言！

5年目の投稿になるのでしょうか？サシバのすめる里山作りの報告、ありがとうございます。活動の様子が手に取るように分かる壁新聞を、今年も仕上げてくださいました。壁新聞では、“こどもエコクラブ全国フェスティバル”に参加した時の様子や、“国際サシバサミット”“夏休み学習会”“生きもの調べ”“川遊び”“草刈り”などの様子がよくわかりました。写真からは、みんなが生き生きと楽しそうに活動している様子がうかがえました。特に、こどもエコクラブ全国フェスティバルでは、大勢のギャラリーが見守る中、茨城県代表として堂々と発表している姿が印象的です。発表の準備や、たくさんの仲間との交流は、いい体験になったことと思います。この経験を、みんなと共有してほしいと思いました。それから、久慈川の生きものリストを見ると、きれいな水にしかない生きものが多いようです。八溝自然たんけんたいの皆さんの活動フィールドのすばらしさを、改めて認識する報告だと思いました。サシバだけでなく、それを含めたいろいろな生きものつながりを感じてほしいものです。



活動の様子を伝えたいという熱意が感じられる壁新聞です。コロナウイルス感染症の影響で、現在は活動が制限されているかもしれませんが、今できることを続け、来年も投稿してほしいと思います。期待しています。

とっておきのゴシドウ★

2019年は、渡ってくるサシバが例年より多かったようですね。皆さんの活動の成果が、徐々にあらわれているのでしょうか！森の幼稚園の活動も、おもしろそうでした。私も、流しそうめんを体験したかったです。いろいろな活動がたくさんあり、かつ楽しそうに取り組む姿を感じ取れました。内容が豊富な壁新聞です。そこで、ひとつだけリクエストしたいと思います。いくつもの項目があります。そこで、それぞれに目立つ大きさの“小見出し(タイトル)”を、付けてほしいのです。中身を読まなくても、内容見えるようなものです。それを付けるだけで、壁新聞で述べたいことが、より分かりやすくなるでしょう。次回の参考にしてください。

ボーイスカウト宇都宮第15団カブ隊のみなさんへ
師範から一言！

「だいたら坊の岩」伝説のある羽黒山でのエコキャンプでの経験がメンバーみんなにとっても印象に残ったのかな、新聞のほとんどがエコキャンプの報告ですね。自分の住んでいる山に伝説があるなんて、羽黒山は昔から地域の人に守られてきた山なんだろうな。だいたら坊と言う大男のこと気になります。そして、その羽黒山でのキャンプで、調理のときにそれぞれの組でどれだけガスを節約し、そしてゴミを出さないように考えて料理を作ったんだね。各班で順位を競い合う取り組みは、大変興味深い活動です。班ごとでいろいろ知恵を絞って工夫して実践したことでしょう。それでも、他の班のアイデアを聞くと、「そういう手もあったか！」と気づかされることもたくさんあったのではないのでしょうか。最後に順位を決めるのも大変だったと思いますが、1組が第1位になったのはゴミが少なく、ガスの使用量も少なかったからかな？でも3組のロコモコ丼おいしそう、食べてみたいなあ。次は同じ料理を作って競争するのも面白いかもしれません。



さらに、エコキャンプの後に1ヶ月間、省エネを実践して、どのくらい効果があったのか調べた調査も大変面白い記事です。表にまとめたのも良いアイデアだと思います。そうですか、これまで全くCO2のこと気にしてなかったんだ。地球温暖化防止には私たちの暮らしから出すCO2をどれだけ減らせるかが鍵なので、この調査をきっかけにこれからも意識してCO2削減をする生活を行なって下さい。

とっておきのゴシドウ★

「CO2削減の取り組み」の記事ですが、具体的にどんな省エネ活動をしたのか、表だけではちょっと分かりにくいのが残念です。他のエコクラブメンバーが、同じような活動を真似できるように、どんな活動をして紙やペットボトルなどのCO2を減らせたのか詳しく書いて欲しかったです。そして、どうやってCO2の量(重さ)を測ったのかも知りたいです。あとこの取り組み何人でしたのかな？そんな情報もあるとうれしいです。それから、ボーイスカウトのいいところは、中学生以上もメンバーとして関わり、いろいろな世代の人と関わることです。それぞれの活動報告も面白いけど、みんなを支えるサポーター役の人に注目して、活動の舞台裏じゃないけど、どんな人たちが活動しているのかインタビューしたりして、記事を書いてみるのもいいかもしれません。

環境未来館子どもエコクラブのみなさんへ

師範から一言!

4月から12月までの活動が順序よく並んでおり、さらにそれぞれの月の活動でも写真がたくさんはっており、活動の多様さが一目で分かります。さらに、折り紙の昆虫の飾りも可愛らしくレイアウトがキレイなので、とても目を引く壁新聞になりました。

壁新聞の作り方法もよく考えつきましたね。それぞれの月の活動について一人ずつ担当して記事を書いて、最後に1枚の壁新聞にまとめる方法を取ったように見受けられます。学校のようにいつも会える仲間で作るのはちがって、決められた日程で集まる仲間できている地域クラブだと、なかなか壁新聞作る作業も作るのが大変ですので、この方法は賢い方法の一つです。

壁新聞を作ると、毎月の活動の振り返りの機会になり、次の年の活動予定を考えるのにも大切な作業だと思います。

環境未来館子どもエコクラブの活動で、子供達はたくさんの生き物に出会い、たくさんの発見をしていますね。そして、工作など自分で作ってみる体験もたくさんあり、私もぜひやってみたいなあ、真似したいなあ、というものもあります。11月の「災害時を想定したポリ袋調理」は、どんな方法で料理したのかなあ。災害時に親子丼やポテトサラダ、味噌汁、それにデザートに水ようかんまであるので、とても豪華な食事ですよ。被災しているもしくは避難しているなか、こんな料理が作れるポリ袋調理ってどんな方法なのかな。とても気になりました。

とっておきのゴシドウ★

一年間の活動全部の報告でもいいけど、その中で一つ特集記事とかにして環境未来館子どもエコクラブ「一押し活動」として紹介する方法も考えてみてください。個人的には、今回の新聞からだと、ポリ袋調理の他にも、同じ11月の活動で、大学農学部付属部の牛舎に行った時のこともくわしく知りたいなあ、と思いました。なぜ、宇都宮市の学校で牛舎があるのか、牛は何を食べて育てているのか、育てられた牛は最後どうなるのか、高校生のみなさんはどんな想いで牛を世話しているのかなど、この記事からだけではわからない質問がどんどん湧いてきます。なかなか自分の地域内に牛舎のある人は少ないと思うので、ぜひ他の地域のお友達に詳しく教えてください。



清原ねいちゃーきつずのみなさんへ

師範から一言!

先生方の工夫や、意欲的な実験、そして、子供たちに自然や食の貴重な実体験の提供など、子どもエコクラブの仕組みを活用して素晴らしい取り組みをしていることが分かります。ですが、子どもエコクラブの趣旨からすると、子供たちが主役になれているかなというところが不安です。シタケの原木、トマトの栽培の仕方の実験など、子どもが主役となるのは、難しいように思います。先生方の取り組みと並行して、子供が主役として取り組めることを工夫されると良いと思います。写真を見ると、子供たちも楽しく参加しているのはわかりますが、もう少し子どもたちがメインに取り組んでいる様子も分かるかいいなあと思います。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

壁新聞としては、とてもきれいに仕上がっていると思います。文字もきれいできちんとそろっているし、イラストも素敵、全体のバランスも良いと思います。

写真を見ると、菌打ちなども子供たちがやっているようですし、シタケ・サツマイモパーティーに参加した子供たちも楽しそうです。推測はできるのですが、教育指導の報告の様な感じで、子供たちの“熱”が伝わって来ないように感じます。子供たちの言葉も、トマトの味の評価だけで、他の声は入っていません。もっと、子供たちのことを前面に出せたら良いと思います。きっと楽しかったんだろうとか、そのとき何を感じたんだろうなどと推測されることが、紙面で表現されていると良いと思います。



イオンとちぎチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言!

お米づくりの、重要な作業のいくつかに参加して、楽しい体験とともに、お米づくりの大変さ、できたお米の大切さなど、印象深く学べたようです。小さなメンバーもがんばって苗を植えている様子がよく伝わってきます。空き缶炊飯のご飯も、1合も食べるなんて、とてもおいしかったみたいです。(私も食べてみたかったなあ。)サバイバルのテクニックまで体験できましたね。とても良い企画だったと思います。「どろどろで気持ち悪い」という感想がありましたが、この田んぼは生き物にも大切な場所。栃木県のこの辺りは、田植えのころだけ、田んぼ以外の環境では見られない、ホウネンエビやカブトエビといった小さな生き物が発生する田んぼが多くあります。また違った視点で、田んぼを見ることができるので、観察会など企画してみても良いかも知れませんね。

サポーターへのおきゴシドウ★

写真の選択や配置などを含め、良いバランスになっていると思います。子供たちの感想も、適当に配置されていて、楽しく読めると思います。あとは、だんだん慣れてきて、イベントごとの枠の二重線がきれいに書けるようになったり、枠によっては、窮屈そうになっているところがあるので、そのところが改善されると、もっとノビノビ感が感じられて、さらに良くなると思います。

サポーターさんの評価かと思うのですが、すぐ下で「おいしい白米」とあるので、玄米のこと、否定的な面だけが書かれているのが気になりました。評価なしに書くとか、栄養面で白米に勝つことも書くなどの配慮があると良いかなと思いました。



真岡児童館やさしクラブのみなさんへ

師範から一言!

真岡児童館やさしクラブのコメントを以前も何度か書いてきましたが、まずは、クラブの多様な活動を継続して行なっていることに拍手を送ります。なんと、児童館ショップのエコ商品販売による寄付金が100万円に届きそうです。子どもたちのがんばりもすごいですが、裏方として動いておられるサポーターさんにエールを送りたいです。

また、このクラブのすごいところは、いつも海外との繋がり、交流があるところです。そして、今回の壁新聞は、海外の人に日本の環境活動の良さを見つけてもらう設定ですね。まずは、日本人である自分たちで日本の良いところを考え、その後ペルー、ブラジルのお母さんたちの意見を聞いているところも興味を惹かれます。とりわけ、まとめにあるように「日本の当たり前」が外国人から見ると「すばらしい」ことである、そのことを気づくこと自体がとても良い経験になっています。とりわけ、「トイレがキレイ」とか「水道水」が安全、というのは日本が自慢して良い部分だと私も思います。

そして、日本のエコ活動のすばらしさを外国に知ってもらいたい、そういう気持ちも大切だなあとと思います。私もいくつかの外国に何年か住んだことがあります。外国の人は、まだまだ日本のことを知らない人が多いです。これからも、この壁新聞のように日本の良さを海外に伝えられるような活動もぜひ続けて行ってください。

とっておきのゴシドウ★

来年も引き続き、ぜひ「テーマ」を決めて、みんなの活動を壁新聞で紹介して下さい。テーマが変われば、同じ活動でも伝えたいこと、伝わるが変わってきます。ぜひ、次回も違う視点で壁新聞を作ってほしいです。そして、真岡児童館やさしクラブの一番の武器は、身近なところに外国人の仲間がおり、お互いに交流できていることです。海外の人も巻き込んで「ワンチーム」で環境活動を広げていけるクラブはまだまだ少ないと思います。全国の子どもエコクラブのリーダー格として、長年言われ続けている「Act Locally, Think Globally」の環境活動をこれからもどんどん広げてください。そして近年国連で決められた世界共通の17の目標であるSDGs(Sustainable Development Goals)の視点を持ってこれからも子どもエコクラブ活動頑張ってください。今後も期待しています。



森の小人のみなさんへ
師範から一言！

今年は、足尾の植樹デーが中止になってしまい、残念でしたね。でも、これまで植えた樹はしっかりと育っています。みなさんの活動も、たくさんの分野の活動を地道に続けられていてすばらしいと思います。環境フォーラムでの発表など、毎年準備されるのも大変だと思いますが、立派に継続されているのですね。ガールスカウトのエコクラブということで、毎年メンバーも少しづつ替わるのにしっかりと活動が引き継がれていることは、本当にすばらしいですね。サポーターのみなさんも大変努力されているのでしょね。足尾の植樹、再開されたら、私も絶対参加しますので、また、現地でご一緒に活動しましょう。

とっておきのゴシドウ★

エコリンピックとは、また、なかなかおしゃれなまとめ方をしましたね。グッドアイデアです。見るほうにも、「ああ、こんなこと、あんなこと、いろいろな取り組みをしているんだ。」ということが、分かりやすく伝わります。参加したメンバーの感想も、初めてで印象に残ったこと、これからも、こんなことをしたいという気持ちが素直に伝わって、とても良いと思いました。

フォーラムでの発表や、植樹など、これだけでも想像つくものがありますが、生き物観察など、「つれないとおもっていたけどつれた」、「水の中で生きる力をもっていてすごい」と感想だけでは、初めてこの新聞を読む人には、どんなことしたのかよくわからないこともあります。イベントなどは、簡単な紹介もあると、もっと分かりやすくなるとおもいます。



太田イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

2019 年は、いろんな活動を一杯しましたね。壁新聞でもいろいろ写真を使いながら紹介してくれてありがとうございました。写真の伝える力がわかったかな？

言葉や文字にも伝える力があるけれど写真や絵にもあるので、伝えたいことがいろいろあるときは、組み合わせながら進めることが有効です。

壁新聞を自分たちで作るとその伝え方の勉強にもなります。

山や海の自然の中に行くだけではなく、植樹や募金活動、ソーラークック体験、工場見学、ブース見学、清掃体験と一杯体験しましたね。楽しそうな様子が写真から伝わってきました。

いろんな体験をして感じたと思うけれど、その体験をしたり、継続して行ったらどんな良いことがあったり、続けるためには何が大切なのかということなんかも、学校の仲間やイオンチアーズの仲間、壁新聞を通じて全国のこどもエコクラブの仲間に教えてほしいと思います。

こどもエコクラブの活動も継続していくことが大事です。みんなのクラブでもがんばってください。

とっておきのゴシドウ★

山や海の自然の中に行くだけではなく、植樹や募金活動、ソーラークック体験、工場見学、ブース見学、清掃体験、植物の観察と一杯体験しましたね。

全体の紹介をしながら、みんなで相談して、「今年の太田イオンチアーズクラブ」の「金メダル活動!!」などと銘打って一番、全国のこどもエコクラブのみんなにしっかり紹介したり開設したりする記事を大きめでしてみたらどうでしょうか？

それぞれの活動のもっとうまくできる工夫点なども紹介したら自分たちにもわかりやすくなると思います。

少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。



しらさわエコキッズクラブのみなさんへ

師範から一言!

まず、タイトルを見てビックリしました!「環境問題をぶっ壊す」とは...インパクトありすぎですが、私はとってもよいと思いました。なぜかという、「SDGs」は、みなさんが調べてくれたように、まだ日本では知られていませんが、世界で力を合わせ、2030年までに達成(たっせい)しようとしている大切な問題です。この大きなテーマに注目し、興味(きょうみ)を引くタイトルをつけたのは、さすが!だと思います。

内容も、「SDGs」という、一見(いっけん)、むずかしそうなテーマを身近な行動につなげてわかりやすくまとめています。例えば、「NO.16 平和と公正を全ての人に」と聞くと、「平和な日本では関係ない話かな?」と思ってしまいがちです。しかしみなさんの考えは「いじめをしない」、その通りです。人がお互いの気持ちを考えて助け合っていけば、仲間はずれをしたり、差別しない平和な世界になりますよね。だったら、がんばろう!と思えます。

また SDGs を学んで、みなさんが気づいたのは「しらエコは、SDGsがかかげられる前からこのような活動を行っている」ということ。みなさんの人にも環境にもやさしい取り組みは、世界中の人々が望む未来につながっています。これからも活動を続けていて欲しいです。

とっておきのゴシドウ★

みなさんは感想として、「SDGsを広めていきたいです」と書いてくれました。ではさっそく、行動しましょう!

自分たちができることは?そう、白エコの活動をしっかり進めること。また、みなさんが考えた『私の町のSDGs』を、大人の方に伝えていきましょう。「ポイ捨てをさせない、ごみをひろう」「川を守る」「友達を大切にする」「省エネを心がける」など、たくさんの行動がありますね。

しらエコのある群馬県白沢の一人ひとりが、生活の中で、学校で、仕事場でちよつとずつ行動を広げれば、ゆたかな自然のなかで、みんなが笑顔で幸せに暮らす町になるでしょう。そういう世界を「SDGs」は目標としています。



浦和実業学園中学校社会科部のみなさんへ

師範から一言!

発足して一年目で壁新聞に応募して下さってありがとうございます。大変わかりやすくていねいにまとめられていますね。活動内容も、助成金をもとに、外部との交流や学びもあり、中学生・高校生の活動として、申し分のないものだと思います。

環境学習を通して、学校外の社会や環境とのつながりを意識できる教育や主体的な興味を引き出す体験が必要と感じていましたが、それを立派に進められていて、とても頼もしく思いました。

今年1年の活動を踏まえて、今後の活躍がとても楽しみです!

とっておきのゴシドウ★

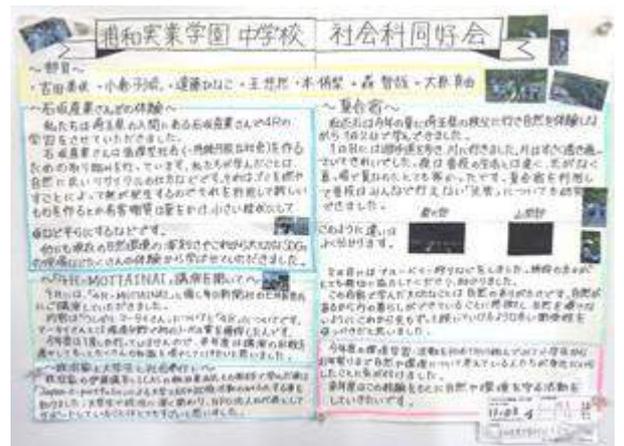
企業やNPO、自然体験など、様々な活動をこの1年間で行ってきて、それを整理するのも大変だったと思います。

特に大きなテーマとして、4R学習のことをしっかり学ばれたことが書かれていますね。

実はこの4Rに、「Write(書く)」を加えて5Rという言い方もあります。それだけ、環境活動を実際行うことに加えて、その活動を報告し、社会に発信することが大切になります。この壁新聞もそうした「Write」活動の一環になりますね!

また、壁新聞の最後に、「小学生からお年寄りまで環境について考えている人がいる」ことをお話されていますが、この壁新聞でも、小さな子どもたちから専門家までたくさんの人の目に触れます。そのため、読み手についてもいろいろ想像して、情報発信の工夫をしてみてください。

例えば、先程の「4R」も、小学生はわからないかもしれません。光害についても、写真だけではなにが害となっているのか、どういう研究だったのか、もっと知りたいと思う人もいることでしょう。そうやって、読み手や情報発信先をしっかりと意識することで、もっと情報発信が楽しくなると思いますよ。



竹の子エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

竹の子エコクラブさんは、山から川まで、とってもたくさんの活動を行っていますよね！そんな多様な活動をとってもわかりやすくまとめられていて、素晴らしいです！まずは壁新聞のタイトルのデザインもおしゃれで目を引きますね。デザインを高めることによって、それだけ注目されるわけですから、とっても大切な工夫です！また、活動内容の紹介では、「タイトル」にも工夫して、とてもわかりやすく整理していますね。内容が一目瞭然です。よくよく活動の目的を理解した上で体験できたことがよくわかります。こうした書き方は、とてもわかりやすいので、はじめてみた人でも、とても勉強になりますね。自分で得た経験を、わかりやすく伝えることは大変難しいことですが、がんばりました！そして、すべての活動について、ちゃんと感想や活動の意味を述べていますね。みんなに理解してほしい、環境を大切にしてほしいという願いが、とてもよく伝わってきました。

とっておきのゴシドウ★

今回は、一年間で行ったたくさんの環境活動を整理して報告していただきました。活動報告として、とてもよくできていると思います。

その上で、こうした活動報告を見てもらって、どういう子どもたちの集まりなんだろう？ステキな森の写真だけど、どこにあるんだろう？とそんな気持ちも湧いてきました。

特に、野生の生き物調べなどは、地域によって、生息する生き物も違うため、日時や場所というのは、とても大切な情報です。こういう情報をしっかり示しておくことによって、別のクラブの環境活動の参考になったり、活動が広がったりします。

ぜひ、自分たちの活動グループのことや、活動した場所の自然情報も一緒に紹介してみてください。地域の自然のことがもっと発信できるようになりますよ！



MIYASHIRO エコ☆スターズのみなさんへ
師範から一言！

ステキなイラストがたくさん入っていてとても楽しい壁新聞になりましたね！たくさんの人達にみなさんの活動が楽しく伝わる新聞になったと思います。こうしたイラストは、小さい子でも気持ちを表現できるととても良い方法だと思います。

特に今回、よく目立っていたのが、切り貼りで作った温度計のイラストですね！具体的に環境問題を示す大きなメッセージになったと思います。

また、最初に自分たちでできることを宣言し、年間の活動をわかりやすく書くことで、活動をしっかり伝えることができていますね。

そして最後には、自分たちの活動をして感じたみんなの感想がまとめられていました。私達がどういう未来を描いているのか、何をのぞんでいるのか、社会にメッセージがしっかり伝えられていました。最後までとても希望を感じるステキな壁新聞でした！これからもがんばってください！

とっておきのゴシドウ★

今回の新聞タイトルは、「みんなでためよう エコパワー」ということでとても元気のあるテーマだと思います。でも他に「エコパワー」の言葉が使われていたのは、温度計の上にあるイラストだけだったので、テーマについては、しっかりと本文でも説明があってもよかったかなと思います。

特に新聞タイトルが一番強いメッセージなので、タイトルと記事を合せていくと、しっかり情報が伝えられる新聞になると思いますよ。

また、今年の活動では、企業の取り組みの感想を多く書かれていたので、たくさんのことを学ばれたと思います。そんな企業の取り組みについて、壁新聞では、緑化やティッシュ等の商品を紹介されていますが、もう少し説明を多くできれば、最後のこどもたちの感想が伝わってくるとおもいます。

今の環境や社会について、こどもたちがどう感じているかは、大人のみなさんも、とても気になる場所だと思います。子どもたちの想い(エコパワー)と社会の力が合わせ、未来をつくってください。これからの活動も楽しみにしています！



ななちゃんズのみなさんへ

師範から一言！

元氣いっぱいのななちゃん、こんにちわ。

「元氣がたっぷりの新聞」だね。一年間に活動したことを日記みたいにじょうずにまとめているね。がんばっているななちゃんのようにすがよく分かるよ。とてもいいですねえ。楽しんでるエコまるくんもいっしょに登場させてくれて、どうもありがとう。

元氣に木登りしたり、夜の森を観察したり、大きなかかしを作ったり、いいことばかりだね。「うれしかった」や「楽しかった」がたくさんある新聞だね。とてもうらやましいなあ。読んでる人も楽しくなるよ。ありがとう。これからもいちかわの森を探検して、昼の昆虫も、夜の昆虫も、目で見て、耳で聞いて、鼻で嗅いで、手で触って観察して、ななちゃんが楽しんでほしいなあ。ななちゃんの大発見がたくさんあるといいなあ！

とっておきのゴシドウ★

「へんしゅうこうき」で、ななちゃんのやさしい気持ちがよくわかったよ。とてもいいですねえ。虫たちが住むための森がなくなって、ひとの食べ物もなくなると悲しくなるよね。虫は地球で生活する「たいせつななかま」、虫たちが住みにくい地球はひと住みにくいと思うなあ。森の中で生き物を観察して、森や山を大切にすることになったことはとてもすばらしいことだよ。がんばったね。

ななちゃんは森や山をよくしていくためにはどうすればいいと思ったのかなあ。次は、森や生き物を守るためにななちゃんがやっていることを知りたいなあ。楽しみに待っているよ。



津田沼イオンチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

太陽についての学習では、核融合反応や放射といったむずかしい言葉がたくさん出てきますし、1600 万度とか 2400 億気圧という数字はイメージできなかったのではないのでしょうか？そのようなむずかしい内容でも、自分で考えながら文章を書き、ていねいにイラストを描くことで学んだことが身についたと思います。

太陽の光エネルギーを使った太陽光発電について、太陽光パネルが熱に弱く真夏の発電量が少なくなることがグラフをかいてくれたことで、とてもよく分かります。また切り干し大根作りでは、太陽の熱エネルギーを実感できたと思います。“作成メンバー後記”にとってもよい“気づき”を書いてくれました。

植物の葉が太陽の光をあびるために、重ならないようになっているのは感心します。森の中にはいったら上を見上げてみてください。たくさんの木があると、となりの木の葉がないところに自分の葉を広げています。低い木はどうしても高い木の下になってしまうために少ない太陽の光でも成長できるものがあります。

とっておきのゴシドウ★

九十九里浜の植樹活動では、クロマツ、マサキ、トベラ、アキグミなどを植えたのですね。海岸では木に潮風が当たるため、潮風につよい木を植える必要があります。潮風によわい木の葉に塩がついてしまうと葉がかれてしまったり、土の中に塩分(えんぶん)が多くなると水をすいあげることができなくなったりします。海岸からはなれた場所でも数年前の台風のときに、海からまきあげられた水が暴風(ぼうふう)によってはこぼれてきたため、葉が茶色くなって、かれてしまったこともありました。

谷津干潟の清掃活動では、漂流物だけでなくアオサも撤去しているのですね。どれくらいのアオサが干潟をうめつくしているのでしょうか？撤去する前と後の写真があれば、見てみたいと思いました。干潟はいろいろな生き物がくらすゆたかな生態系(せいたいけい)であり、水鳥にとっても大切な場所です。アオサの悪臭は人にとっての問題ですが、アオサだけが増えすぎてしまうことは他の生き物にもえいきょうが出てしまいます。谷津干潟にアオサがふえるようになったのはいつ頃からなのでしょう？そして何故ふえてしまったのでしょうか？この記事を読んだ人たちがいろいろと知りたいことができて、関心をもつようになりそうです。



しろくまキッズのみなさんへ
師範から一言！

太陽は光のエネルギーと熱のエネルギーをもっています。太陽光パネルは光エネルギーをりょうしたもので、ソーラークッカーは熱エネルギーをりょうしたものです。ソーラークッカーではカレー、ポップコーンや目玉焼きなどいろいろなものを作りましたね。台所で火をつかわなくても料理ができるなんて、太陽のエネルギーってすごいと思いませんか？！

太陽光パネルが市内でたくさん見つかったようですね。ふだん気づかないものでも、さがしてみるとたくさんあることに気づいてびっくりすることがよくあります。新聞にかいてくれたように、“環境破かいになるような所”にパネルをつけないようにと教えてくれたことはすばらしいです。太陽光パネルをおくために、自然をこわしてしまつては環境にやさしいとはいえませんが、これからも、どうすれば環境にやさしいか考えてください。

ソーラークッカーを使った3つの実験はとてもおもしろいです。時間や温度といった数字をつかって説明してくれているので、実験のようすがよく伝わってきました。とくに水の温度変化のグラフは、“新たに調べたいことに”に書いてくれたような“沸騰する時間や天気との関係”を調べるときに、この新聞のグラフとくらべることができるので役に立つと思います。水の量によっても温度が変わるので、沸騰しなかったら水を少しへらしてみるといいと思います。



とっておきのゴシドウ★

ジオアクションで、いろいろな土にさわると経験ができてよかったですね。見た目では同じような黒い土でも、どんなものでできているかによって、手ざわりも水のとおりかたも変わってきます。ベランダの土は花や植物(しょくぶつ)をそだてるための土ですね。さて森の中にある土は、砂とベランダの土のどちらににていると思いますか？森の土とくらべるときは、砂とベランダの土、森の土においもかいでみてください。

千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ1

壁新聞のタイトル:①エネルギー新聞 ～⑧知ってる？自然エネルギー新聞

R1-12-04～11 (全8枚)

入船っ子エコキッズ1-①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

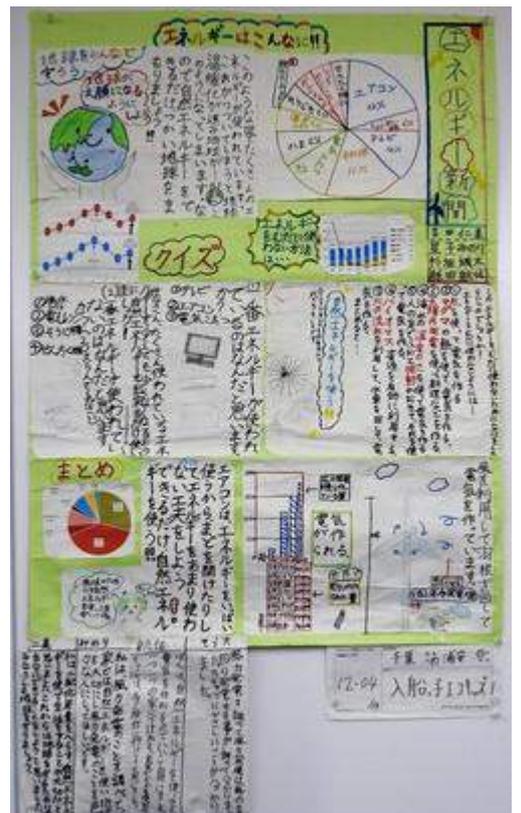
いろいろな自然エネルギーがあることを調べてくれましたね。数字をくらべるときに円グラフ、おれ線グラフ、ぼうグラフなどをつかってあらわすのはよい工夫だと思います。ところで、“物のエネルギー”のグラフに書いてくれたパーセントは何をあらわしていますか？物を使ったときに必要なエネルギーとか、〇〇に住んでいる人が△△年に使うエネルギーとか説明があるとさらに分かりやすくなります。

“エネルギーをむだに使わないようにしましょう”と気づいてくれたことはよいことです。日本の今の生活であたり前のように使っている物が、世界中のどこでもあたり前というわけではありません。そして昔の日本でもあたり前ではありません。本当にその物が必要かどうかを考えることがまず大事です。必要な物であれば、使い方に気をつけて、新聞にも書いてくれたように「エアコンは、まどを開けたりしてエネルギーをあまり使わない工夫」をしたり自分たちでできることをしていきましょう。

とっておきのゴシドウ★

感想をみると風力発電にきょうみをもった人が多いようですね。電気エネルギーのほとんどが、羽根やプロペラを回転させることによって、発電機の中で電気が作り出されます。風力発電では、風がプロペラをまわしてくれます。”かざぐるま”に息をふきかけて、クルクルまわして遊んだことはありませんか？あのようなイメージです。

風力発電はエネルギーとして大きく期待されて年々ふえている方法ですが、ワシなどの鳥がぶつかってしまうという問題があります。なぜぶつかってしまうかということは、調査がつづけられています、人だけでなく生物ぜんたいのことを考えていく必要があります。



入船っ子エコキッズ1-②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

公害病のことも、地球環境問題も、ずいぶんたくさん調べましたね。大変だったかな。でも、両方ともまだまだ勉強することが、たくさんあるよね。新しく分かってくることもあるし…。

例えば、水を汚すことなら、目に見えてわかるもの、目に見えないもの(水銀なんかもそうかな。放射能とかもそうだね。)、最近では、マイクロプラスチックなんてもありますね。

地球温暖化の問題なら、もっと身近な日本での問題もあるよね。台風が巨大で強力になったり、ゲリラ豪雨なんかもあるよね。

ぜひ、これからも勉強続けてください。学んだことが、どんどん、自分の行動につながっていくと思います。

とっておきのゴシドウ★

新聞を見て、みんなが、発表なんかでするような言葉で書いてあって、みなさんが、学んだことを、ぜひ伝えたいなって思いが、とても感じられました。ですが、今度は、新聞を読む人にとっては、「一つ目は、〇〇病について照会(ここでは、紹介かな?)します。」と何度もくりかえされると、読みにくいかもかもしれません。少し、検討してみてください。

また、字を揃えることも、読みやすさにつながると思います。いったん線などを引いて書いて、後からその線を消すなどの工夫も良いかもしれません。「地球温暖化のえいきょう」の所では、言葉の途中で文字の太さが変わっています。こういうところでは、文字の太さはそろえたほうが、読みやすいです。

そんなところを、工夫して、次はメンバーが変わるかもしれませんが、また応募してくださいね。



入船っ子エコキッズ1-③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

『地球温暖化で、将来、気温がどれくらい高くなる?』、みんなが知りたいことを地球の平均気温と変化と予想のグラフで分かりやすく伝えているよ。とてもいいですね。

みなさんは、グラフを書いているときどんなことを考えたのかな。平均温度が1℃上昇する2060年はいくつかな、どこで、だれとどんな暮らしをしているだろう。その時のために、今できることは何だろう、今しなければならぬことは何だろうね。そのヒントが壁新聞の中にとくさんあったよ。たいへんよくがんばりました。『こりゃ、大変じゃ』、ほんとうだね。だったら、どうしよう。生活でやってはいけないことがあることもわかりました。緑がCO2を食べてくれるから森を元気にする、生活でエネルギーをなるべく使わないようにする、ガソリンを使わない車をつかう、再生可能エネルギーを増やす、どれも大切なことだね。読んだ人が温暖化のために行動してくれる新聞だよ。とてもいいですね。

とっておきのゴシドウ★

協力して壁新聞をつくって、それぞれのメンバーが温暖化防止について感じたことを書いているね。とてもいいですね。地球温暖化についてたくさんのことを学び、どのように行動したいかも考えました。がんばったことがよく分かる壁新聞だよ。

それぞれのメンバーが思ったことについて話し合ったことはあったのかなあ。みんなでどんな話し合いをして、グループとしては何が大切だと思ったのか、どのように行動しようと思ったのか、くわしく知りたかったなあ。いまこんなことをしているよという記事があるともっといいですね。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ1

壁新聞のタイトル:①エネルギー新聞 ～⑧知ってる? 自然エネルギー新聞

入船っ子エコキッズ1-④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

ごみについて、いろいろと調べましたね。家庭でもごみが増えているけど、その理由を調べようと思ったところがいいですね。身近な疑問から調べがはじまるのはとても大事です。そして、ごみをどうすればへらすことができるのかを調べたのはりっぱです。3Rだけでなく、5Rがあることも知ってよかったです。

イラストがいっぱいあるので、親しめる新聞になっています。多くの人に見てもらって皆さんの思いが伝わるといいですね。みなさんで工夫しながら楽しく作ったのが伝わります。

とっておきのゴンドウ★

ごみを減らすためにできることをいろいろと知ったので、ちょっとしたことでもいいので、できるところでどんどん実行してみてください。たとえば、家でおやつを食べるとき、一つひとつの小さな袋に入ったお菓子から出るごみや飲み物の容器のごみを減らすためにはどうすればよいかなど考えて実行するのであれば、すぐにできるでしょう。生ごみをへらすバケツや紙すきなどは家族に協力してもらってやってみるといいでしょう。そのようにしてごみを減らしたようすも新聞に書いてくれると、読んだ人の参考になると思います。

ごみを減らすためには、レジ袋や、いらないスプーンをもらわないなどまず「1. ことわる」。次にはつめかえ容器を使うなど「2. へらす」ことが大切です。そして使ったものは、もう一度使えるようリサイクルショップの利用などで「3. さい使用」したり、できるだけ「4. 修理」して使いましょう。使ってしまった容器などは「5. リサイクル」するなどごみを減らすことを、こどもエコクラブのなかまや家族といっしょにすすめていってください。みなさんもスーパーなどに使い終わった牛乳パックを持っていますか? 牛乳パックは、ティッシュペーパーやトイレトペーパーにリサイクルされるものが多いかと思われます。回収しているスーパーできいてみると教えてくれるかもしれません。

かべ新聞は、イラストやクイズもあって工夫しているのがわかります。みなさんの感想も書いてあるので思いがよく伝わっていますね。みなさんの活動を多くの人に伝えていってください。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ1

壁新聞のタイトル:①エネルギー新聞 ～⑧知ってる? 自然エネルギー新聞

入船っ子エコキッズ1-⑤の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

「地球温暖化が進むとどうなる?」、壁新聞を読む人にもたずねて、みんなで考えようとしているのかな。読んだ人もいっしょに考えて、みんなで行動しようと呼びかけているのだね、すばらしいなあ。『温暖化新聞』は地球温暖化について、たくさん調べてじょうずにまとめているね。とても分かりやすい壁新聞だよ。がんばりました。

地球温暖化についてたくさん学習して、一番の原因は二酸化炭素であることを知り、どうすれば、地球温暖化をなくせるかを考えたのだね。できることは何だろう。ちょっとの距離なら自動車に乗らない、トレーをなるべく使わない、ものを大切に燃やすごみを少なくする。とても、いいことに気が付いているよ。このようなことをみんなでやって、温暖化はなくそう。

とっておきのゴンドウ★

みなさんが、読む人にいちばん伝えたいことは何だろう。どのようにしたいと思ったのだろう。その思いは壁新聞の見出しにもある「地球温暖化にはさせない」だったのかな。その言葉には強い決意を感じるよ。とてもいいですね。

温暖化のことを調べてたくさんを知ったよね。学んで、どのようにしたいと思ったのかな、そのためにどのように行動しているかが知りたかったなあ。そこで、感じたこと、分かったことを壁新聞に書いて、たくさんの人と話し合っしてほしいなあ。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ1

壁新聞のタイトル:①エネルギー新聞 ～⑧知ってる?自然エネルギー新聞

入船っ子エコキッズ1ー⑥の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

『しろくまがあぶない?!』、「しろくまタイムズ」、壁新聞に大きく書かれた文字で、しろくまがどうしたのだろうと思わず読みたくなるよ。とてもいいですねえ。どうして、しろくまがあぶないのかを調べて、くわしく説明しているね。「しつ問しろくま」もいいですねえ、分かりやすくするための工夫がたくさんあるとてもいい壁新聞です。がんばりました。

「しろくまを守るため、どう行動するの?」についても書いているね。自分たちにできることは何だろう、何をしなければならないのだろうも伝えています。エコバックを持ち歩く、シャンプーも詰め替えを使う、ペットボトルを買わずに水とうを持ち歩く、どれも素晴らしい対策だよ。大切なことに気づいているよ。いいことばかりです。行動した結果についても、もっとくわしく知りたかったなあ。

とっておきのゴシドウ★

五人の気持ちがよく分かるとてもいい新聞です。みなさんは壁新聞をつくる時、メンバーでどんな話し合いをしていたのかな。「しろくまタイムズ」でなにを伝えたかったのかな。しろくまのこと?温暖化のこと?オゾンホールのこと?思い出してみよう。五人で話し合った内容が新聞から読み取れるかな。新聞を作るために、たくさんのことを調べて、たくさんを知り、たくさん話し合いをしたと思うよ。『しろくまがあぶない?!』ことを知り、大きな見出しにしました。調べて分かったことや感じたことをたくさん書いています。だから、グループとしてどうしようと思ったかの意見も欲しかったなあ。しろくまのためにみなさんがどんな活動をして、どんな大発見をしたのかも知りたいなあ。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ1

壁新聞のタイトル:①エネルギー新聞 ～⑧知ってる?自然エネルギー新聞

入船っ子エコキッズ1ー⑦の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

入船っ子エコキッズ1の莉穂さん、彩乃さん、咲空さん、こんにちは。

大きな字で書かれた「プラスチック新聞」、「死んでいく生き物」が、目に飛び込んできたよ。新聞を見た人が「何が書いてあるのだろう?」と思わず読んでみたくなるいい新聞だね。大成功だよ。どうして、このテーマを選んだのかな。人が捨てたプラスチックで生き物が困っていることをたくさんの人に知ってもらいたかったのかな。調べて分かったことを知らせるだけでなく、気がついたこと、感じたことを「感想」として表現しているね。「感想」をじっくり読むと三人の気持ちがよ～くわかったよ。とても、いいですねえ。

伝えたいことのもうひとつは、『ポイ捨てをやめて!』なのかな。捨てられたプラスチックは雨風によって河川に入り、海へと流されるよね。どうしたらいいだろうね。くらしのなかで、みなさんがやっていることも知りたかったなあ。自分一人で行えること、家族で行えること、地域の人たちで行えること、みんなで考えて行動してみよう。

とっておきのゴシドウ★

『何気ないポイ捨てが動物たちに迷惑』、そうだね、いいことに気がついているよ。動物たちは困っているよね、生き物の命が奪われているよね。でも、動物たちには何もできない。『ポイ捨て』って、どんな人が、どんな時に、どんなものを『ポイ捨て』しているのだろうね。なぜ、ポイ捨てするのだろうね。みなさんはどのように思う。話し合ってみたことはあるのかなあ。

どうしてポイ捨てをするのだろうね。生き物が迷惑していることを知らないからだろうか?みんながポイ捨てをしないようにするには、何をしたらいいだろうね、自分たちがポイ捨てをなくすための活動をして、感じたことが知りたいなあ。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ1

壁新聞のタイトル:①エネルギー新聞 ～⑧知ってる？自然エネルギー新聞

入船っ子エコキッズ1-⑧の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

地球の約70%が海であることを考えると、海よう温度差を使った発電は大きな可能性が感じられますね。海の表層と深層の温度差が15℃以上あれば発電に適していることを調べてくれましたが、15℃というのは大きいと思いませんか？それとも小さいと思いませんか？海よう温度差発電のしくみの図をみると、むずかしい言葉がたくさんできます。蒸発器(じょうはつき)、凝縮器(ぎょうしゅくき)は、アンモニアと海水をまぜることなく温めたり冷やしたりするために必要なものですが、小さい温度差だと効率(こうりつ)よく温めたり冷やしたりするのがとても大変です。風力発電は海よう温度差発電のように蒸気をつくりださなくても、風がプロペラをまわしてくれます。自然の力がすごいですね！羽根が大きいほどたくさん発電ができるので、大きな風力発電がふえてきています。大きな羽根を山の中に運ぶのは大変ですが、海にはどうやって運びますか？国によって地形や温度がちがうので、日本にできた自然エネルギーをみつけてそれを実現するのはみなさんです。ぜひむずかしいことにもチャレンジしていきましょう。

とっておきのゴンドウ★

深層水はどれくらい深いところからくみあげてくるのでしょうか？深海にいくにつれて水温が下がり1000mあたりで2～5℃にまで冷たくなり、それ以上深くても水温はそれほど変わらないようなので、1000mであればじゅうぶん冷たいと考えられます。地熱発電も海よう温度差発電と同じように熱エネルギーをつかって、蒸気を発生させてその蒸気が羽根を回転させることによって、発電機の中で電気がつくりだされます。調べてくれたように火山の近くが適していますが、その場所が国の自然公園だったり、温泉で有名なところだったりします。さらにいい場所であっても、どこに穴をほればいいのか宝さがしのような感じです。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ2

壁新聞のタイトル:①エネルギーなぞ新聞～⑧地球の危険新聞

R1-12-12～19 (全8)

入船っ子エコキッズ2-①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

コジェネレーションは聞きなれないかもしれませんが、最近では家庭用燃料電池として身近なものになってきています。”コ”+”ジェネレーション”で、いっしょに作り出すという意味です。何をいっしょに作るかというと、その多くは電気エネルギーと熱エネルギーです。パソコンやスマホ、Wi-Fiなどをさわって温かく感じたことはありませんか？電気を使うといっしょに熱が発生するので温かく感じるわけです。

新聞に書いてくれたように大きな発電所で電気エネルギーをつくる時に発生した熱をみなさんの家庭にとどけるにはキョリが遠すぎます。そのため、電気をつくる場所と熱を使う場所が近い方がいいので、集合住宅、各家庭といったところほどムダが少なくなります。「エネルギーおばけ」とはユニークな見出しですね！内容にもとても大切なことを書いてくれました。まさに現代のわたしたちの生活は、”便利で””モノにあふれた”生活です。その中には、今ではなくてはならない必要なモノもある一方で、なくても困らないモノもあります。一人一人がそれを考えながら行動すると、100年後はきっと明るい未来になるでしょう。

とっておきのゴンドウ★

太陽エネルギーの光を使ったのが太陽光発電、熱を使ったのが太陽熱発電です。太陽熱を集めるとお湯をわかすこともできるので、水を蒸気にして羽根をまわすことによって、発電機の中で電気を作りだします。いろいろな発電方法がありますが、その多くが熱をつかって蒸気をつくりだしていることが分かります。

太陽熱を発電としてつかうには、1年をとおして強い日差しがたくさん必要なので、日本にはありません。太陽からのめぐみの熱を家庭の中で使う工夫ができればいいのですが、何かおもしろいアイデアはありませんか？



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ2

壁新聞のタイトル:①エネルギーなぞ新聞～⑧地球の危険新聞

入船っ子エコキッズ2-②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

まず、4年生で環境についていろいろなことを調べたことにおどろきました。すばらしいですね。

環境のことを勉強して、みなさんの思いを、伝えたい!というのがよくわかります。いろいろなことを勉強した中から、ごみのことやアサガオによる調査など、身近で、みんなに知ってもらいたいことが伝えられていると感じます。

かべ新聞には、「5Rでゴミを少なく」「ゴミは宝物」「アサガオが地球を守る・・・?」など、「なんだろう?」と思わせるようなステキな見出しが目立つように大きくついているので見やすいです。「タイトルの文字がカラフルで一つひとつ工夫されているのも楽しく見ました。(私は、☆いっぱい「宝」と、花がついている「オ」が特に気に入りました。)クイズやイラストもついて、見やすい新聞ですね。

とっておきのゴシドウ★

調べたことをひとつずつ、しっかりとみなさんに伝えるようにていねいに書かれています。みなさんは学習したのでわかっていると思いますが、「5Rの意味は拒否、削減、再使用、修理、再利用です。これを守り」と書かれているだけでは、読んだ人が、じゃあ何をすればいいの?とよくわからないかもしれません。言葉の説明だけでなく、私たちができることまでも書いてあるとほかの人にもわかってもらえるようになると思います。光化学スモッグについても、「光化学スモッグを出すのは人間です」では、何に気をつければよいかかわからないので、ぐたいてきに何に気をつけるのかをみなさんで考え、わかりやすく伝えられるとよりよくなるでしょう。

環境についていろいろなことを学んだので、次にみなさんは何ができるかを考え、行動することにもちようせんして試してみてください。まとめで、書いてくれているように、世界を守れるのは、今のこどもたちです。みなさんにきたいしています!



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ2

壁新聞のタイトル:①エネルギーなぞ新聞～⑧地球の危険新聞

入船っ子エコキッズ2-④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

新聞のタイトルがおもしろいです。“意外”とか“マル秘”という言葉があると、内容が気になって知りたくなりますね!

クリーンな発電として期待されている燃料電池は、すでに家庭用燃料電池として利用している家庭もあり、燃料電池自動車も出始めています。ところで、反応させる酸素は空気中にありますが、水素はどこにあるのでしょうか? 家庭用燃料電池では都市ガスから作りだしていますが、自動車ではガソリンスタンドに代わる水素ステーションで水素をいれる必要があります。水素ステーションの数はまだかなり少ないです。日本は世界的にも降水量が多い方です。そして地形は山が多く、山から海まで急なこうばいの場所がたくさんあるので、水が流れる力を利用した水力発電には適しています。大きな発電所をつくる時は、水力にかぎらず周辺の生態系に与える影響(えいきょう)が調査されますが、水力は発電所をつくる場所だけでなく、川の上流側から下流側まで広い範囲(はんい)のことを考える必要があります。小水力発電は発電量が少なくても電気の地産地消(地域で作った電気をその地域で使う)につながり、電気を送るキョリがみじかくてすむメリットもあります。

とっておきのゴシドウ★

地熱発電は蒸気タービンをまわして発電するという点では、火力発電や原子力発電と同じです。蒸気をつくるには水を加熱する必要がありますが、その燃料として地熱発電はマグマの熱を利用しています。日本は世界有数の火山国であり、地熱発電をするための自然エネルギーがたくさんあるように思いますが、発電量の全体に対する割合はわずかにすぎません。全ての発電方法にメリットとデメリットがあるので、エネルギーのことを調べてみて「何故だろう?」と思ったらデメリットを調べてみるといいと思います。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ2

壁新聞のタイトル:①エネルギーなぞ新聞～⑧地球の危険新聞

入船っ子エコキッズ2-⑤の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

温暖化調査新聞」には、その名の通りみなさんが調べた温暖化に関することが、イラストや図を上手に使って分かりやすく書かれていますね。白クマ博士やエゴちゃんが出てくるところも親しみやすくいいですね。

地球温暖化が進むことで白クマやサンゴなどの生き物に影響が出ていることや、リンゴなど私たち人間の食べ物にも影響があることなど、記事の内容も分かりやすいです。

特に「地球温暖化の原因は温室効果ガス。でも、温室効果ガスがなかったら気温がマイナス20度になってしまう」というところまで調べることができたのは、とても素晴らしいですね。

とっておきのゴンドウ★

みなさんが壁新聞に書いてくれたように、「温室効果ガス」は無くしてはならない、けれども増えすぎたら温暖化が進んでしまいます。そこで大切になってくるのは「バランスを保つこと」です。特に二酸化炭素は、人間の活動によって増えてきています。

では、どうしたらいいでしょう?

地球温暖化が進んでしまわないように、温室効果ガスが増えすぎでしまわないように、世界中の国の代表者が話し合っ「パリ協定」という約束を作りました(2015年のことです)。

先日は日本の菅首相が「温室効果ガスの排出量を2050年に実質ゼロにする」という新たな目標を表明されました(2020年10月)。

そういった社会の動きにもぜひ注目して、調べてみてくださいね。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ2

壁新聞のタイトル:①エネルギーなぞ新聞～⑧地球の危険新聞

入船っ子エコキッズ2-⑥の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

「リサイクルして何に変わる?」という大きな見出しと、「環境探てい」のタイトルがまず目に入り、「何だろう?」と思ってワクワクしながら読みはじめました。いいタイトルですね。

海外のこと、地球きぼのことまではば広く環境問題について調べることができてよかったですね。環境について学習して、興味をもち、もっと調べよう、みんなに伝えようと思ったことは、とても素晴らしいことです! 感心しました。

新聞は、色づかいや文字の工夫もあって、キャラクターやグラフを使い読む人にわかりやすいようにするなど、いろいろなところで工夫されているすてきな仕上がりです。

とっておきのゴンドウ★

ゴミをへらすためにむだづかいをへらそうと気づいたことはとても素晴らしいです。

みなさんの学校やおうちでも、牛乳パックのリサイクルをしていますか? リサイクルに出せばゴミをへらすことに役立っていますね。家庭のゴミで多いものは紙というデータを紹介してくれていますが、これはリサイクルに出すものも含めたデータです。牛乳パック以外にも紙はリサイクルできるのでちゃんと分けてリサイクルに出すことが大切です。クラスでいらなくなった紙はちゃんと燃やすゴミとは分けて集めていますか? 学校で集めた紙は、どこに出すとどのようにリサイクルされているのかも調べてみると、もっとリサイクルが楽しくなるかもしれませんよ。

きれいな日本を作るために、ゴミやガスをへらすように、どのようなことをしていますか? 自分たちがしていること、どのようにしていけばよいのかなどのぐたいてきなことも書いてくれると、さらにみんなの役に立つ新聞になると思います。本やコンピューターで調べるだけでなく、家族やまわりの大人の人たちにきいてみると自分たちでもできることのヒントがもらえるかもしれません。調べたことをぜひ自分たちの生活と結びつけてみましょう。そこで、やってみたこと、失敗したこと、思ったことなども教えてくださいね。

書き方での注意は、文章がたて書きと横書きがまざっていたので、どちらかに合わせたほうが読みやすくなるので、次は気をつけてみてくださいね。

千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ2

壁新聞のタイトル:①エネルギーなぞ新聞～⑧地球の危険新聞

入船っ子エコキッズ2ー⑦の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

環境についていろいろと学習した中から、「ゴミへら新聞」のタイトルにあるように、ゴミをへらすことに注目して新聞にまとめてくれたのですね。ゴミは自分たちの生活と、とっても関りがあるのでよいところに気づきましたね。テーマをひとつにしぼったことで、伝えたいことがまとまってわかりやすい新聞となっています。文字もていねいに書いて、イラストもはいりとても見やすいです。

とっておきのゴシドウ★

ゴミをへらすための三つの言葉を三兄弟が教えてくれているのはおもしろいですね。言葉の意味は、それぞれ三兄弟が教えてくれています。では、じっさいにどのようなことをすればよいのでしょうか？みなさんでもやっていること、できることはあるでしょうか？じっさいにこんなことでゴミをへらせるということも書いてほかのみなさんに教えてください。今、自分たちが出したゴミは、どこへ行ってどうなっているのでしょうか？ペットボトルや使い終わった紙やお菓子の袋など。自分たちもリデュース、リユース、リサイクルしているものもあるはず。そしてその中で一番大切なのはリデュースで、まず減らすことです。どうすればリデュースできるのかもみんなで考え、やってみてくださいね。1週間でゴミをこれだけへらした！ということも次は教えてください。「ポイすてをすると、環境が悪くなるかのうせいがあります。」「ごみがふえて環境が悪くなります」と書いてくれています。この「環境」ってどのようなことかしら？いろいろとあつちよとむずかしいかもしれませんが、そこまでがんばって調べると、なぜリサイクルをするのか、ポイすてがよくないのでゴミを減らしていくことがたいせつなのかが伝わるとおもう。ゴミで苦しんでいる生きものたちもいます。ゴミのしよりにについても調べてみましょう。そして、みなさんが調べて思ったことや、これからやろうと思っていることなどを考え、みなさんの声も書いてくれるとさらに良くなると思います。行動できるようにがんばっていきましょう。きたいしています。



千葉県浦安市 入船っ子エコキッズ2

壁新聞のタイトル:①エネルギーなぞ新聞～⑧地球の危険新聞

入船っ子エコキッズ2ー⑧の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

「地球の危険新聞」。ちょっとドキッとさせるタイトルが、しっかり壁新聞の内容を伝えていいます。「ぜったい自まんできる」という吹き出しもあり、つい読んでみたくなる壁新聞ですね。

2100年に日本はどんな天気になっているのか、海の温暖化で起こっていること、しろうくまの数がへってきて絶滅危惧種に指定されていることなどを、わかりやすく伝えていいます。ペンギンの「ペン」や、ようせいの「りなちゃん」も出てきて、さらに楽しく壁新聞を読むことができますね。

とっておきのゴシドウ★

「北極のしろうくま」「南の海のサンゴ」だけでなく、実は日本に住んでいる私たちも、地球温暖化の影響を受けています。みなさんが調べてくれたリンゴの他にも、例えばお米の成長が悪くなることも起こってしまいます(高温が続くと、お米にデンプンが詰まらずに白っぽくなり美味しくなくなってしまうことがあります。白未熟粒と言われています)。みんなの食べ物を作る農業にも、だんだん影響が出てきています。他にも、ここ数年、日本でも大雨による災害が増えてきました。地球温暖化が進んでしまうと、こういった災害が増えると予想されています。2018年7月には西日本の広い範囲でひどい大雨になり、洪水や土砂災害などで200人以上もの犠牲が出てしまう災害となりました。もし地球温暖化がなければ、この大雨は発生しなかったらという研究結果が出ています。日本に住んでいる私たちにどんな影響があるのだろうか？ということについても、ぜひ調べてみてくださいね。



大鋸児童館子どもエコクラブのみなさんへ

師範から一言!

海のプラスチックごみは、世界中の海で大きな問題となっています。今回、海がある藤沢に住むみなさんが、このテーマを選んでしっかり調べてまとめられたのは、とてもよいと思います。

みなさんが海岸を清掃(せいそう)してわかったのは、海のゴミの7割は、川から運ばれてきたということ。町や川で軽い気持ちでポイ捨てされたゴミは、さいごにはきれいな湘南の海を汚し、そこに生きる生物などに害をあたえていることがわかりました。「川はゴミの通り道」となっている現実、本当に悲しいです。

また、海の汚染(おせん)物質(ぶっしつ)となっているマイクロプラスチックの恐ろしさについても調べましたね。海洋に放出されたマイクロプラスチックは分解されことなく世界の海を漂(ただよ)い続けます。だからこそ、ペットボトルやレジ袋などのプラスチック製品は、正しく分類(ぶんるい)し、絶対にポイ捨てしてはいけません。

そのほかの「アズキ」や「水の汚れは何?」などのテーマも、しっかり観察してまとめられています。みなさんの充実(じゅうじつ)した活動が伝わって来ました。



とっておきのゴシドウ★

海の清掃をしたみなさんは、きれいになった海岸を見て「うれしい!」、集まったゴミを見て「ポイ捨てはやめよう!」、プラスチックのゴミの多さに「マイバックを使おう!」などと思いましたね。つぎは、みなさんのお友達やまわりの人達をさそってみましょう。今、多くの海岸でビーチクリーン活動が行われています。その目的は、ゴミをひろって海をきれいにするだけでなく、海の問題を知って「ポイ捨てしない」など、行動を変えていく人を増やすこともあります。藤沢の地域(ちいき)のみなさんと行動の輪(わ)を広げていって欲しいと思います。

またアズキのテーマでは、その成長を観察し、収穫(しゅうかく)後は、お赤飯にしてみんなでいただきましたね。アズキは昔から、あんこやおしるこのような食べ物や、お手玉やまくら、最近は温めて何度も使えるカイロなどにも利用されています。またたくさんできたら、地域の方にお話を聞いて、いろいろなものを作ったら楽しいですね。

ミツ星エコクラブのみなさんへ

師範から一言!

環境学習について、いろいろな方面から情報を整理し、多くの人に理解してもらうための工夫がたくさん考えられていて、とてもすばらしい壁新聞ができました! 地域環境から社会の環境問題を問いかけているので、とても説得力を感じます!

そして、とてもたくさんの情報を、「疑問」「問題点」そして「提案」とわかりやすくまとめて、多くの人が興味を引くようにデザインされていますね。カラーリングは SDGs のロゴカラーを取り入れているということですが、デザインを取り入れてより多くの人に伝えるということは、環境活動と同じように大切なことだと思います。

また環境活動の内容とは別に、上下の帯のようにデザインして、年間活動を掲載されていますよね。ちょっと趣が違ふ情報を、別のデザインに変えて配置するのは、とてもわかりやすくすばらしいと思います。

また、「メンバーの視点で対策について提案する」と、しっかり情報も目的や手法を提示することで、掲載されている内容の意味もすぐに理解できますね。こうした情報アシストは、多くの層が見る壁新聞では、とても親切ですね。すばらしいです!



とっておきのゴシドウ★

今回の壁新聞で特に面白いと感じたのは、実体験をもとにした上で、自由な発想による「提案: ていあん」をしっかり示したことです。とても興味深く拝見しました。

その中で静電気の働きを使った「緑のマット」のアイデアがでていましたが、もう少し詳しい説明や図案などがあれば、エコアイデアに発展する提案になるかもしれません。とても可能性を感じました。「バスに乗れ」提案での「自動車学校のシステム」も、言葉だけでは分かりづらいかな、と思います。特に小中学生ではわからない人も多いかもかもしれません。

難しい用語やキーワードは、まずわかりやすく説明して、理解してもらい、その上でメリット・デメリットを伝えることで、より多くの共感を得ることが出来るようになると思います!

坂口エコメイト田んぼの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

『坂口は、自然がいっぱいいいところだなあ〜』。これが坂口おもしろ図鑑を読んだときに思ったことです。お米がおいしかったことを思い出して、田んぼの「イトミミズ」を調査したのはさすがだね。そこに住んで、いつも自然に関心を持っているひとだから気づくことだね。とても、いいですねえ。壁新聞の記事を読んでよくわかります。「すばらしい壁新聞」です。イトミミズにとっていい環境は、コウノトリにとってもいい環境。そして何よりもそこに住んでいるひとたちにとってもいい環境だね。みなさんの活動が、もう一度コウノトリが飛んでくる里につながるといいね。みなさんの願いがよくわかります。植物の外来種について、たくさん調べましたね。坂口で調べてわかったことをもう少しわしく知りたかったなあ。どんな植物をいつごろ、どんなところで、どれくらいみつけたのか、分かるといいね。これからも外来種が増えないようにするにはどうしたらいいだろうね。身のまわり人が、「入れない」、「捨てない」、「拡げない」ためには、どのようにすればいいと思ったのかな。

とっておきのゴシドウ★

壁新聞に実験方法をくわしく説明しています。とてもいいですねえ。来年以降も、同じ調査を積み重ねることが出来ます。『変化』を知ることで、新しい発見もあります。もっと、もっと自然豊かな坂口になるといいですね。

イトミミズの約15万ひきは大きい数字だね。どのように伝えれば、壁新聞を読む人にわかってもらえるだろう。たとえば、越前市の人口が約八万人だからおよそ人口の倍だね。体長8cmのイトミミズを並べると12kmになるよね。坂口小学校から武生駅までの距離になるね。すごいね。重さにするとどれくらいになるのだろうね。読む人が実感するような伝え方を考えてみよう。



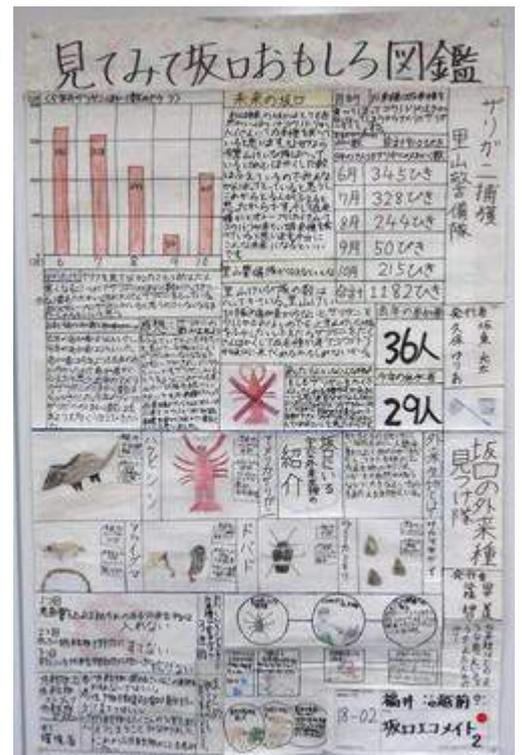
坂口エコメイトザリガニの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

坂口をコウノトリが来る里にしようという熱い気持ちで、里山けいび隊のみなさんが、がんばっていることがよくわかります。読む人に「何のために活動しているのか」、目的をはっきりと伝えていきます。「何を考えて、何をして、何を感じたか」、そして、「次に、どうしたいか」までがよくわかります。いい壁新聞です。とてもいいですねえ。今年、アメリカザリガニのほかく数が増えたのは少し残念でしたね。でも、どうしてだろうね。くじょしきれなかったのはなぜだろうね。どうしたらいいと思う?里山けいび隊で話し合ってみよう。ほかくしたアメリカザリガニは、どうしているのかな、うめて肥料などに活用もできるよね。

坂口の外来種みつけ隊は、坂口にいたる外来生物のことをくわしく調べています。これらの生物がいることで、坂口ではどんな悪いことがあったのかな。みなさんが坂口で見つけたことを壁新聞でたくさんの人に伝えよう。悪いことを少なくするために、外来種見つけ隊のみなさんは何をしたいですか。みなさんが身のまわりでしていることも知りたいなあ。

とっておきのゴシドウ★

今年はほかく数が増えました。なぜだろうね。取り残しているのかな、こどもが増えているのかな。来年も同じ方法のままでいいのだろうか。壁新聞には、ほかくしたザリガニの大きさの情報がありません。たとえば、合計の重さは調べられるのだろうか、小さなザリガニが増える前にほかくできるといいよね。里山けいび隊の活動回数はどうしてきめているのかな、いつごろの活動回数を多くするのが効果的だろうね。ほかくの方法はどうしているのかな。あみで直接すくって捕獲しているのかな、にぼしなどを入れたカゴを水に沈めて捕獲しているのかな。どうしたらいいのだろう、みんなまで相談してみよう。みなさんの工夫がもっと伝わってくる壁新聞になるといいね。



和泉エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

クラブの名前は「和泉エコクラブ」ですが、新聞の名前は Turtle です。どんな意味があるのかな？ぜひ教えてほしいなと思いました。

壁新聞を読んで、みなさんが疑問に思ったことや感じたことをまとめて、活動を振り返り下げていると感じて、とても良いことだと思いました。例えば、「何でゴミを落としてしまうのか」や「レジ袋が有料になることはどう思うか」などです。ポイ捨てはよくないことだし、レジ袋ももらわない方がよい……けれどもそう思わない(知らない)人もいます。その人の考えを想像して、どう伝えていけば、たくさんの人に協力をお願いしたい時にはとても大切なことです。そしてとてもむずかしいことです。ぜひこれからも意識して取り組んでほしいと思います。

いよいよレジ袋の有料化も7月から全国で始まりますね。みなさんはもうマイバッグを用意して、準備万端だと思います。これから買い物の風景がどう変わるか、じっくり観察してみるのもいいですね。

とっておきのゴシドウ★

ペットボトルの飲み物を飲み終わったら、ボトルはリサイクルし、キャップも回収して寄付につながっていますね。それは良い取り組みですが、レジ袋を始めから使わないように、まずはペットボトルも始めから使わないようにする取り組みがあります。みなさんもすでに取り組んでいると思いますが、3R(リデュース・リユース・リサイクル)のうちのリデュースですね。リサイクルはゴミを減らす最後の手段であって、まずはゴミになるものを使わないのが一番エネルギーや資源の節約になります。なるべくペットボトルを使わないようにして、使った場合は資源として有効に活用する。こちらも呼びかけていけるといいと思います。



いきものみつけファーム in 松本推進協議会のみなさんへ
師範から一言！

便利なプラスチックは今、世界で大量に作られて使われています。日本でも年間に約1000万トン生産され、使い終わった廃(はい)プラスチックは、約890万トンにも上るといわれています※

そこで今回みなさんたちはプラスチック問題を取り上げましたが、「家庭でどれくらいゴミとなるのか？」をしらべてゴミを分類して重さを量ったり、スーパーに行って「エコバックを使う人はどのくらいか？」をその理由まで実際に聞いて取材したのは、とてもよかったです。疑問に思ったことは自分たちで調べてみるのが重要です。まとめ方も、写真やイラスト、グラフなどを使って、とてもわかりやすいです。さいごの「ポイ捨てゼロを目指す<ゴミ箱提案>」も、おもしろいアイデアです。ゴミ箱が楽しいものならば、大人も子ども町でポイ捨てなどをしなくなりますね。

※環境省「令和2年版 環境・循環型社会・生物多様性白書」

とっておきのゴシドウ★

みなさんはプラスチックを使うことを減らすために、さまざまな提案(ていあん)をしました。買い物をするときには「ばら売り」の野菜を買う、木やアルミのお弁当箱を使うなどなど……。まずは自分たちで、また家族やお友達に伝えて、できることから取り組んでみましょう。そうしたら、家庭のゴミからプラスチックゴミがどれだけ減っていくのでしょうか？調べてみてください。

また、めぐみさんは地球温暖化の問題についても書いてくれました。地球温暖化現象の原因は、二酸化炭素(CO2)の排出量(はいしゅつりょう)が増加していることだといわれています。二酸化炭素の排出量をへらすためには、このプラスチックゴミの問題のほかにも、私たちができることはないでしょうか？みんなで考えて、また教えてください。



清水イオンチアーズクラブ A の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

色々なエネルギーについて学んだことが丁寧に書かれていますね。電力や火力、水力などのほかに、「人々のエネルギー」もあり、面白い考え方だと思いました。「人々のエネルギー」はある意味では無限大だと思いますが、いかがでしょうか？昔は自然の力を人々の知恵でエネルギーに変えていましたが、今は技術でエネルギーに変えているということが、この壁新聞で比較できますね。昔の人も太陽のエネルギーを利用してきたと思いますが、今は太陽光発電やソーラークッカーなどで利用しています。水力発電も、昔から水車はありましたが、今は電気のエネルギーに変換することで、用途が広がったと思います。そう考えると、昔の人の知恵にエネルギーを活用するヒントがあることを改めて感じました。

とっておきのゴンドウ★

一つひとつの活動はとてつねいに書かれていますので、全体をまとめる文章がもう少しあると、さらにまとまりのある壁新聞になると思います。例えば、今年の活動テーマは「エネルギー」とのことですが、そこからなぜ火起こし体験を行おうと思いましたが？など、動機が書いてあると、体験後の感想がより引き立ちます。また、色々な体験を通して、みなさんがこれから実行したいと思ったことや、壁新聞を読んだ人に取り組んでほしいと思ったことは、どんなことでしたか？そういったことをクラブのみなさんで共有してみると、活動のふりかえりにもなります。壁新聞をまとめる時に、一人ひとりが付箋に書いて、話し合ってみるのもいいですね。それを最後に壁新聞に書くようにすれば、そんなに大変な作業でもないと思うので、ぜひ取り組んでみてほしいです。



清水イオンチアーズクラブ B の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

豆腐を作るために、土から育てていくというのは、とても貴重な体験ができましたね。みなさんが豆腐を食べるまでに、たくさんのエネルギーが必要だということがよくわかりました。大豆が発芽する時に、小石を押しつけていたことに気づいたのは、観察力が鋭いです。小さな大豆にそんなエネルギーがあるなんて、すごいですね。また、1粒の大豆から100粒もの大豆が採れるというのも、よく考えるとすごい力ですね。大豆が太陽や水といったエネルギーを変換しているのですから、植物の力は素晴らしいと感じました。大豆から豆腐を作る際には、人の力や電気エネルギーも必要になります。スーパーで買うのは一瞬の出来事ですが、それまでにたくさんのエネルギーがかかっていることが、この壁新聞でよくわかりました。

とっておきのゴンドウ★

活動の流れがよくわかり、とても読みやすい壁新聞だと感じました。私がこの壁新聞を読んで、みなさんに聞いてみたいと思ったことは、大豆を育てる時や、豆腐を作る時に大変だったことはどんなことかな、ということです。みなさんの活動のエネルギーが、思っていたよりも必要だったこと、逆に予想よりも簡単だったことはありますか？こういったことも記録しておく、次の機会にも役に立つと思います。また、次に作物を育てる機会があれば、どんな作物を育ててみたいでしょうか。活動のふりかえりの時に、そんな話もできると楽しいと思います。これからもみなさんと協力して、楽しく活動して行ってほしいと思います。



しみずっこエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

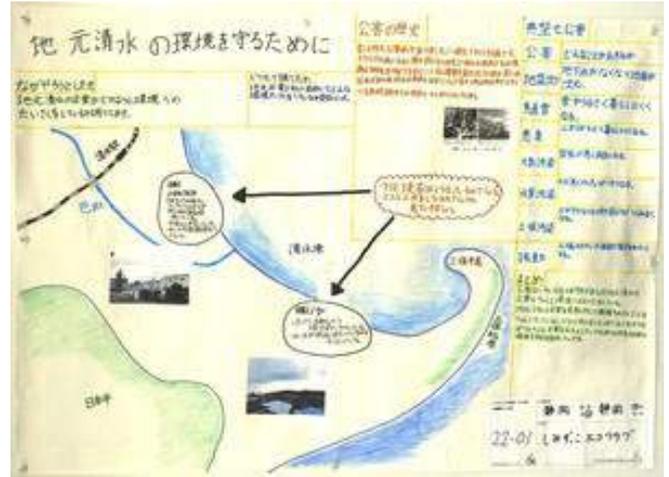
地元企業の環境対策を調べてみる、とても面白い取り組みですね。清水には食品や工業製品など、いろいろな工場がありますね。業種によってもいろいろな取り組みがあるのだらうと思います。
昔、富士市の港にヘドロがたまって、大きな問題になったことがあります。みなさんが調べたように、今では企業も環境対策に力を入れているので、目立った公害はないように思われます。でも、最近は駿河湾特産のサクラエビがなかなか獲れなくなってきたりして、海にも変化が起きていると言われていていますね。温暖化、川からの汚染など、その原因は一つではなさそうです。企業だけでなく、私たち住民も豊かな駿河湾を守るために、どんなことが必要か考えて、行動していきたいですね。

とっておきのゴシドウ★

企業の方に直接お話を伺えるのはとても貴重なことなので、取材してきた内容をもっとくわしく知りたいと感じました。

まず、いつ・誰に取材したかは基本的な情報としてあった方が、読む人がイメージをつかみやすいと思います。また、企業の方が環境への取り組みをしていく中で難しいと感じたことや、やってみてよかったと感じたことはどんなことかを聞いてみると、自分の活動とのつながりも見えてくると思います。

企業の取り組みと私たち一人ひとりの取り組みは違う点が多いと思いますが、感じたことを聞いてみると共通点も見つかると思います。そこから、自分がこれから取り組もうと思ったこと、周りの人に広めたいと思ったことを書けると、取材の価値がさらに高くなると思いますので、ぜひ挑戦してほしいと思います。



静岡県三島市 三島市環境探偵団

壁新聞のタイトル: ①令和元年度三島市環境探偵団 1班 ②令和元年度三島市環境探偵団 2班 ③令和元年度三島市環境探偵団 3班 ④令和元年度三島市環境探偵団 4班

R1-22-04~07 (全4枚)

三島市環境探偵団みなさんへ
師範から一言！

富士山が活動の場所になるなんて、すてきですねー。5年生、6年生の新聞には取り上げてなかったけど、何回も行っているのかな。山でのごみの問題(世界遺産登録の頃も話題になりましたね。)があったり、外来種の問題があったり、「富士山を大切にしたい」という感想があったけど、富士山を大切にすることと、いろいろな課題とを関連付けた体験、話し合いもできると良いと思います。

三島市は、源兵衛川など地域ぐるみの活動(一度お伺いしたことがあります。)があったり、他ではなかなか見られない富士山の溶岩のある公園があったり、街中での取り組みの調査や再発見も良いかもしれませんね。

再生エネルギーの施設も、いろいろなものがあって、その特徴なども比べられていいですね。製紙業の公害問題も、エネルギー利用と併せて解決した歴史もありますね。

三島市環境探偵団①の新聞を書いたみんなへの

とっておきのゴシドウ★

いろんな写真を使ったり、クイズにしてみたり、みんなに読んでもらおうという工夫がされていますね。ただ、写真は、どれがどれと関係のある写真なのかがわかりにくいところがあります。並べ方を工夫したり、わかりにくい時には写真に簡単な説明かタイトルなどを付けると、良いと思います。活動内容も、体験したこと、聞いたことで印象の強いことを書いていますが、どこで感じたことが分かるか、読む人も良く分かると思います。工夫してみてください。

「これからも富士山を大切にしたい」と感想がありましたが、なぜそう思ったかも分かるように書いてあると良いと思いました。岩やよう岩で歩きにくいからじゃないよね。みんなが大切にしたいと感じたわけも聞いてみたいな。



静岡県三島市 三島市環境探偵団

壁新聞のタイトル:①令和元年度三島市環境探偵団 1班 ②令和元年度三島市環境探偵団 2班 ③令和元年度三島市環境探偵団 3班 ④令和元年度三島市環境探偵団 4班

三島市環境探偵団②の新聞を書いたみんなへの

とっておきのゴシドウ★

取り組んだこと全部を欲張って書くのではなく、エネルギー関係に絞って書いたのは、わかりやすくなって良かったと思います。また、テーマごとに整理して記事にしたのも良いと思うのですが、区切りをつけた線が、一つのテーマ内での区切りも、テーマごとの区切りも同じ太さになっています。大きな区切りと小さな区切りで線の太さや色など工夫してみると、もっとわかりやすくなると思います。

また、記事によっては、途中で書ききれなくなって、最後、ごちゃごちゃって無理やり収めたところがありますね。いったん下書きなどをして書くと、うまく収まって読みやすくなるのではないのでしょうか。

重要なところに線を引く工夫は良いと思いますが、ほとんど全部が線になってしまうと、強調されなくなります。線を引くところを絞るとか、色付け、記事の配置など別の工夫も組み合わせると良いと思います。



三島市環境探偵団③の新聞を書いたみんなへの

とっておきのゴシドウ★

全体の感じが、何も書かない空白の部分(余白)もうまく使って、読みやすい印象です。絵もがんばって書いてくれたんだけど、もう工夫ほしいところです。よう岩を書いた絵もあるのだけれど、記事の中では、岩に矢印が書いてあることを書いているので、絵の方にも矢印を書いた絵にしてみたり、森林限界なんかも、山の上と下で木が有る・無いを書いた絵などにすると、もっとわかりやすくなるのではないのでしょうか。

そら豆のにおいのするグリーンカーテンって、なんだったんだろう。植えられていた植物の種類も聞いたりしたのかな。何ていう植物だったのかかわかると、興味を持って、自分も植えてみようとする人も増えるかもしれませんね。みなさんの記事が、グリーンカーテンの普及につながると良いですね。ぜひ、記事の内容にも工夫してみてください。

三島市環境探偵団④の新聞を書いたみんなへの

とっておきのゴシドウ★

「シンプルにまとめて読みやすくて」というのは、確かにわかります。パッと見たときにすっきりしているなとも感じました。しかし、文字数を減らすことだけに頭が行ってしまい、十分な記事になっていないような印象も受けます。

例えば、「1年間のごみ35000トン、85%が火力発電、二酸化炭素が無いと気温が-15~18°C、ここからどうして、ごみを減らすのが大事、省エネに結びつくのか」、「省エネモードにすると発電しやすくなる」とか「リデュース:自分のものを使う」とか、これだけでは私にはわかりません。自分たちが分かるだけでなく、読んだ人が分かるように書くことを考えて新聞をつくってみてください。(少しいじわるだったかな?)

静岡県富士市 愛鷹アースレンジャー

壁新聞のタイトル:ハコネサンショウウオ観察

R1-22-10

愛鷹アースレンジャーのみなさんへ

師範から一言!

ハコネサンショウウオの調査を毎年やっているのですね。とても素晴らしいことだと思います。みなさんが住んでいる町に、足が痛くなるくらい冷たいきれいな水の流れる川があるなんて、うらやましいな。そして、ハコネサンショウウオがたくさん住んでいるんだね。新聞のタイトルが、大きなハコネサンショウウオの形をした紙に書かれていて、「ハ」の字はサンショウウオになっているのですね。面白いです!

サンショウウオだけでなく、サワガニの絵もありました。そして、そのおなかからたくさん稚ガニが出てきて...とてもステキなアイデアですね。かわいいです!ほかにもアカガエルやヘビトンボ、ヒラタカゲロウ、ナミウズムシ、きれいな水にすむ生き物ばかりですね。いつまでもこのステキな自然が残るように、これからもみんなでしっかり見守ってほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★

大勢参加したハコネサンショウウオ調査の様子、写真もあるし、参加した人の数も書いてあったし、ハコネサンショウウオの数も、他の生き物のことも書いてありました。みなさんの感想もありました。必要な情報はだいたい書かれていました。あとは、そうした楽しい調査の1日の流れとか、ハコネサンショウウオの探し方、調査の仕方などもわかるといいな、と思いました。少しまとめた文章で書くといいですね。

また、ハコネサンショウウオのことを全然知らない人に、どんな場所にすんでいて、何を食べて生きているのか、どんな一生を送るのか、ということを教えてあげるコーナーなども作ってみてはどうでしょう?読む人もそれがわかるととても楽しく読んでくれると思いますよ来年もまたみんなで調査を続けてくださいね!



原田湧水クラブのみなさんへ

師範から一言!

私がこの壁新聞を読んで一番感じたことは、みなさんが地域の自然とそこに住む生き物がとても好きで、大切に思っているということです。カジカやサワトラノオといった色々な生き物が紹介されていますが、富士市にそういった生き物がいることを、みなさんが誇りに感じていることが伝わります。壁新聞のタイトル「未来へつなごう 富士市の自然といきもの」は、みなさんが心から願っていて、目標にしていることなんだなと思いました。

活動の中で、特に興味深いのは、特別企画の「変形菌観察会」です。ちょっと気味が悪い生き物のイメージが個人的にはしますが、みなさんはどう感じましたか?でも、こういった生き物が、死んでしまった生き物を分解しているおかげで地球上の循環は成り立っています。小さいけれど、地球では欠かせない生き物たちです。観察できたのは、とても良い機会だったと思います。壁新聞を見て、「自分も観てみたいなあ」と思った人もいるかもしれませんよ。

とっておきのゴシドウ★

富士市の自然といきものを大切に思う気持ちと行動は十分に伝わりますので、今後がんばって活動していきましょう。

市民のみなさんに活動をアピールすることもあるようですので、その時に市民のみなさんが富士市の自然についてどう感じているかを聞いてみるのもよいと思います。カジカやサワトラノオを知っているか、見たことがあるか、などを聞いてみると、市民のみなさんが自然に対して現状でどのように感じているかがわかります。それによってどういった呼びかけをしていくと効果的かが見えてくるとと思います。なかなか難しいことですが、みなさんならできると思いますので、機会があればチャレンジしてみてください。



青葉台児童クラブのみなさんへ

師範から一言!

富士山をめくると、なんと!富士山が何度も噴火を繰り返して今の姿になるまでの小さな富士山たちが現れてびっくり!面白いですね。このアイデアには脱帽です。そして、道が描かれていて、それに沿っていろいろな富士山に関する知識が書かれています。この全体の構図もどっしりしていて安定感があり、読みやすいです。

富士山の高山植物、パイオニア植物、溶岩の種類...富士山の自然のことがわかりやすく解説があって、低学年の子どもたちも読めるようにふりがながあって親切だなと思いました。専門的な内容なのに、楽しく勉強できますね!これを読めば富士山博士になれそうです。みなさんも富士山のことをいろいろ調べて、わかったことがたくさんあって楽しかったのではないのでしょうか?

とっておきのゴシドウ★

この大調査では、環境アドバイザーの方にも富士山の植物の情報をきいたりして、くわしくて専門的な内容も入っていてすばらしいですね。このように、どこからの情報なのかを書くことも大事なことです。それに、この大調査を決定した日はいつだったのでしょうか?その日はオンタデやフジアザミが咲いていたということですね。これを読んだ人が、同じようなお花が見たいと思ったときに、いつ頃訪れたらこうしたお花に出会えるのかがわかりますよね。そして、富士山のどのコースを歩いたら、皆さんと同じような景色や植物が見られるのかがわかると、きつうれしいかもしれません。この調査にチャレンジした、具体的な場所をこの新聞に表すことはできるでしょうか?



裾野イオンチアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

新聞に大きくえがかれた山(富士山?箱根山かな?)と芦ノ湖と深良川、そしてそれをつなぐ深良用水が目をひきつけます。新聞の内容は裾野市のエネルギーについて、分かりやすくまとめてくれました“もしも…!”というコーナーでは、活動をとおして感じたことや気づいたことが伝わってくるのでいいですね。裾野市では、深良川発電所の水力があり、さらに太陽光発電にもせっつきよくてきに取り組んでいるのですね!再生可能エネルギーには、水力、太陽光の他に風力やバイオマスも含まれます。「浜岡原子力館」で学習したかもしれませんが、バイオマスである木はもやすと二酸化炭素がでますが、もともと空気中にあった二酸化炭素を吸収したものでプラスマイナス0になります。さて、山の木を切ることはよくないことのように思うかもしれませんが、木を使うと山や森林が元気になります。なぜかな?と思ったら調べてみてくださいね。

とっておきのゴシドウ★

電気を作りだすエネルギー源として、火力、原子力やさまざまな再生可能エネルギーがあることを学習したと思いますが、国によって火力が多かったり、水力や風力などの再生可能エネルギーが多かったり、原子力が多かったりと大きくことなります。それぞれの国ではもっている資源がことなりますので、水が少ないところでは水力を利用することはむずかしいですよ。日本の再生可能エネルギーの利用は世界的にみて多いとはいえません。また、日本は自分の国で確保(かくほ)できる資源がとても少ない国なのです。

どうしていくのがいいかはすぐに変わっていくわけではないので、ぜひみなさんが日本の未来を考えてみてください。



裾野イオンチアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

この新聞のおかげで深良用水についてくわしく知ることができ、この用水を手掘で造った人たちの「わざ」と「パワー」におどろかされました。しらべてみると深良川側からと芦ノ湖側のりょうほうからほって、トンネルがつながったときに上流側(芦ノ湖)が1mたかくなっていたとか。同じ1mでも上流側が低いと水がとまってしまいますので、手堀の時代(じだい)のすごい「わざ」だと思います。

“最後に私たちが伝えたいこと”に自分たちにできるアクションをかいてくれましたね。

深良用水のエネルギーの学習で気づいたことに対して、電気の節約や、植物を植える運動をしていくというのはすばらしいことです。日本は1人あたりが電気を使う量が世界的にとっても多い国の1つです。日本中みんなが電気の節約をしたら、生活に必要なエネルギー自体がへると思います。

とっておきのゴシドウ★

自動車の燃料をガソリンとLPGで表をつかってくらべてあるので分かりやすいです。LPGはガソリンよりも環境にやさしくコストも安いということで、長いキョリを走るタクシーでの利用がふえています。他にも電気自動車や水素を使う燃料電池車など、ガソリンにかわる色々な自動車がかいはつされています。利用するうえでの問題はいろいろありますが、ここでは環境にかんすることだけ考えると、水素は二酸化炭素を出さないエネルギーです。電気自動車も走っても二酸化炭素は出ませんが、じゅう電する電気はどうやって作るのでしょうか?火力発電でつくった電気をじゅう電したら、発電のときに二酸化炭素がでていることになりますね。



今川子ども自然クラブのみなさんへ

師範から一言!

一年間の充実した活動の様子がよく伝わる壁新聞だと感じました。色々な活動をされていますが、テーマが大元があり、そのテーマを意識して活動していることがよくわかります。一つひとつの活動もとても充実していて、楽しく活動できたのだと感じました。元々はホタルの保護活動から始まって、それだけでは自然は守れないと感じて活動の幅を広げていったとのこと。活動をするだけでなく、その中から次の活動のヒントを見つけられるのは、素晴らしいことだと思います。さらに、最近話題のSDGsにも視線が向いていて、活動の広がり=みなさんのレベルアップ、のように感じられる壁新聞でした。

「まとめ」に書かれている「自分たちがいつまでも生きていくためには自然を守っていかないとけない」という一文は印象的です。森や川を守ることは、そこにすむ生き物を守るだけでなく、結果的には私たち人間の暮らしも守ることにつながります。なかなかそれが見えにくくなっているのか、理解されないことが多いように感じます。みなさんの壁新聞や新聞記事から、そのことに気づいてくれる人がきっといると思います。

とっておきのゴシドウ★

活動も壁新聞も、今のままでも十分素晴らしいです。また「一言」でも書きましたが、次のテーマも見つけて、活動をレベルアップさせていくことができるクラブだと思いますので、引き続き楽しく活動していきましょう。

個人的には、一年間でたくさんの活動をされているので、一人ひとりが一番印象に残った活動は何か、聞いてみたいと思いました。一人ずつの感想を書くのは、スペースに限りがありますので、ランキング形式にして、代表的な感想だけ載せてみるのもいいと思います。メンバーの学年によって印象的な活動も違うのでしょうか。メンバーの想いを共有することもできて、新しいことにも気づくかもしれませんよ。



愛知県一宮市 木曾川いたせんぱらクラブ

壁新聞のタイトル: ①板鮮腹再生プロジェクト ②もっと知ろう イタセンパラの一生を

R1-23-03(2位)、R1-23-04(A2) (全2枚)

木曾川いたせんぱらクラブのみなさんへ

師範から一言!

一般に野生動物の絶滅原因は、開発による生息地の破壊、外来種の影響、乱獲などにあると言われています。イタセンパラ(そしてタナゴ類)はこれらの全ての危険にさらされています。それだけに早急な保護活動がないと将来は取り返しのつかないことになる可能性もあります。保護活動というと、現地での調査、生息地の回復作業等が挙げられますが、その存在を知らない人々への広報活動も重要な活動になります。このような活動を通じて、一般の人々にイタセンパラという魚の存在、そしてそれを守ることの大切さ、そのために何を行うべきか、をどんどん発信していきましょう。この活動が実を結ぶのは10年先、20年先かもしれません。それだけに継続が必要です。東京より応援しています。

とっておきのゴシドウ★

イタセンパラを始めとするタナゴ類は日本に18種ほど(外来種含め)生息すると言われますが、在来種はそのほとんどが数を減少させています。東京にもかつてはミヤコタナゴという種がいたのですが、現在では絶滅しています(栃木県、千葉県などに少数生息。なお、こちら環境省絶滅危惧IA類、国の天然記念物です)。関東で最もみられるタナゴは、タイリクバラタナゴ、オオタナゴ等の外来種です。タナゴ類は小さく目立たない種ですが、日本を代表する淡水魚でもあります。地元の生き物は地元の人を守っていくことが重要です。このような活動はとても意義のあるものです。

他の地域のタナゴを保全している人々と交流や情報交換ができるとな活動の幅が広がると思います。かべ新聞を通じて、「この地域でこういう活動をしています」とか「水族館でこうやって保護しています施」のような情報もどんどん発信してください。ぜひたくさんの人に興味を持ってもらえることを祈っています。



愛知県半田市 半田子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:山も川も海も生きている

R1-23-02(3位)

半田子どもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

壁新聞のタイトルがとてもステキです。山から川へそして海へと自然がつながっていることも連想させてくれます。半田子どもエコクラブの活動がどこで行われているのか、地図で教えてくれているので、具体的な場所が想像できるのでこれもグット。そして、楽しいイラストや写真がたくさんあるので、それぞれの活動についても、具体的に何をしたのかよく分かります。

山の間伐体験、川の活動、干潟での活動、それぞれ大人の協力を得て、普段なかなかできない活動ができましたね。間伐体験の感想で那須くんが、「切った木の皮をお風呂に入れていい匂いがした」と書いています。山の体験をお家でもう一度感じることができました。いい匂いって、なんの木だろう、ヒノキの木を切ったのかな。

川の活動では、シジミを取って食べたんだ。私は、潮干狩り(あさり)はしたことあるけれど、シジミを自分で取ったことはありません。川のどの辺りで取るんだろう？ 生態系を守るために大きなシジミをとらないといけないのは何でなんだろう？ 聞きたいことがたくさん出てくる報告です。

そして、干潟の活動も、カヌーや生き物観察のような楽しい活動だけでなく、みんなで掃除をしてきれいにするという干潟を守る活動も一緒にしているのがいいなあと思いました。様々な生き物のすみかを実際に体感しこれからも半田の豊かな自然をしっかりと観察し守っていく活動を続けて下さい



とっておきのゴシドウ★

とても楽しい新聞ですが、カニさんの中の字が少し小さくて読みづらかったです。マジックマーカーなどでもう少し太いペンではっきり書いてくれるとうれしいなあ。

全体には、今回の新聞の内容を見て、「森は海の恋人」を思い出しました。「森は海の恋人」は気仙沼で牡蠣を育てる仕事をしておられる畠山重篤さんが書いたエッセイで、この中で、森を守る(植樹をする)ことが実は海の生き物を守ることにつながることを教えてくれています。また、同じ名前でもNPOができ、今でもこの活動は続いています。

半田エコキッズさんの活動も同じように日東町の干潟を守るために、もっと上流から守っていかないといけないと感じ取ることができる内容です。とりわけ、掃除をしてプラスチックごみがたくさん見つかったこと、干潟の生き物がかわいそうと書いているしらさきくんの感想がそうです。干潟にたどり着いたプラスチックごみがどこからやって来たのか考え、調べたりするのもいいのではと思います。次に壁新聞を書くときは、ぜひテーマを絞って、そのテーマに合わせて活動や調べたこと、感想などを紹介して下さい。

クラブの活動として、活動フィールドとして干潟に行けるクラブはそう多くありません。これからもぜひ干潟の様子を記録し、続けることで変化があるのか、なども教えてください。

今年はコロナウィルスの影響で、みんながどれだけ活動できているかが心配だけど、新しい生活様式を守りながら野外活動をぜひ続けてほしいです。

愛知県豊明市 豊明エコキッズ
壁新聞のタイトル:豊明エコキッズ 2019

R1-23-01(1位)

豊明エコキッズのみなさんへ

師範から一言！

カラフル、楽しそう！これがまず豊明エコキッズ 2019 壁新聞を初めて見たときの印象でした。月別のカレンダー形式で書かれており、1年間の様々な活動を上手にまとめてあります。そして、クラブのオリジナルキャラクター「リバツパ」もとても可愛いです。皆瀬川に住んでいるようせいなんですね。いつからリバツパはみんなと一緒に活動しているのかな？ 誰が生みの親のかな？ 皆瀬川を身近な川と考えて、川のことを調べたり、クリーンアップ作戦できれいにしたりしているところがいいです。また、水質パトロールをしてたくさんの生き物を見つけることができたようです。生き物のイラストがとてもたくさんあって、どんな生き物が皆瀬川に住んでいるのか想像できます。それから、水の透明度、臭いなどの記録もあり、五感で水質調査ができている様子がよくわかります。さらに、クラブ活動をお店を出して周りの人たちに紹介することもできています。壁新聞にまとめたお店を出したりして豊明エコキッズの活動紹介をすることで、周りの人たちにエコ活動の大切さ、皆瀬川を守っていききたいという強い気持ちを伝えることができます。ぜひこれからもこのような活動紹介の場を作っていくして下さい。



とっておきのゴシドウ★

1年を通しての活動がたくさんあることはよくわかりました。その中で2019年の一番オススメの活動を選んで、その活動については、もう少し大きく記事にする方法もいいかもしれません。

私としては、水質パトロールについて、結果などもう少し詳しく知りたかったです。パックテストをしたみたいですが、化学的な水質調査の結果はどうだったのかな？ 見つかった魚や写真を見ると調査した川の堤防がコンクリートなので、そのあたりから考えると皆さんが調べた場所での皆瀬川は清流でないことは分かりますが、、。また、もし毎年水質パトロールをしているようなら、毎年水質の変化なんかも教えてください。

それから、クリーン活動についても、全国的な調査にぜひ結果を知らせてみましょう。全国川ごみネットワークという団体が「水辺のごみみつけ！」という全国調査を毎年しているのので、皆瀬川のクリーン活動したときのごみについてぜひ報告して下さい。自分たちの地域でしている活動を情報として発信できるし、全国に同じような活動をしている仲間がいることを知ることもでき、一石二鳥だと思います。ぜひ、これからも皆瀬川をきれいに守る活動をリバツパとともにたくさんの人に知らせていきましょう。

なひがんばる隊のみなさんへ
師範から一言！

近年話題になっているマイクロプラスチックその他のゴミにより、今海が危機的な状況にあります。海は世界中つながっているので、海を守るためには世界中の国々が取り組まないといけないこと、そして海を守るために私たちが行わなくてはならないこと、たくさんの気づきがありました。全てがつながっている、だから環境を守るためには身近なところから始めることが大切です。鉛筆を最後まで使うこと、これもどこかでつながっているのですね。このような考えができるというのは、いい学びがあった証拠だと思います。ぜひ、今後もこのような考えで活動を続けていってくださいね。

とっておきのゴシドウ★

とても大切な活動なので、ぜひ全国の皆さんと取り組んでもらいたいと思います。

海を守るためには、海に注ぐ「川」、そしてその上級にある「森」、そのすべてを守っていかなくてはなりません。

私たちがポイ捨てはもちろんゴミの出し方やライフスタイルそのものについても考えていかななくてはならない時代が来ています。魚たち、そして海の生き物たちを守るためにも、全国の皆さんと協力した取り組みができるといいですね。私もできることがあれば積極的に協力したいと考えています。



四日市尾平イオンチアーズクラブの①を書いたみなさんへ
師範から一言！

大きなクラブでは、たくさんの参加者と順番に体験学習をしたり、見学コースで説明を受けたりするので、子ども達の体験が単調になりがちです。私も経験がありますが、壁(かべ)新聞で感動させるためには、学習した感動をどれだけ壁新聞に表現(ひょうげん)できるかにかかっています。そんな工夫(くふう)をして壁新聞を作ると感動が伝わってきますよ。

応募用紙を見るとこのクラブは、小学校1年から中学3年生までの子供達が60人もいて、平成12年から活動をしています。環境(かんきょう)に関するさまざまな活動、エネルギー、太陽、風、地中熱、化石のエネルギーについて活動をしています。これだけでも活動はたいへん忙しいと思いますが、今回はテーマを風と地中熱の二つにしぼって壁新聞を作ったのはよいと思います。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

壁新聞の小見出しや記事の区分などうまく整理されていると思います。たくさんの活動から風と地中熱というなじみないエネルギーの記事は目の付け所がすぐれていると思いました。

小学1年生から中学2年生まで環境に興味(きょうみ)を持てるように、学年ごとに見学会を開催するなど継続した活動につなげて成果をあげてください。宣言(せんげん)では「エネルギーの無駄遣い(むだづかい)をしません。(中略(ちゅうりやく))限られたエネルギーを大切に使い、自然とともにくらせる未来を創(つく)っていくことを宣言(せんげん)します。」と意志(いし)表明(ひょうめい)しています。すばらしいことです。



三重県四日市市 四日市尾平イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:①エネルギー新聞②エネルギー新聞2

四日市尾平イオンチアーズクラブの②を書いてくれたみなさんへ
師範から一言!

壁新聞にまとめてくれた記事は、化石エネルギー、植物のエネルギー、太陽エネルギーの3つの活動ですが、さらに事前に四日市の石油コンビナートで見学会を開催し、十分に勉強していますね。これは重要な取り組みです。

四日市といえば環境汚染(おせん)がかつてあったところで、現在(げんざい)ではアカウミガメが産卵(さんらん)にやってくるほどに環境が改善しています。また、エネルギーを輸送する船は世界とつながっていることにおどろいていますね。さらにアカウミガメの産卵を助けるために、吉崎海岸の砂浜域(さひんいき)で清掃活動をするなど頼もしく思いました。

工場の煙突から煙は空気をきれいにする装置を付けたりしていますね。これ以上空気を汚さないように対策が取られています。植物のエネルギーでは、ピートモス、もみ殻くんたん、もみがらなどを乾燥に使ったり、燃料に使ったり、最終的にはわらやもみを農地に入れて堆肥としてとことん活用することを実践しています。太陽のエネルギーでは、米作りの体験学習に挑戦しています。たくさんの写真をありがとうございます。収穫祭ではお餅つきをして残らずいただいたと報告されています。思わず食べたくなりました。

とっておきのゴシドウ★

植物のエネルギーの壁新聞には、紫(むらさき)色の地色に墨(すみ)色の文字を書いています。きれいだけれどあざやかにみえないので、壁新聞から離れると読めません。もう少し明るい色で描いてはいかがでしょう。

一つの記事では字の大きさは、大見出し、小見出しを2種類程度(ていど)で、壁新聞の魅力ある見出しに引き込まれるような色彩(しきさい)があるといいですね。これも工夫してみてください。



三重県松阪市 三重中学校・三重高等学校 科学技術部

壁新聞のタイトル:①私たちの環境教育 高校1年生より～現状、部員の感想と伝えたい想い～②松名瀬干潟の魅力

①R1-24-04(推薦)②R1-24-05

三重中学校・三重高等学校 科学技術部①の新聞を書いてくれたみなさんへ
師範から一言!

みなさんの壁新聞を読んで、さすが高校生だな、しっかりと活動し、まとめていることに感じました。読む人を考え、自分たちがやってきたことを、ストーリー性を持ってまとめ、書いてあるので、分かりやすいです。

みなさんの活動のすばらしさは何点かあります。一つずつ述べてみたいと思います。

まず一つ目は、対象をよく見て、観察していることです。よく見ることで対象物の理解が進みます。

干潟以外の場所での環境教育で、自分たちが教えることに夢中になってしまうと、相手の子ども達の声や様子が分からなくなってしまいます。でも大丈夫のようですね。子ども達は、干潟以外での環境教育でやっていることの背景である「海に行ってみよう」と声を挙げたことに気がきました。

みなさんは干潟のすばらしさとそこにいる生き物に、多くの人が関心を持ち、海の環境保全に取り組んでもらいたいと考えていました。子ども達が「海に行きたい」と声を挙げさせるやり方をやったのです。うまいやり方です。みなさんが子ども達に「海に行こう!」と言ったのではなく子ども達から発せられた言葉でした。

さすがです。あとは海に行けば、子ども達は自らの関心事にそって積極的に動き回ります。

ウミナナの個体数調査を6年間実施してグラフにしました。個体数の変化をよく見ると春にかけて増え、冬にかけて減ることに気がきました。簡単なことのようにですが、データを良く見て、細かい所に注意をするのではなく、全体の動きに着目することができていました。このような見方は、日常の中でも良くあることだと気付いていますね。例えば、地球温暖化の気温変化は、年ごとに減ったり増えたりしていますが、大局的な見方で温度変化を見ると、確実に地球は暖かくなっていることが読み取れます。同じようにCO2の濃度変化もジグザグしていますが、確実に増えていることが読み取れます。



ウミナナの個体数変化の調査からみなさんのすばらしさが、もう一点見えます。それは個体数変化がどうして起こるかを考え、冬に死んでしまうのではなく、別の理由があるはずだと気付いて、別の場所に移動したのでは？と予想をしました。なぜ？と考える事とその理由を予想して解明する視点を明確にして、次の行動に移すことが大事です。みなさんはそれができています。すばらしいです。今は、他の場所のウミナナの個体数を数えているのかな？

みなさんの教育活動のすばらしさの2点目は、教育を受ける側の成長とともに、教育をするみなさん方も成長することに気付いた点です。自分たちが成長することを実感していますね。そういうことに目が行っていることがすばらしいですし、長続きする活動になります。一方だけの負担になると、やるが大変になり、長続きしません。教育をする側も、される側も充実感のある楽しい活動であることが大事です。

キーホルダーづくりでも、こども達の作業でのやり方にみなさんは注目したでしょう。発見がありませんでしたか？タッチプールでも、モビールづくりでもそうです。教える事ばかりに注意が行ってしまうと、発見がありません。些細(ささい)なことでも良いです。どうしてこどもはそんなことができないのかを発見すると、今度やるときにこどもへの注意点も理にかなったものになるでしょう。他の活動にも使える見方が分かると思います。

潟湖干潟の生き物探して何をこども達は見つけましたか？予想通りでしたか？思わぬ発見をこども達はしていませんでしたか？というような観察眼、科学をする視点を持つことが、全ての活動には必要だと思います。

とっておきのゴシドウ★

今回の壁新聞にもう一步、発展を期待する点があります。どんな教育をしたか、どんな活動をしたかはしっかりと書かれています。しかし、その活動で、そしてその教育でどんな結果が出たのか？どんな結果を見つけたのか？が、書かれてないのが誠に残念です。必ず発見があると思います。結果があると思います。全部を書く必要はありません。特徴的な結果や発見を1つ、2つでも具体的に書いてあると、読む側では意味のある活動であったな、意味のある教育であったなと理解できます。

それを見つけるにはどうすれば良いだろうか？やはり良く見る事、観察をすることでしょう。更に言うところ始める前に何を自分たちは注目するかを考えておくことです。考え、こうなるだろうと思いついておくことと発見し易いです。とくに予想と違ったことがあると、それは大発見につながることもあります。

このような事は、たぶんみなさんは知っていて、やっているのだろうと思います。書かなかっただけでしょう。でも書かなければ自分たちの活動を、他の人に知らせることはできません。特に科学技術部の活動の仕方として、忘れてはいけません。

三重中学校・三重高等学校 科学技術部②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

もう一つの科学技術部からの壁新聞は、環境教育の面白さを書いてくれました。この壁新聞は、生き物に接してみても面白さを書いてくれました。本当にそうですね。実際に生き物に接してみると面白いことや感心すること、あるいはどういうこと？と不思議になることなど色々発見できるので楽しいですね。

松名瀬干潟とは、河口干潟、前浜干潟、潟湖干潟の3つの干潟を総称して言うのですね。

折角。豆知識という欄でアマモとは？絶滅危惧種とは？などを説明しているので、松名瀬干潟とは？を最初に書いてもらおうと話がすんなりと進みます、と同時に3つの干潟の違いや特徴なども書いてくれると、さすが科学技術部だなと思いますよ。

と私が書いたのは3つの干潟の違いがあるだろうと思っていますので、生き物調査や観察で違いを発見できるだろうと思っていますからです。

環境教育の壁新聞でも書きましたが、どんな事をやる時でも良く見る事、観察をすることの大事さを伝えました。みなさんの活動でも良く見る事で、何故だろうという疑問が出ると思います。科学をする時の一番大事なことは、何故？と考え、その次にどうしてだろう、こうなるのではないかな？と仮説を立てることです。

みなさんが干潟で経験したことにも、「何故」がありますね。アシハラガニは、どうして大群で生きているのだろうか？近づくと皆がみな、そろって同じ方向へ逃げるのは、何故だろうか？ばらばらになって逃げても良さそうなのに…もう一つ、誰かが司令塔(とう)になって皆に“敵が来たよ”と教えているのではないかと考えて、カニを良く観察すると、何か発見があるかもしれないよ！面白いと発見をしました。科学する心は、それで終わりにするのではなくて、知的好奇心を持って、何故かを考えることが大事です。考え、良く観察すると発見があると思います。

潟湖干潟での経験でも面白いことに気付きましたね。足がどろに沈むとカニが喜んでみたいと感じました。その心も大事です。もう一步、喜んでるのは、どうしてそう見えたのですか？これもカニを良く観察するとカニの動作で分かるのですかね。そんなことも書いてくれると、さすが科学技術部の人だと感心されますよ。



この経験をカニが町みたいに光ってきれい、と書いてありますが、どうして町みたいに光っていると感じたのですか？
ここは私がいかがなことがなかったこと。アマモ場は小さな生き物が集まっているところですが、別の見方をすると大きな魚や生き物にとっては、エサがたくさんいる所ですね。敵におそわれない工夫がある所ではないですか？良く見てみると工夫が発見できると思いますが・・・地形的な特徴(とくちょう)や誰か敏感に敵の接近を知らせる生き物なり工夫があってもよさそうですね。どうだろうか？

とっておきのゴシドウ★

絶滅危惧や準絶滅危惧の生き物が増えていることは、日本の各地で見られますね。松名瀬干潟でもみなさんは発見したのですか。実際には、ハクセンシオマネキやオカミガイなどはどれくらい発見できたのですか？あるいは、数が少なくて発見できなかったのかな？科学する心の2番目に大事なことは、データで勝負することです。自らが発見して、絶滅危惧、準絶滅危惧の実態を知らせることが必要です。本に書いてる、テレビで放映していたなどをそのまま鵜呑みにしないで、自分の目で確認して、絶滅の実態をみんなに知ってもらうことが大事です。

なぜ私がこういうことにこだわっているかですが、それはこの壁新聞でみんなが思っていること、考えていることにつながっているからです。まわりの人や松江市のみなさんが松名瀬干潟や海に対して考えることと、興味を持って行動してほしいことが、みなさんの希望ですよ。そのきっかけでこの壁新聞を作りました。

カニが一斉(いっせい)に逃げるのは、他の人も気づきますが、その行動のきっかけが「こういうことですよ」とみなさんが発見したことを報告すると、他の人もそのことに興味を持って、行動するきっかけに注目すると思います。

興味を持って行動してほしいとは、みなさんは、他の人にどうしてほしいのですか？何を期待しているのですか？生き物を絶やさないように干潟をきれいにして欲しい、海を汚さないで欲しいと言う事でしょう。でもこういうこともはっきりと書かないと他の人などどんな行動をしないではいけないのかが分かりません。当たり前のことかもしれませんが、はっきりと書いて発信する必要があります。少し厳しい指摘になりましたが、私も科学者の一人です。科学するとはどういうことなのかを皆さんに伝えたくて書きましたことを分かってください。でも3人の笑顔の写真を見たら、安心しました。できそうですね！

楽しく、そして鋭い感性を持って、これからも活動をしてください。

三重県明和町 明和イオンチアーズクラブ

明和イオンチアーズクラブの①を書いてくれたみなさんへ
師範から一言！

次の24-06と24-07の二枚のチアーズクラブは、同じメンバーの27人が取り組んだ壁新聞です。1枚目が「どんな活動もエコと結びつくよ」で、2枚目が「太陽パワーでできること」に集中した工夫がみられます。

まず目に入ってくるのは、風力発電。タイトル文字のすぐ下に奈良県青山高原の風力発電の見学レポートです。大学の先生が「電気のボーナス」という話をしたところで、思わず笑ってしまいました。見学に行ったみんなも笑ったのではないのでしょうか。続けて奈良大学の大型風洞実験装置(おおがたふうどうじけんそうち)で強風の体験をしたとのことで、その面白さをレポートしてくれました。

こうして電気の大切さを実感するとともに電気のボーナスを生み続ける風力発電がもっと普及するといいですね。二酸化炭素を出さない新エネルギーをこれから増やしていきたいと思いました。

もう一つは、壁新聞の下半分を使って説明してくれた地中熱エネルギーです。九州地方に普及している地熱エネルギーではなく、地中熱エネルギーです。これは地下の比較的浅い10m下は温度が1年中同じという地球の性質を生かして熱を利用するものです。夏の15℃は涼しく感じられ、冬の15℃はあたたかく感じられます。化石エネルギーを使わず、二酸化炭素が発生しない足湯ヒートポンプでこの熱の有効利用を体験したレポートがのっています。

とっておきのゴシドウ★

地球温暖化防止のためにさまざまな技術が取り入れられていて、それが今までわからなかった地球環境の解明につながるがあります。また、海洋の酸性化、深海鉱物資源(しんかいこうぶつしげん)の採取、気候変動(きこうへんどう)の大型化など一見、地球温暖化と関係がないように感じられる事も、実は温暖化につながっていることもあります。

このため地球化学研究者には、常に様々な現象や出来事に関心を持ち、他のものと関連づけて考える柔軟な思考力が求められています。みんなも壁新聞にまとめてくれたように、いろんなことに興味を持ってエコな活動をたのしんでください。



三重県明和町 明和イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル:①エコ新聞(どんな活動もエコと結びつくよ)②絵で見るエコ活動(太陽パワーでできる事)

明和イオンチアーズクラブの②を書いてくれたみなさんへ
師範から一言!

次の二枚目は、1枚目と同じメンバーの27人が取り組んだ壁新聞です。1枚目の「どんな活動もエコと結びつくよ」で、一番最初に目についたのは、なんと干し柿作りです。干し柿作りで皮むきが大変だったようで、お疲れ様でした。おばあさんから聞いた、干し柿の皮でお菓子を作ったり、ぬか床に置いて味をよくしたりするというのは実際にやってみましたか?

この壁新聞は、中心に黄色い太陽を置いて人間と太陽との8つの関係を解説しているいままでにない壁新聞になりました。

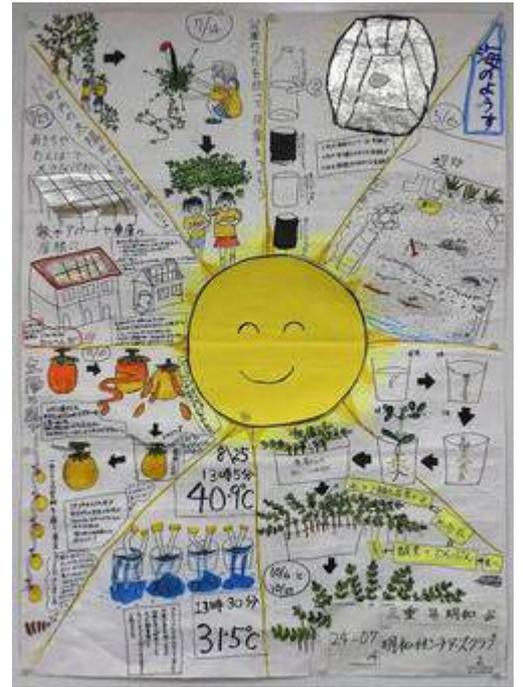
人間と太陽がどのような関係を持っているのか、そしてその文明はどのように引き継がれていくのか、大いに興味ひかれるところです。それにしても中央に太陽を配置した壁新聞は、大胆(だいたん)で引き立ってかがやいていますね。これ一枚で主張がはっきりしてくるよう感じませんか?絶賛です!

サポーターへのおきのゴシドウ★

砂浜で透明なペットボトルと黒い紙を巻いたペットボトルとでは、どちらが暑くなるか、またその砂浜を歩いて砂の温度を体感してみるなど、実証的な遊びを考えて、経験させるところに面白さがあると思います。さらには公園に生育するツタを使って日傘を作ろうとしています。サポーターからのメッセージを紹介します。

「クラブに在籍している間に環境に対して真摯な姿勢で人生を送ってもらいたいとのぞむばかりです」

このような真摯な生き方を私は忘れていたように思います。今の地球は次世代への贈り物なんです。そのことを忘れてはいけません。ありがとうございます。



滋賀県大津市 TANAKAMI こども環境クラブ

壁新聞のタイトル:年齢別で考える環境問題

R1-25-03

TANAKAMI こども環境クラブのみなさんへ

師範から一言!

写真やイラストがたくさん使われているので、とても見やすく、活動内容が分かりやすい壁新聞ですね。イラストがとっても上手です!

TANAKAMI こども環境クラブのみなさんは、びわ湖や大戸川など水辺での活動をたくさんしているのですね。壁新聞の中には、川やびわ湖の生き物の名前がたくさん出てきますね。漁体験や生き物調査に安全教室、防災のお話など、水辺に関わるいろんな活動がたくさんできていてステキですね。

活動に日付も入っていて、いつどんな活動をしたのかがぱっとわかるとても良い壁新聞です。

とっておきのゴシドウ★

今回の壁新聞の「年齢別で考える」という考え方はとても面白いですね。

例えば、今回も書いてくれていますが、「ゴミ問題を解決するには…」(幼)ポイすてしない。(小)ゴミひろいに参加する。(中)ことわる(もらわない)。みなさん、とてもしっかりと考えられていますね。年齢が上がるにつれて、問題の解決の確信にどんどん近づいているように感じます。とても新鮮な視点で、すばらしいなと思いました。

それでは、大人はどういうことができるでしょう? そんな問いかけがあっても面白いかもしれません。大人はドキッとしちゃうかもしれませんね。例えば、「そもそもゴミが出ないような商品を開発する」など、ステキな解決方法が出てくるキッカケになるかもしれません。

この「年齢別で考える」というのは、とてもステキなやり方だと思います。ぜひいろいろなテーマで考えて発表してみてください!



大津子ども環境探偵団のみなさんへ
師範から一言!

「環境人はじめました」とは、いったいどんなことをはじめたんだろう?「環境人」って何だろう?と、とても興味が出てくるタイトルですね。こういう風に、何だろう?と思ってもらえると、注目して見てもらえるのでとても良いタイトルだと思います。タイトルの下の「私たち」というところに、その答えを見つけました。なるほど! それで、この壁新聞には大津子ども環境探偵団のみなさんの「探偵の結果」がたくさん詰まっているのですね。みなさんが、春・夏・秋と季節ごとに、自然の中でたくさんの生き物を観察して、触れ合って、いっぱい発見をした様子が伝わってきますね。それに、写真を使ったり、活動の説明と感想が分かりやすくなっていること、ときどき「この写真の中には人工物があります。探してネ!」というような見てもらうための工夫があちこちにあって、楽しい壁新聞です。

とっておきのゴシドウ★

たくさんの楽しい体験をしながら、自然や生き物のことを発見したり感じたりすることができたみなさん。ふだんの生活で実践していきたいことを書いてくれました。「環境人」をはじめてみて、みなさんは何か変わったことがありますか? 自然のいろいろなことを知ると、大切にしたいなという気持ちが出てきますよね。みなさんみたいな「環境人」を大津にもっと増やしていくために、ぜひ、自然の中で発見したことを周りの人に伝えてください。それから、みなさんもきっと知っていると思うけれども、自然は良いことばかりではなく、人間にとって危険なこともあります。逆に、人間が自然にとって悪い影響を与えることもあります。「人間と自然の良い関係ってどんなだろう?」時々そういうことについてもお話をしてみてくださいね!

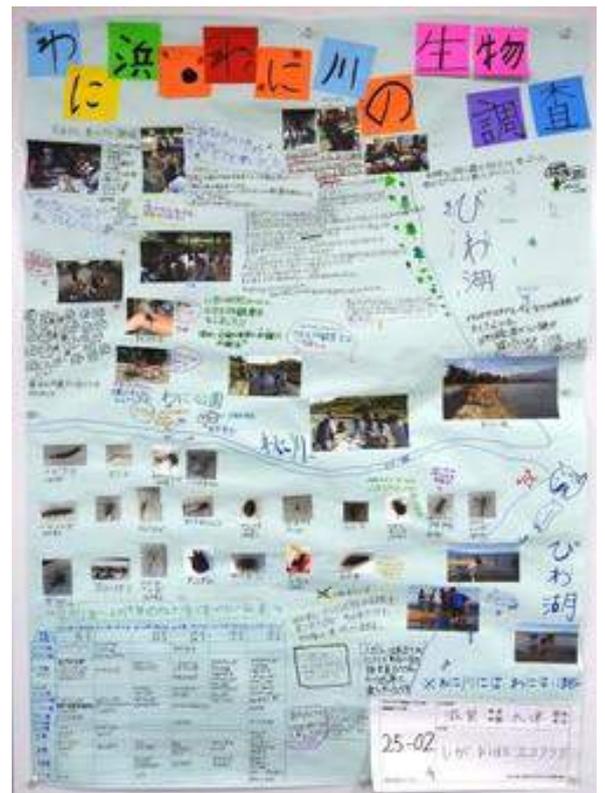


しが kids エコクラブのみなさんへ
師範から一言!

たくさんのゴミが拾えましたね。みなさんのようにゴミを拾う人がいる反面、かんたんにゴミを捨てる人がいることは残念です。しかし、みなさんがゴミを拾っている姿を見て、協力してくれる人、ポイ捨てをしなくなる人などが必ずいるはずですので、これからも活動がんばってください。和邇川には、ワニはいないようですが、たくさんの生き物がいますね。取れた生き物を見ると、わりときれいな川の様ですね。これからもきれいな川であり続けられるように、みなさんの活動に期待しています。

とっておきのゴシドウ★

和邇川は今もきれいな川の様ですが、田中さんにお話をうかがって、昔はもっときれいだったこともわかったようですね。なぜ昔に比べてよくなってしまったのでしょうか? その原因についてはみなさんも少しずつ気づいたのではないのでしょうか。では昔のようにするには? 地道な活動を続けるみなさんの意見なら周りの人々もきっと聞いてくれるはずだと思います。新聞の形でもいいので、これからも活動を地域の方々に向かって紹介していきましょう。そして昔のような和邇川になるように活動を続けていきましょう。東京からも応援しています。



ぼてじゃこワンパク塾のみなさんへ

師範から一言!

初めに食べ物の体験が紹介されています。アメノウオ、ウロリ、ビワマスなどめずらしい淡水魚が登場しますが、この生き物を食べてしまったのですから、命を奪った生き物たちにまず感謝したいと思います。沖島の食べ物体験をレポートした二人のメンバーがウロリのつくだ煮もビワマスの刺し身も美味しかったと報告しているので、生き物たちの命を十分味わってくれたと思います。

ウロリと呼んでいるヨシノボリの稚魚のつくだ煮は美味しそうですね。この外ではブラックバスのフライにも人気があったようです。どれも初めて食べたが美味しく感動したと感想を残しています。ブルーギルの釣りではたくさん釣れて楽しかったと印象を残しています。

イチモンジタナゴのタライ繁殖実験には6家族9人が参加して、4月下旬から7月下旬まで辛抱強く観察をしています。セキシヨウモと同居させたりしたのですが、貝ダニの出現、ヌマガイの死亡、産卵ストレスなどで上手く産卵にいたりませんでした。でも飼育場のポイントをつかまえています。安定してヌマガイを飼育できること、イチモンジタナゴも安定して同居できること、これができてから産卵につながると思います。今年は駄目でも来年がんばりましょう。

とっておきのゴシドウ★

6年前から「淡海こどもエコクラブ交流会」に参加して、「イチモンジタナゴのミニ実験」の発表に挑戦しているそうですが、この取り組みがとても大切なのです。生き物と付き合うと毎年新しい発見や気づきがあると思いますので、みんなが生き物好きになってほしいものです。残念なことに今年は稚魚は生まれなかったけれど、なかなか生まれないこと、毎日の観察ストレスなどがあるとむずかしいなど、自然はもっと複雑なのかも知れません。この反省が次の成功につながると思います。めげないでまた実験に参加して、壁新聞に報告して下さい。



草津市立常盤幼稚園のみなさんへ

師範から一言!

ごみひろいをして、かべしんぶんでしょかいいしてくれました。みんな、どうでしたか? おじさんも、かいがんのごみひろいを、まいにちしています。ごみは、どこからきて、どこにいくか、していますか? また、みんなやせんせいといっしょにかんがえてみてください。ようちえんのまわりには、たんぼやはたけがたくさんあっていいなあ。むしやとりもたくさんいるでしょうね。おてらやじんじゃががたくさんあるのもいいとおもいます。また、みにいったり、しらべたりしたら、かべしんぶんでおしえてください。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

壁新聞は、よくできていると思います。活字も読みやすいのですが、年長さんなら様々な工夫や表現もできるので、子どもたちとも相談したり一緒に考えながら、壁新聞を子どもたちの作品として楽しみながら時間や手間はかかりますが、チャレンジしてみてください。グループに分かれて壁新聞も分担する方法もあります。すばらしいフィールドも持っていらっしゃいます。これからもテーマや指導に悩まれることもあると思いますが頑張って継続的に発信して頂けたらと思います。ぼくらはエコ探検隊というネーミングも活動内容も面白いし全国の見本にもなると期待しています。少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動や壁新聞をがんばってください。



なかす野洲川たんけん隊のみなさんへ
師範から一言！

なかす野洲川たんけん隊のみなさん、「やすたん2019」のすばらしい壁新聞をつくってくれて、ありがとう！

野州川での「草花しらべ」、「樹木伐採計測」、「川あそび」などで思い出にのこる1年間の活動を楽しんだようですが壁新聞からよくわかります。

この壁新聞を読んだたくさんのおともだちがこの自然いっぱいの野州川での活動をうらやましがると思いますよ。24種類の草花の名前をよくしらべましたね。つぎは、それぞれの草花のとくちょう、ぶんか、れきしなどをしらべるともっとおもしろくなり、さらに草花のいろいろなお遊びにもチャレンジしてみてくださいね。

3回で396キロもの木をきったことにおどきました。ノコギリだけがをしませんでしたか。きった木はどのようにつけたのかな。とん汁がとてもおいしそうですね。

野州川に21種類の水生生物がいたことにまたまたおどろきました。さらに川で泳げたことはいい体験をしましたね。最近では泳げるようなきれいな川が少ないので、みなさんがいつまでも泳げるような川にしてほしいと思います。

草花、木の伐採、水生生物などで自然のたくさんのおともだちと、おともだちになれてよかったと思いますので、これからもず～っと自然をおともだちとしてなかよくしていきましょう。

つぎの壁新聞をわくわくして楽しみしていますよ！！



とっておきのゴシドウ★

みなさんのために野州川でのいろいろなたいけんのきょうりょくをしてくれたサポーターの人たちにかんしゃしましょう。

みなさんの野州川の自然を守るためのすばらしい活動は1年だけで終わらず、毎年続けることが大切です。このような自然を守る活動は楽しいことばかりでなく、有害、毒などがある動物・虫・植物などを知ること、ノコギリ、ハサミなどの道具の使い方でのけがなどのきけんなこともたくさんありますので、安全な活動ができるようにサポーターの人たちといっしょに相談するようにしましょう。

甲賀市立油日小学校エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

いろんな委員会があって活動しているのですね。それぞれの委員会が自分たちの推進する活動の中で、エコのことをキチンと意識しているのですね。1年生の時から、上級生と一緒に活動するって、すごくいいことだと思います。(私が子供のころも、上級生がリーダーになって、一緒になって遊んでいたなー。人とのつながりを自然に体験し、学んだように思います。)

1年を通じての自然観察もとても良いと思います。楽しい体験の中で、季節の変化はもちろん、生き物が生まれ、成長し、次世代につなぐ。それを周りの変化との関連で学べることは、広い目で環境保全、生物多様性の保全をとらえる力の基礎を身に着けることができるのではないのでしょうか。

とっておきのゴシドウ★

自分たちの活動を全部伝えたいという気持ちが伝わってきますが、逆に、たくさん入れすぎて、多少ごちゃごちゃ感があったり、初めて読む人には、わからない言葉があったりするのが気になります。(例えば、「ザリガニのすみわけ活動」をするってどんなことなのか？ クリは、自分たちで作っているもの？ どこかでとったもの？ とか。)初めての人にもわかるように書いてあると良いと思います。いくつかの新聞に分けることもありかなと思います。

写真も多く使い、コメントも書かれています。上級生と下級生との反応のちがいなども書かれていると、もっと生き生きと様子が伝わってくると思います。また、「メス、オス、どっち？」で終わっているものがいくつかありますが、みんなで勉強したであろう、このちがい、見分け方なんか書いていると良いかなと思います。



京都府京都市 京都聖母アイキッズ

壁新聞のタイトル:びわ湖のめぐみ探検…食を通して水・人・命のつながりに学ぶ

京都聖母アイキッズのみなさんへ

師範から一言！

京都聖母アイキッズのみなさんは、「びわ湖のめぐみ探検」のテーマで、1年間の活動を用紙いっぱい、ていねいにまとめてくれました。私は東京に住んでいますが、びわ湖が貴重な生態系をはぐくむ水辺資源であり、京都の食文化をささえていること、なりよりその恵みをみなさんが学んで、いろいろなことを考え、それを自分たちのことばやイラストでしっかり表現してくれたことが伝わって来ました。

蹴上(けあげ)のインクラインは、その当時の世界最長の勾配(こうばい)鉄道として使われていたと聞いて、私も京都に行った時にレールを歩いたことがあります。みなさんのように13キロも歩けませんでした。先人(せんじん)たちの熱意(ねつい)や技術の力に感動しました。みなさんが「ありがとう！」とさけんだ気持ち、よくわかります。

また、びわ湖の固有種(こゆうしゅ)のビワマスを学んだだけでなく、魚のからだを観察しながら、調理(ちょうり)していただきましたね。その時の「まだ心臓が動いていてドキドキしました」という気づきはとても大事です。魚も私たちと同じ生きもので、そうしたたくさんの方の命をいただいて、みな生かされています。食べるときは感謝(かんしゃ)して、むだなく、残さず、大切にいただかないといけませんね。



とっておきのゴシドウ★

京都聖母アイキッズさんは、今回、京都疎水のことやびわ湖の生きもの、食文化など、さまざま学んで、体験(たいけん)し、報告(ほうこく)してくれました。今度は、新聞を読む人たちを想像(そうぞう)してみませんか。一番に伝えたかったことは何でしょう？びわ湖のことを知らない人に、どう説明したら、その素晴(すば)らしさをわかってもらえるでしょうか。

みなさんのステキな活動写真や、生き生きとした感想はそのままで、全国のお友だちに向かってわかりやすくメリハリのある見出しを考えたり、みんなで話し合ったエコなポイントを加えたりすると、新聞を読んだお友だちも「びわ湖の固有種と外来種はどのくらいいるのかな」「近くの疎水をさがして、京都疎水とくらべてみよう」などと、活動のテーマが広がっていきます。

つぎの発表も楽しみにしていますね！

京都府木津川市 木津川市こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:わが辞書に使い捨ての文字はない

R1-26-02

木津川市こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

木津川市こどもエコクラブのみなさんは、環境のことをしっかり考えながら、楽しい壁新聞を作ってくれました。

まずはタイトルが目を引きまます。イラストが上手に描かれているので、「ナポレオンの有名なことばをもとにしている」とすぐわかりました。さらに、プラスチックを楽しく減らすために「すごろく」を考えたとアイデアが、本当にすばらしいです！

早速、やってみました。スタートからすぐに「水筒を忘れた！1回休み」でガッカリ。さらに「ペットボトルの山を見てしまい、しょうげきで2マス戻る」…たしかにペットボトルの山を見たら、だれでも心がへこむなあと思って、しょんぼり戻りました。その後は「プラスチックにかわるものを見つける」「大人(企業)に協力してもらう」と順調にいきましたが「台風がきてプラスチック製品が海に流れてしまった。スタートに戻る」で、またふり出しに…最近、温暖化(おんだんか)の影響(えいきょう)で海水温も上がって大きな台風も増えているので、しかたがないですね。

1マス1マスの内容がよく考えられていて、クスッとわらえて、でも、なっとくできました。これらをみんなで行動すれば、プラスチックが減って、ゴールにいるシロクマやコアラたちが住む環境も守ることができるでしょう。

また、ペットボトルの代わりにびんを使えば、洗えばそのまま使えます。そこに気がついて洗びん工場を見学し、写真を使ってしっかり報告してくれました。お茶を摘(つ)んで、急須(いっす)でいただいたのもよい体験でした。ペットボトルを減らせますし、いれたてのあたたかなお茶はうまみもあり、気持ちもホッとできますね。



とっておきのゴシドウ★

さて、みなさんが作ったすごろくを学校のお友だちや、家族の人たちとやってみましたか？楽しみながらエコなことを考え学べる大変すぐれた内容ですから、たくさんの人に伝えて、行動の輪(わ)を広げていきましょう。

さいころが止まったマスでは「お店に行くときに、マイバックを忘れないようにするにはどうしたらいいと思う？」などとお話しながら、たくさんの人とすごろくを楽しんでみてください。そしてみんなの感想や意見を聞いたら、また教えてください。

大阪府大阪市 せいわエコクラブ

壁新聞のタイトル:①森を守り 水を守り 生きものを守りたい②しぜんとなかよく③街で自然を楽しもう

①R1-27-01(推

薦)②R1-27-02③R1-27-03(推薦)

せいわエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言!

この新聞のデザインが、すばらしいと思いました。中央に、大きく1本の木が描かれてあり、水と木の関係が、直感的にとてもよく伝わると思います。淀川と琵琶湖との関係も、図でしっかりと表現されていて、おそらく、他県の人からも理解がしやすいのではないかと感心しました。

みなさんは中学生なんですね。今の日本の森林の現状とか、なぜ森の手入れが必要なのか、よく掘り下げてあると思いました。それと、SDGsとの関わりもよくわかります。みなさんが、現地で学んで、自分なりに知ったことや考えたことが書かれています。廃プラの問題、外来種の問題、森林の放置の問題、、、環境問題が網の目のように関わり合っていること、それが日本、世界へとつながっていることが多くの人にきくと伝わるのではないかと思います。

とっておきのゴシドウ★

本当に、アドバイスが必要ないと思うほどよくできていると思います。特にこのような大胆でスケールの大きなデザインは、先生もとても思いつきません。森や水をめぐる様々な現状の問題をまずは知ってもらえると思います。

もう少し掘り下げてみるとすると、日本の森林(植林地)で、手入れが不足している理由はなぜなのでしょう。また、美しい魚、イタセンパラが絶滅の危機に追いやられたのはなぜなのでしょう。そして、廃プラの問題について話し合った時に、どうしたら解決ができるかということに対して、どんな意見が出てきたのか、是非きいてみたいと思いました。みなさんなりに、そうした問題のさらに深い所まで詳しく調べてみたり、書いてみたりすると、読んでくれる人にとってもいろいろと考えるきっかけになるんじゃないかな。

地域事務局からの応援メッセージ【大阪市】

一つ一つの活動が写真と文章(活動の目的と成果を簡潔に表現されている)で、うまくまとめられています。多くの森を守る活動と水を守る活動が生きものを守ることにつながっていることが読み手にしっかりと伝わってきます。SDGsの考え方がそのバックに散りばめられてもいます。自分たちの主張が一本の木として明確に表現されています。



大阪府大阪市 せいわエコクラブ

壁新聞のタイトル:①森を守り 水を守り 生きものを守りたい②しぜんとなかよく③街で自然を楽しもう

せいわエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言!

とても楽しそうな写真と絵、そしてみなさんの体験した記事を読むと、春夏秋冬で自然のなかで自然を楽しんでいる様子がよくわかります。見ている方も、楽しい気持ちにさせてくれる、とてもすてきな壁新聞だと思いました。山菜の天ぷらが美味しそう、それにクワガタを見ついたり、スイカを食べたり、バッタ競争をしたり、大変な間伐をやってみたり、うらやましくなります。間伐は、なぜしなければならないかも、ちゃんと勉強したことが書かれていましたね。地球からの私たちへ宿題という一文に、はっとさせられました。私たち人間がもともとあった森の木を伐って、スギやヒノキを植えたのですから、その手入れをしっかりとしなければならないことは、本当にその通りですね。でもそのあのごほうびのことも書かれていました。自然は、どこまでもやさしく私たちにいろいろなものを与えてくれますね。

とっておきのゴシドウ★

みなさんはきっと年に何回かこの場所に行って活動をしているのでしょうか。それぞれの会で、大きなまとまりのタイトルをつけてみたらどうでしょう?一番伝えたいことや感動したことを一言で伝えられるような題名ですね。難しいかもしれないけどチャレンジしてみてください!

昔の人は、山菜を山から採ってきて食べていたんですね。どんな植物が食べられるのか、昔の人はちゃんと知っていたんですね。この新聞にもコゴミ、コシアブラ、ノカンゾウ、...いろいろな種類の山菜の名前が書いてありました。どんな植物なんだろう。きっと見たことのない人がたくさんいるでしょうね。どんな植物か、写真などがあると「へー、こんな植物なのか」と興味を持ってくれるかもしれないですね。琵琶湖の近くでゴミ拾いをしたんですね。どうして陸に近づくとゴミが多くなるんだろう?どんなゴミが多かったのかな?ゴミをポイって捨てちゃだめだなんて、思ってくれるかもしれないね。

地域事務局からの応援メッセージ【大阪市】

琵琶湖・北小松での環境保全活動、そして堺市共生の森での環境保全活動を中心に、一人一人がどれだけのことを体験から学んできたかがよくわかります。楽しかったことが絵や写真から伝わってきます。これからも自然となかよくしていきましょう。



大阪府大阪市 せいわエコクラブ

壁新聞のタイトル:①森を守り 水を守り 生きものを守りたい②しぜんとなかよく③街で自然を楽しもう

せいわエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

せいわエコクラブのみなさんは、いろいろな楽しい環境活動をしているのですね。楽しみながらエコを学んでいることがすばらしいと思いました。そうした一つ一つの実践体験を、写真とコンパクトな文章と、実施した日付を添えて統一した形でまとめてあり、読みやすいと思いました。みんなで書き方をそろえたチームワークのおかげだね。

今回、3Rのこともよく勉強しましたね。海のプラスチックゴミにも関係していることを学んだのですね。交流会では、どうしたらプラスチックゴミが減らせるのか、とてもいい話し合いができたのだ、と思いました。みんながどんなことができるか、一人一人自分の生活の中で具体的に考えることは、環境問題ではとても大事なことだと思います。

牛乳パックで紙を作ったり、玉ねぎで染めてみたり、しめ縄を作ったりした様子も、とてもかわいいイラスト入りで、くわしくわかりました。他の人もこれを見ながら試してみることができそうですね。

とっておきのゴシドウ★

真ん中にタイトルがあって見やすく作られていますし、一つ一つの記事もていねいに書かれていますね。言うことはありません。ですので、考えるヒントだけ書いてみます。玉ねぎの皮で布が染められるなんて、面白いね。昔の人は、草や木の皮、葉っぱなどを使って、布を染めていたのですね。なぜそんなことをしたのでしょうか。草や木の成分には殺菌・殺虫効果があるので病気などにかかるのを防ぐためという話もありますよ。赤ちゃんのうぶ着に草木染の布を使っていたんだって。そんなことも調べてみると、昔の人たちの生活がわかりますね。

しめ縄のことも、調べてくれていますね。なぜお正月に飾ったんだろうとか、なぜだいたいを使ったんだろうとかについても調べると面白いことがいろいろわかりますね。そうした昔の人の生活は、とても物を大事にし、自然の素材を使ってつましく生きていましたね。今の生活で、3Rを実践していくうえで、ヒントになることもたくさんあるかもしれません。そうしたヒントを探してみてください。



大阪府大阪市 大阪市立新北島中学校科学技術部

壁新聞のタイトル:コカ・コーラ環境フォーラムに参加しての報告

27-04

大阪市立新北島中学校科学技術部のみなさんへ

師範から一言!

まずは、コカ・コーラ環境教育賞優秀賞受賞おめでとうございます!いつも日々の環境レポートを拝見させてもらっていましたが、こうして改めて評価を受けるのを見て、とてもうれしく思います!

今回の壁新聞は、以前使用したポスターを使って、その周辺に、フォーラム活動を追記しているのですね!ここまでしっかり自分たちの活動についてしっかり説明しているポスターはなかなかありませんし、それを使って、今回のフォーラムの感想を述べているのは、情報発信としても、活動の継承としても良いアイデアだと思います。

とっておきのゴシドウ★

今回のコカ・コーラのフォーラム参加について、とても詳しく、楽しく、美味しく(笑)、いきいきと書かれていますね。みなさんの日々の行動の様子がよく伝わってきます。できれば、今回用いた過去のポスターの割合をもう少し縮めてでも、体験を通したお話をまだまだたくさん聞きたいと思いました。

また、それぞれの活動日を書かれた色紙にも、ポスターで描いたように、タイトルや図表をつけて表現してみると、よりわかりやすく、そしてもっとバランスの取れた壁新聞になると思います。

活動の積み重ねと研鑽の継続がこのクラブの魅力です!これからもがんばってください!



柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーゆきぐみのみなさんへ
師範から一言！

かべしんぶんをみてください。まんやかに大きく、ごみについてかんがえてみたとおるとおり、もえるごみ、もえないごみ、リサイクルごみの三つにわけてあつめていることにきがついていますね。さて、ごみをつんだパッカー車はどこにいくのでしょうか。

また、たなばたかざりでつかったササをつかって、あさがおのしちゅうをつくり再りようしているとかべしんぶんにかいてあります。ぼくも たけざいぐをしますが、これは ちきゅう の おんだんかぼうし に やくだつことなんですね。すばらしいかつどうだとおもいます。

落葉をあつめ、いもむしが羽のあるちようちよにかわるすがたを見ているのは、とても きちょうなたいけんだとおもいました。その目は だんごむしの せいかつにも むけられているのも きちょうな たいけんだとおもいます。

とっておきのゴシドウ★

ごみが大きく3しゅるいに分けられてしょぶんされていることがわかりましたね。つぎは、ちかくのごみ処分場を見学してみてくださいね。こんちゅうみつけ はずいぶんたのしそうですね。自然をしんけんにするために、せみのぬけがらしらべにも取り組んで、種類とオスとメスの割合などをしらべるといいですね。このぬけがらしらべは、はたけのひりょうとしてりようされています。少しずつオスとメスの割合などがわかってくと7年後のセミがうまれてくる数がわかるようになりますよ。



柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーつきぐみのみなさんへ
師範から一言！

土をみんなでたがやして大豆をそだて、大豆をうえて、夏休み中にかれてしまいましたとかいていますが、はちうえのあさがおだっておなじことがおこります。かれてしまったとおもっていたら、なかからたねがでてきたということで、さぞやびっくりしたことでしょう。こうして大豆はくりかえしていきっていくのです。そのまっただなかでたいけん できるのはすばらしいことです。

また、梅ジュースづくりでは はじめてのたいけんでありながら、だいせいこうです！ポスターのしゃしんをみるとよくわかりますね。このジュースはぼくも毎年つくって夏のあつい時季につめたくした梅ジュースをたのしんでいます。いろんなところでつくってほしいジュースとおもいました。

とっておきのゴシドウ★

このほいくえんでは ゆず や れもん なども さいばいしているし、ゴーヤやきゅうり、めずらしい さんじゃくまめ、とうもろこし などをそだてています。こんどは じぶんたちがそだてたやさいとくだものだけで おひるのメニューをつくらせてはどうでしょうか。すっぱい さらだ はまだむりかな？でもおもしろいとおもいますよ。



柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーほしぐみのみなさんへ
師範から一言！

かべしんぶんをみて、まんやかに大きく、ごみについてかんがえてみたとおるとおり、もえるごみ、もえないごみ、リサイクルごみの三つにわけてあつめていることにきがついていますね。毎週月曜日と木曜日になると、みなさんが自主的に ごみあつめ にでかけたという話をきいて、エコ活動にねっちゅうしていることにかんどうしました。

とっておきのゴシドウ★

「よいはたけづくりに、はっこうしてあたたかく、えいようのあるつち(ふよど)が必要です」というサポーターからのメッセージはこどもたちへつたわって、すばらしいとおもいました。らいねんも、おいしいやさいがそだつといいですね。



ひじりがおか レインボーズのみなさんへ
師範から一言！

2019年は、セミぬげがらをあつめて、しらべたのですね。たくさんいましたね。おとなでもセミのなまえをぜんぶわかるひとは、すくないですよ。しゅるいをしらべたり、おす、めすをしらべたり、よくできているとおもいます。セミのなきごえは、ききましたか？ セミのなきごえはしゅるいによってちがいますよ。またしらべてみてください。セミは、なにをたべてるのかなあ。セミのぬげがらを、ひりょうにするのもすごいなあ。セミのぬげがらも、もりのなかでは、おちばとおなじで、ちいさくなったり、くさって、つちになります。つちになって、いいひりょうになるとおもいます。みんなは、ようちえんで、はなややさいをそだてているんですね。たのしいですね。よくみたら、むしやとりもきてますよ。いろんな活動を一杯しましたね。壁新聞でもいろいろ写真を使いながら紹介してくれてありがとうございました。言葉や文字にも伝える力があるけれど写真や絵にもあるので、伝えたいことがいろいろあるときは、組み合わせながら進めることがとても有効です。壁新聞を自分たちで作るとその伝え方の勉強にもなります。楽しそうな様子が写真から伝わってきました。いろんな体験をして感じたと思うけれど、その体験をしたり、継続して行ったらどんな良いことがあったり、続けるためには何が大切なのかということなんかも、壁新聞を通じて全国のこどもエコクラブの仲間に教えてほしいと思います。こどもエコクラブの活動も継続していくことが大事です。みんなのクラブでもがんばってください。



サポーターへのおきゴシドウ★

園庭を活用して素晴らしい活動をされていると思います。

雨水利用や給食利用も、教育の可能性や活動の広がり深まりの可能性を感じます。それぞれの活動の工夫点などを紹介してほしいです。少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからも是非、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。

大阪府高槻市 高槻市立第六中学校・自然観察同好会

壁新聞のタイトル:①淀川の水質調査 ②淀川の環境保全活動 ③水道の水はおいしいのか

R1-27-09~11 (全3枚)

高槻市立第六中学校・自然観察同好会の①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

水質検査結果の整理のしかたがすばらしいです！川のイラストを作成して、川の周りの様子を写真で伝えて、検査地点での測定値をシールで色分けして見やすくしているといった点です。さらに各検査項目の結果の説明において、発生源は何であるかといったことや分析や考察がのべられています。この分析や考察は、対策を考えたりアクションをおこしたりするために大切なことですので、とても充実した内容になっています。

移動に自転車を使っているのはいいですね。単にエコというだけでなく、地図だけでは分からない川の様子や周りの環境が分かるということでたくさんのメリットがあることが伝わってきました。川の周りでくらす鳥や昆虫もたくさん見かけましたか？

排水処理場を見学して、COD200もの汚水が途中微生物の力をかりてCOD6にまできれいになることに驚いたことでしょう。自然の中にある多くの微生物のおかげで物質の自然循環が行われていることを実感しますね。

とっておきのゴシドウ★

水質の検査だけでなく、淀川や荒川で生物調べもしているのですね。サワガニ以外にもたくさんの水生生物をみつけたと思いますが、「サワガニ＝水がきれい」ということが水質検査の結果で確認できましたか？「きれい」「きたない」といった抽象的なことが、検査によって数字で分かるというのは、技術の発展が環境活動に活かされている良い例だと思います。



高槻市立第六中学校・自然観察同好会の②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

竹林は放置してしまうと毎年出てくるタケノコが竹になり、どんどん暗い林になって
しまいます。タケノコはなぜそれほど成長が早いのでしょうか?! タケノコをたてに
きると空洞の部分と節のような部分があります。竹はその節と節の間すべてが成
長するので、1か所が1cmのびるとすると、節の間が50か所あったら50cmのび
るわけです。また地下茎の広がる勢いが強いので、竹林近くの道路のアスファルト
がもりあがっているのを見ることがあります。定期的に竹を切って生活に利用でき
るしくみができるといいですね。

写真を見てナガエツルノゲイトウの成長の早さにびっくりしました。切り取った茎が
下流に流れていったら勢力をひろげてしまうので、川の植物の除去には気を使いま
すね。特定外来生物に指定されているので、ブルーシートで覆って枯らしてから
移動させていることが参考になりました。

ワンドは川の本流の影響をゆるやかに受けることができるので、川や池と異なる独
自の生態系になっていて、イタセンパラやヨドゼザラのライフサイクルに適してい
るのでしょう。動植物の保護をするときには、すでに地域一体となって取り組みをされ
ていますが、その動植物がくらす生態系を守ることが一番大切ですので、ぜひその
取り組みを続けてください。

とっておきのゴシドウ★

草と木のちがいは何でしょうか? 木は上に成長するだけでなく、横にも太ることです。

新聞に書いてくれた形成層が太るために必要なので、環状形成層剥離法ではそれをおさえこんでいるのですね。以前冬に、木
の樹皮をぐるりと一回りタイワンリスにかじり取られてしまった木を見たことがあります。枯れてほしくない木が外来生物によっ
て影響を受けるのは残念なことです。ちなみに竹は木でしょうか? 草でしょうか? どちらでもないという考えもあっていいと思いま
すがどうでしょう?



高槻市立第六中学校・自然観察同好会の③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

「水道の水はおいしいのか」というタイトルは、誰にでもわかりやすく、新聞を読み
たくなるようなフレーズですね。私も「おいしい」をどうやって調べたのだろうと思
いながら読みました。

日本は水道水が飲める数少ない国の一つですが、水道水を飲んでいますか? そ
のままでも、きとお湯を沸かすときや、水だしティーパックのとき等に当
り前のように使っているのではないかと思います。その一方でミネラルウオー
ターのペットボトルの市場は年々大きくなっていて、水を買う人が増えているのが日
本の現状です。

おいしいのかどうかを調べる方法として、検査セットとアンケートの2つのアプ
ローチがあるのがいいですね。食べ物でも人それぞれ好みがちがうように、水につ
いてもアンケートによる統計データは傾向をみるのに便利です。世代による好み
の差があるのか、水の質がちがう海外の人はどうなのか等いろいろ知りたくな
ります。スーパーなどでよく見かけるミネラルウォーターはインターネットで調べ
ると硬度がのっていて、日本メーカーのものは軟水が多いです。

ところで3種類の水を飲みくらべるときに、工夫したことがあれば教えてください。

水の温度は同じですか?

とっておきのゴシドウ★

淀川の観察を通して気づいたこととして、ゴミと外来生物が多かったことをあげてくれました。ゴミが放置された写真を見ると、き
れいな淀川をイメージしている人たちはおどろくことでしょう。外来生物は海外からきたものが目立ちますが、本来その地域に
いないのに人為的に持ち込まれた国内種がないかも気を付けてみてください。海外からの外来生物が増えやすい傾向にあ
るのは、天敵がないからです。クズは日本でもよく見かける植物ですが、海外で手をつけられないほど増えているところもあ
ります。



兵庫県神戸市 あさひクラブ
壁新聞のタイトル:あさひエコ新聞

あさひクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

2019年の『やさいクラブ』は、2月の「ジャガイモと玉ねぎのうえつけ」から11月の「サラダまつり」まで、もりだくさんの活動でしたね。やさいを育て、お料理してみんなで食べるだけでなく、「スイカやさん」になって、地域の方に販売もしました。自分たちが育てたスイカを買ってもらうため、「とりたて！」のスイカのイラストでアピールしたり、プラカードを作って宣伝したり。かわいい浴衣姿の売り子さんとしてよくがんばりました。その地域で作った食べものを、その地域で食べる「地産地消」のとてもよい体験になりました。

今、スーパーに行けば、世界中のやさいやくだものが当たり前のように売られています。しかしそれは、種をまいてお水をあげたり、間引きをして育て収穫する農家の方、それを箱やパックにつめる人、遠くからお店まで運ぶ人、値札を付けてならべる人、そして販売する人など…。多くの方に支えられて、私たちが買うことができます。食べものは感謝して、残さず、大切に食べないといけませんね。

とっておきのゴシドウ★

「やさいクラブの活動」は、たくさんの情報がつまった新聞です。「やさいキャラクター」のイラストも、1つ1つがちがいが、「スイカは頭にも、おなかにも、足にもなるんだ！」と見ていてとても楽しかったです。

ただ、たとえば「スイカの苗うえ」で200人分のスイカができると書いてあります。その後の「スイカやさん」ではたくさんのスイカを売ったと書いてあります。スイカは200個、ちゃんとできたのかな？全部売り切れたのかな？と、ちょっと気になりました。新聞は、みなさんの活動を知らない多くの方が読みます。その中には「私たちもスイカを育ててみたい」と考えるお友だちもいると思います。もう少し具体的な数字などの情報をおしえてもらえると、この新聞をきっかけに、やさい作りをする人が増えて、全国で「地産地消」が広がっていくかもしれません。

これからも、たくさんたのしい活動をして、その内容をしっかり伝えてください。



兵庫県神戸市 あさひクラブ
壁新聞のタイトル:あさひエコ新聞

あさひクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

かいぼりを行うきっかけから、あみづくり、かいぼり体験、その結果までの記録が、とてもいいにまとめられています。私たちもいっしょにかいぼりをして来たように、楽しく読みました。

また感想もしっかり書かれているので、「こんなに大きなあみにどんな魚がとれるんだろう！」とワクワクした気持ちや、あみがどんどん重くなって「さいごの力をふりしぼって引いた」たみなさんのがんばりが伝わってきました。

かいぼりをするふだんは見ることができない、水の中で生活している生き物を見つけることができます。その池にもともと住んでいた在来種、外から持ちこまれた外来種のちがいや、それぞれの特徴などもイラストでわかりやすく描かれています。

かいぼりは、最近ではテレビでも放映されるようになり、いろいろなところでイベントのように行われています。その中でもみなさんは、ため池のお話を学んだり、あみや浮きなどの道具を作ったり、準備からしっかり参加しているところが、とてもよいと思いました。

とっておきのゴシドウ★

ため池は、昔からお米作りが盛んで、雨が少ない地方で多く作られていました。しかししっかり管理できないと、水がよごれしまったり、こわれて危険な洪水がおきたりするため、今は埋め立てて、なくなってしまうため池が増えています。

みなさんが住んでいる兵庫県は、日本でいちばん多い2万4千ものため池があると聞いています。みなさんもかいぼりをしてわかったように、ため池はたくさんの生き物のすみかになったり、ゆたかな水とみどりが、人のやすらぎのもとにもなります。ため池に行ったときに、ホッとして気持ちがよかったんじゃないかしら？

むかしからたくさんの人たちの手で守られて来たため池を、これからも観察したり、守る活動を続けてくれるとうれしいです。その貴重な情報をまた壁新聞で紹介してくださいね。



兵庫県神戸市 あきばだいじどうかん 壁新聞のタイトル:エコキッズ新聞

あきばだいじどうかん エコキッズ①新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

公園をみんなでごみ集めて、きれいにできました。3つ全部の公園で見つかった忘れ物のボール。感想にも書かれてあったけど、ボールに名前が書いてあれば、持ち主に返せてごみにならないし、新しいものを買うこともない。本当にもったいないですね。

そして、秋葉台公園で落ちていたごみの一つ、ペットボトル。今、海のなかにプラスチックのごみがたくさんになってきて、海の生き物が困っています。

公園に捨てられたペットボトル、海のごみと関係ないように思うけど、実は関係があるんです。ペットボトルも海を困らせているプラスチックごみの一つだそうです。

道路などにポイ捨てされたペットボトル、大雨の日にもぞや水路に流され、それが川、そして海にたどり着くこともあるそうです。

公園のごみがなくなると、みんなが気持ちよく遊べるだけでなく、実は、遠い海まで繋がっている場合もあること、そんなことも知ってもらえたらうれしいです。地域だけでなく地球全体をきれいにしている活動なので、これからもぜひ続けて下さい。

とっておきのゴンドウ★

地域の大人と一緒に活動することも大事です。児童館の花だんでたくさんのお花を植えているんだね。すごい。

たとえば、ごみ拾いをしている公園に、お花を植えることはできないのかな。花だんにお花を植えると、公園を使う他の人たちもよろこびます。また、花だんがきれいな公園って、地域の人が大切にしていることが伝わってくるから、ごみのポイ捨ても減る効果もあるように思います。

もし、すでにみんながそんな取り組みしているのなら、次回の壁新聞でぜひレポートしてください。

あきばだいじどうかん エコキッズ②新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

児童館のなかに畑があるなんてステキです。季節ごとにどんな野菜が出来るのか実感できるし、なんといっても季節ごとにとれた野菜はおいしいものです。

夏に作ったキュウリ、なんと1株で30本以上とれるんだね。とても上手にそだてることができた証拠です。きゅうりは水分がたくさん含まれている野菜。その分水やりも大変だったと思います。また、さつまいも畑の大発見。キノコが生えてきたんだ。キノコが生える畑は、良い作物ができることも私自身は知りませんでした。発見の連続、すごいね。

これからも、いろいろな発見、ぜひ新聞でも記事にしてね。

とっておきのゴンドウ★

野菜作りは、こどもメンバーだけで育てているのかな。大人の人にも手伝ってもらっているのかな。そして、出来た野菜はみんなで料理して食べるのかな。

野菜のさいばいの活動について、この新聞だけでは分からないこともいっぱい。他にも聞きたいことがたくさんあります。次に新聞を作った時は、そんなこともぜひレポートしてください。

あきばだいじどうかん エコキッズ③新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

自分たちの住んでいるまちにある会社の人に先生になってもらってお話を聞くことができるのはとてもうれしいことです。磁石のパワーを知る実験、私も体験してみたいなあ。どんな実験なんだろう。

手回し発電や自転車発電で、電気や扇風機、ラジオなどつけたことが私もあるのですが、手回し発電でミニユンボを動かす体験は初めて聞きました。楽しそう。手回し発電で、小さいユンボを動かしている写真を一生懸命見てみたけれど、カラフルな地面はどうなっているのかな。写真だけではちょっと状況がよく分からないのが残念です。

いずれにしても、手回し発電を実際体験すると、スイッチをつけると、電気が普通に自由に使える日本の生活のありがたさが分かります。電気をむだにせず、大切に使いましょう。

とっておきのゴンドウ★

環境カルタでの学びも楽しそうです。この環境カルタは誰が作ったカルタかな。

児童館のせんぱいが作ったものかな。今回紹介してくれた3つのカルタの読みみふだ以外に、どんなことが書かれているのだろう。気になります。

この環境カルタなどで、児童館にいるメンバーだけでなく、周りのお友だち、おうちの人、近所の人などにもエコ活動をひろげていこう。お正月とかにカルタ大会を開くのもいいかもしれませんね。



ゆきのごしょエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

ゆきのごしょエコクラブは、いろんなことにチャレンジしていますね。
調べながら勉強してみんなで大切にしようとしていることが壁新聞から伝わってきました。
タイトルや写真、説明もわかりやすくて上手にまとめていると思います。
クリーン作戦を毎月、がんばっているのは感心しました。

川に囲まれた公園だと思いますが歴史も自然もある良い公園ですね。大切にする甲斐がありますね。

これからも児童館のみんなでがんばったら近くに住んでいる人たちも一緒に活動してくれる人が増えてきたり、ゴミを捨ててしまうことがあった人も、みんなの活動のことで知ってくれたら捨てる人も減ってくると思います。

おじさんも家の近くの川を毎月、クリーン作戦を10年以上続けていますが、参加してくれる人が増えて来たり、子どもたちと一緒にクリーン作戦をしている姿見てくださった方が増えてきたので、捨てられるゴミもとても減ってきました。続けることが大事だと思います。生きもののこともわかってきました。「エコレンジャー」や「いどうこんちゅうかん」「ひょうご出前環境教室」も楽しそうです。

これからも、学校のみんなども教えあったり、こどもエコクラブの壁新聞を通じて、全国の子どもたちや大人にも教えてあげてほしいと思います。



サポーターへのおきゴシドウ★

壁新聞は、見やすく、読みやすく割り付けも、よくできていると思います。

すばらしい活動を継続的に進められているので、これからもテーマや指導に悩まれることもあると思いますが頑張って継続的に発信して頂けたらと思います。外部の講師や取り組みも組み入れることも、総合的な活動にしたり、お世話をされているサポーターのご負担を軽減することにもなるし、サポーターもみなさんも子どもたちと一緒に学べて良い活動だと思います。少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でも頑張って壁新聞もどんどん作って発信してください。

しのっちょ・バレーヌのみなさんへ
師範から一言！

しのっちょ・バレーヌのみなさん、こんにちは。いっしょに「エコ川柳」を詠んだのだね。

エコへの熱い気持ちがよくわかるとてもいい壁新聞だよ！「こうなるといいな」ではなく、「こうなるようにしよう」と、エコ活動を自分が行動することとしています。みなさん、ひとり、ひとりが主役になっていて、とてもかっこいいよ。

この1年間のエコ活動でそれぞれがしっかり考えてきたからこそ、かんたんな言葉できちんと川柳にまとめられたのだと思うよ。明るく楽しいイメージの川柳ばかりだね。とてもいいですねえ。エコ活動の目標や標語を決めようとするむずかしそうだけれど、「エコ川柳」で楽しみながら、エコ活動のことを考えるととてもよくわかるよね。川柳はちょっとおしゃれだね。自分達でどんなエコができるか、一生懸命に考えました。じっくりと考えることができたようです。お友達と意見交換をすることで、こんなこともあるのか、あんなこともやってみたいなあ、広がりがあるって非常にいいですねえ。これなら私もできる、いいこと思いついたなど教えあうことで、活動が広がるね。すばらしよ。

とっておきのゴシドウ★

みんなでエコについて話し合っ、ひとり、ひとりが自分のエコ活動を振り返っています。とてもいいですねえ。前に立っている先生から答えを教えられるのではなく、なかまと話し合うことで気づきを導き出しています。大切なことは、ひとり、ひとりが気づき、行動することです。答えはその先に見えてくるのかもしれませんが。気づいたことを17文字に表現し、それを上手に川柳にまとめています。ここからが活動のスタートでもあります。この川柳を活動に取り入れ、今後、「自分たちでどんなことができるのか」ぜひ考え行動してほしいです。その活動の報告も楽しみにしています。



神楽こども園 りんごキッズのみなさんへ

師範から一言！

りんごキッズのみなさん、こんにちは。たくさんのおもちゃをつかって、おいしくたべたのだね。とても、うらやましいなあ。

まんなかに、やさしい「て」にまもられた「ちきゅう」があり、そのまわりをひとりひとりの「かお」がかこんでいるね。たのしそうな「えがお」ときれいな「はな」がとてもすてきなしんぶんだよ。いいですねえ。

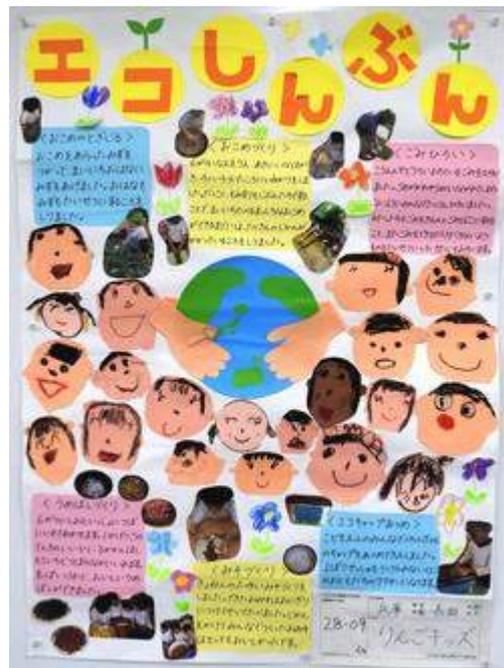
みんなでいっしょにそだてた「おこめ」がとれてよかったね。「おおきくなあ〜れ」、「おいしくなあ〜れ」、みんなのねがいをきいてくれたのだね。

たべておいしかったのがいちばんよかったね。よく、がんばりました。

まいにちおはなにおみずをあげているのだね。やさしいね。りんごキッズのみなさんが「とぎじる」をあげるときに、「げんき」もいっしょにプレゼントしていたのかな。すばらしいなあ。みなさんはおこめづくりのほかにもおみそやうめぼしもつくったね。いつもたべているものが、どのようにしてつくられているのかがよくわかりました。みなさんはたべものはかせだね。うらやましいなあ。たべものにきょうみをもって、たべものをたいせつにして、のこさずにたべられるようになったのかな。こうえんやどうろにおちているごみをたくさんひろいました。みなさんのまちがきれいになって、かわやうみもきれいになりました。どうもありがとう。ものをたいせつにして、おうちでのごみをすくなくするなんて、とってもおしゃれだね。みなさんのいちねんがよくわかりました。

とっておきのゴンドウ★

たくさんのおもちゃをつかって、とても、ありがとう。みなさんは、かつどうするときにごんなこととおもったのかな。「なんでだろう」とふしぎにおもったこと、「どうなるだろう」とそうぞうしたこと、「こうなるといいなあ」とおねがいがしたこと、みなさんがおもったこともしりたいなあ。おうちでは「こんなことをやってるよ」、「こんなことをしようとおもったよ」などでもいいよ。



玉一アクアリウムのみなさんへ

師範から一言！

玉一アクアリウムの活動については、日々の環境レポートを拝見させてもらっていましたが、今回のこの壁新聞の図表をまとめて見ると、本当にすごい活動実績だと感動しました。日々の活動でとれたデータについて、統計・分析して、成果として発表することの大切さを、これを見た人たちにもしっかり伝わったのではないのでしょうか。

全体の構成では、「外来種を減らす」「在来種・絶滅危惧種を増やす」「明石川の生物紹介」と、トータル的な情報発信をバランス良く発信していますね。環境活動はこうしたバランス感覚がとても大切です。

また、クッキングレポートの充実もすごいですね！食レポは多くの人も興味をもっているテーマですし、活動の流れでも写真付きで詳しく掲載されているので、考察も含めて、しっかり発信できたと思います。

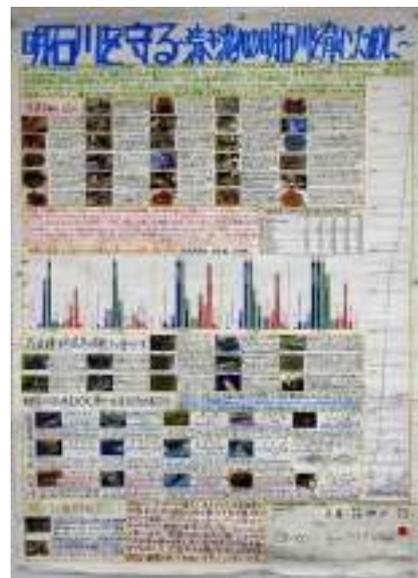
とっておきのゴンドウ★

情報量がすごく多い壁新聞ですが、全体のバランスや、図表の工夫、タイトル付け、そして色分けなどの様々な工夫によって、大変わかりやすく読むことができました。色とりどりの棒グラフや、突出した折れ線グラフなどで興味がぐっと惹きつけられました。

ただその分、写真付きの説明では、同じ大きさの写真を細かく載せすぎてしまったので、内容をよく読まない、記事の面白さがわかりづらいかもかもしれません。例えばタイトルも「外来種を食べて減らす」など、付帯的な副題をつけて紹介すると、写真の内容と一致して、すぐどういう活動なのかがわかると思います。活動の写真の並べ方も、料理の種類別や、感想別などに分けて紹介すると、見応えも変わってくると思います。

「在来種・絶滅危惧種を増やす」でも、例えば、地図をつかってそれぞれの取れた魚を紹介したり、季節で区分したりと、情報を一旦整理して紹介することで、視覚的に強く魅力を伝えることもできますよ！

「在来種でざわめく川」のネーミングはとってもいいですね！これからの活動とても楽しみにしています！！



なんてだろ塾のみなさんへ

師範から一言！

「なんてだろ塾」、とてもいい名前だね。みなさんが活動に取り組むときの気持ちがよく分かっていいよ。「ふしぎだなあ」、「どうしてだろうなあ」と思ったことを大切に、行動して、実験して、調べて、想像して、報告して、楽しんでいるのだね。うらやましいなあ。

「リサイクルする」とは、『ゴミをすてないで工夫してしげんにもどす』こと、壁新聞を読んだ人にも分かりやすく伝えているね。「リサイクルは何でしなきゃいけないの?」についても、ゴミによって、『人の健康やかんきょうにも悪いえいきょうをあたえる原因になる物が出る』ことをきちんと説明してくれているね。いいことばかりだね。

活動では、いつも「ざつがみ」をたくさん集めてくれて、どうもありがとう。みなさんの活動で、おうちからたくさんの「ざつがみ」が出ていることが分かりました。でも、ほかのおうちではどうしているのだろうね。しげんとして、リサイクルしているのかな。壁新聞の発表を聞いて、もっとたくさんの人がざつがみをリサイクルするようになるといいね。みなさんが取り組んでいる活動は、『おうちから出るゴミの量を少なくする』ことなのかな。まわりの人といっしょに活動して、もっとごみが少なくなるといいよね。さあ、みなさんはこれからはどうしたらいいのだろうね。

とっておきのゴンドウ★

レスキュー隊のみなさんが、壁新聞で一番伝えたかったことは何だろう。どんな伝え方をしたら、もっと分かってもらえるだろうね。『256kg』、たくさんのざつがみをリサイクルしてくれたんだね。すごいなあ。この量を壁新聞をよんでくれる人にどのように伝えたらいいだろうね。リサイクルでできるダンボールの大きさ(広さ)なのかな、燃やしたときにでる二酸化炭素の量なのかな、原料にしないでよかった木の本数なのかな、どうしたら、壁新聞をよんでくれる人が分かりやすいだろうね。みなさんで、お話してみよう。



たけのこさいえんすのみなさんへ

師範から一言！

とても個性的なデザイン(構成)の新聞を作りましたね！未来の地球を笑顔にするためのサイクルを考え、サイクルにそってみなさんのアイデアやイラスト、写真をちりばめたのですね。おもしろく楽しい新聞になっていると思います。

手書きでイラストやアイデアたくさん書いてくれたのもいいですね。みんなで一生懸命環境問題のことを考え、活動したということがよく伝わってきます。

みなさんの新聞を読むことで、緑を守ること、海の環境を守ること、そしてプラスチックの利用の問題が繋がっていることがよく分かります。実験の記事のところで、紙を原料に使った場合の問題点(長持ちしないなど)のことを考えているところもすばらしいです。エコなものであっても、使いにくいものは広まらないですよ。エコなものやエコ活動を広めていくにはどうしたらいいか、読んだ人にも気づきを与えてくれる内容になっていると思いました。



とっておきのゴンドウ★

サイクル(矢印)に沿って新聞を作っているところは、個性的でとても良い点だと思います。いっぽう、サイクルの出発点(=どこから読んだらいいのか)がちょっと分かりにくいかもしれません。最初に読んでもらいたい記事に大きな見出しをつけるなど、出だしの記事にちょっと目立つ工夫をするといいかもしれませんね。

緑の豊かさを守る、海の豊かさを守るなど、テーマごとに記事をまとめてくれていますね。テーマ別に背景の色や字の色を変えてみたり、テーマのタイトルを強調したりしてみると、サイクルの流れと記事の内容がより伝わりやすくなるかもしれませんね。みなさんの活動やメッセージが、より理解してもらいやすくなると思いました。

こどもエコクラブにこにこキッズのみなさんへ
師範から一言!

にこにこキッズのみなさん、「守ろう棚田」の素晴らしい壁新聞をつくってくれて、ありがとうございます! みなさんの壁新聞を読んで、これからもずっと棚田を守っていくというみなさんの思いが記事としてとてもよくまとめられており、感動しました!!! この壁新聞を読んでくれたおともだちにもみなさんがどのような活動をして、どのような結果が出て、未来の取り組みが何かがとても分かりやすく書かれているので、みなさんの活動をきくと応援してくれると思いますよ。最初に3つの学んだこととして『1. 棚田について 2. 地いき高い化・自然環境問題 3. お米が出来るまで』の体験活動の内容、そして『1年を通して、棚田を通じて自然や生き物・食・人の大切さを実感!』では棚田の機能のまとめ、そして最後に『未来に向けてみんなで取り組もう!』にはこれからの活動目標があり、一つ一つの活動内容のすべてが強く印象に残りました。棚田といっしょにこのようにりっぱな自然活動をしているみなさんのことがとてもうらやましくなりました。次の壁新聞をわくわくして楽しみしていますよ!!!

とっておきのゴシドウ★

みなさんの壁新聞に『棚田は人と自然が共にくらししてきた日本の原風景なのです。』と書かれておりますが、全くその通りだと思います。日本には棚田がたくさんあり、長い間たくさんの人たちが棚田の自然をしっかりと守りながら生活してきましたが、最近では地いきの人たちの高い化によりかそ化がますます進んでおり、これらの棚田がじゅうぶんな管理がされずに、あれているところが多いと聞いております。そのような中で、みなさんの棚田を守る活動はこのかそ化問題を解決する日本におけるモデルケースになってほしいと思いますす!!! みなさんの活動を心より応援しています!!!

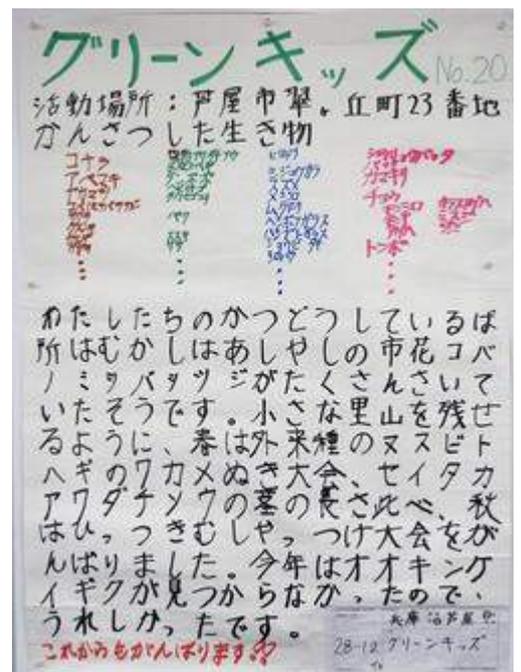


グリーンキッズのみなさんへ
師範から一言!

植物や動物の観察結果や、植物を使ったエコ活動の様子を新聞にまとめてくれたのですね。観察できた生き物を書いてくれましたが、主なものでも、これだけたくさん生き物を見ることができるのですね。みなさんが芦屋の自然に気を配りながら、細かくしっかりと生き物観察をしてきたのだらうなということがよくわかります。木、草、鳥、昆虫の種類別に整理して書いてくれたのもわかりやすいです。本文では、主な活動体験を簡潔に、分かりやすくまとめることができましたね。要点をおさえて記事にしてくれているので、とても読みやすくできています。身近にある植物を上手に使って、外来種駆除などの活動を楽しんできたことが伝わってきました。今年はおオキンケイギクが見つからなかったということですが、みなさんの活動の効果があつたのかな。昔から芦屋市で生きてきた生き物たちが、もっと増えてくれるといいですね。

とっておきのゴシドウ★

今回は文字で新聞を作ってくれましたが、活動の様子や、観察した生き物のことを写真やイラストを使って表現したら、より記事の内容が読み手に伝わるのではないかと思います。たとえば記事に書かれている「ヌスビトハギ(=ひつつき虫?)」「セイタカアワダチソウ」「オオキンケイギク」などは、生活でよくみることが出来る草ですが、正確な名前を知らないひとも多いかと思います。新聞に写真やイラストがあれば、新聞を読んだ人が「あの草花のことか」とわかってくれますし、その人が実際にこれらの草花を見たときに、みなさんの活動のことを思い出してくれるかもしれません。そしてなぜこれらの植物が生えていることが問題なのか、考えてくれたらうれしいですね。



平城っ子のスマイルカワ活のみなさんへ
師範から一言！

「スマイルカワチーム」のみなさん！

学校のとなりに流れている秋篠川についてそれぞれのテーマで調べ、考えた結果をかべ新聞にしっかりまとめてくれましたね。1つに川を起点(きてん)に、いろいろな視点(してん)から考え、それぞれがしっかり行動されて、とてもよい活動報告(ほうこく)になりました。

川の役割では、身近な川が10もの働きをもっていることがわかりました。その大事な川が、残念ながら汚れていて、川のゴミを拾ってみるとライターなどの「大人のごみ」がたくさんあったのですね。そしてマイクロプラスチックの問題にも気づいて、自分たちができることとしてプラスチックを出さない生活を考えました。そうして学んだこと、活動をしたことを世界遺産サミットで発表しました。

平城小学校4年1組、2組、3組のみなさんが、「カワチーム」(イラストも最高です！)となって、それぞれがナイスプレーをつなげてゴールを達成(たっせい)しました。読んだ人は、改めて身近な川について、考えるきっかけになったと思います。



とっておきのゴシドウ★

川は、山から海へつながる大切な水の道です。しかしみなさんが気づいたように、今、問題となっている海洋ごみのほとんどは、途中の川などから投げ込まれた、まちのごみだと言われています。

今回、川でゴミを拾って分類し、何が捨てられているのかを明らかにしました。(くさいにおいのごみを洗ったみなさん、本当におつかれさまでした！！)さて次に考えることは、どうしたら川にごみを捨てられないようになるのかな。

これはとてもむずかしい問題です。ヒントは・・・同じ川でも、ごみが捨てられやすいところと、捨てられていないところがあると思います。ゴミを捨てる人の立場になってその理由を考えてみましょう。

「カワチーム」のみなさんなら、チームの力で、いろいろなことができると思います。

いっぱい話し合っ、行動してみて、それを地域の人たちに伝えてください。

その結果を、ぜひ、また教えてくださいね。

奈良県天理市 福住こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:①絶滅危惧種を追え! ②福住エコ新聞 ③福住の生き物たち

選 R1-29-02、R1-29-03、R1-29-04 (全3枚)

福住こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

絶滅危惧種のアジメドジョウではなく残念だったかもしれませんが、実は普通のドジョウも環境省が2018年に発表したレッドリストでは「準絶滅危惧種」に指定されてしまったのです。「準絶滅危惧」とは、現時点では絶滅する危険性は低いけれど今後の生息条件の変化(開発や外来種などの影響を受ける)により「絶滅危惧種」になる可能性のある種ということです。

昔はどこにでもいたような生き物もいつの間にか減ってしまうのですね。福住にはまだ「ヤマトサンショウウオ」など今では希少になってしまった生き物がすんでいるのですね。今では減ってしまったようですが、今から守っていけばきっと福住で生き続けることができることでしょう。そのような自然に関心を寄せて、守っていく人が増えるといいですね。応援しています。



とっておきのゴシドウ★

まず関心を持つこと、これが大切です。これが生き物を守ろうという気持ちにつながっていきます。

カスミサンショウウオのように、今まで1種と思われていた生き物が実は何種類にも分かれていた、という例は今後もあると思います。そうなると、福住にするドジョウはもしかしたら他の地域のドジョウとは見た目は同じでも、遺伝子的には違っていたり、実は違う種だったり、ということが将来あるかもしれません。

地域の生き物は、地域で守っていけるよう、新聞での発信をこれからも期待しています。意外と自分のすんでいる場所にどんな生き物がいるかを知らない人も多いのです。多くの人に関心を持ってもらえるように、新聞でいろいろな人に向けて発信することは、とても大切な活動なので、ぜひ今後も続けてほしいと思います。

もっとの会のみなさんへ

師範から一言！有田川の干潟を毎月、清掃活動しているのですね。

「みんなのおうちをキレイに大切に」って、大事な考え方です。自分の家で、ポイ捨てる人も汚す人もいないと思います。

きれいに気持ちよくしておきたい人がほとんどだと思います。

「大切に」が利いています。

たくさん写真を使って、活動の様子を上手に紹介していると思います。

有田川にはたくさんのごみが流れてくるのですね。自動車のボンネットやタイヤまで流れてくるのですね。

おじさんも川のクリーン作戦を約10年間続けていますが、バイクや自転車が捨てられていることもあります。警察に連絡したこともあります。

いろんなごみ流れてくるので、どんなごみが流れて来て、どうしたら流れて来るごみが減るのかは、毎月活動しているみんなが一番、かわいい人なのでなにかアイデアを考えて、また壁新聞で発表してください。

ハクセンシオマネキもいるんですね。もっといろいろな生きものが生きていると思うので、また壁新聞でも紹介してください。

ごみだけでなく、自然が残っていて、みんながそれを、調べながら勉強してみんなで大切にしようとしていることをもっと日本中の人に紹介してほしいと思います。学校のみんなども教えあったり、こどもエコクラブの壁新聞を通じて、全国の子もたちや大人にも教えてあげてほしいと思います。言葉や文字にも伝える力があるけれど写真や絵にもあるので、伝えたいことがいろいろあるときは、組み合わせながら進めることがとても有効です。壁新聞を自分たちで作るとその伝え方の勉強にもなります。

楽しそうな様子が写真から伝わってきました。こどもエコクラブの活動も継続していくことが大事です。みんなのクラブでもがんばってください。



とっておきのゴシドウ★

壁新聞は、少し字が小さいところもありますが、割り付けも、よくできていると思います。日本の重要湿地500に選ばれている認められた大切な場所で、しっかり、継続して学んでほしいと思います。少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。生きものに調べたり紹介して行くことも期待しています。生きものの現状や危機についても専門家の力や協力を得て、学べる機会があると良いですね。そのことが、ごみの発生抑制に繋がる学びや発信ができることになると思います。

少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。

日吉津イオンチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

「鳥取自然環境館」のソーラーパネルの取り付けから、「太陽」のことをすごく詳しく調べられましたね！毎日その恩恵を得ているので、ちゃんと調べておくことは大切なことですね！

また、「鳥取自然環境館」を紹介する時に、施設の配置図や周辺の様子も紹介されていました。これは、一度も行ったことがない人でも施設について理解できました。また、配布された資料だけではなく、みなさんの楽しい行動を通して、自分たちでコメントや紹介文を加えているので、施設に親しみを感じることもできました。また、太陽光パネルとヤギの組み合わせも楽しいですね。最先端の技術と、生き物の生活を組み合わせる省力化を図っている工夫がとてもよく伝わりました。

とっておきのゴシドウ★

たくさん太陽のことを調べて、むずかしい内容もあったと思いますが、とてもいいに発表できましたね。科学的で客観的なデータをつかった発表になったと思います。

みなさんは今回、新しく太陽のことを学んでどう感じましたか？そして、その恵みをたくさん毎日もらっていることにどう感じましたか？

おそらく日常では見ることも、使うこともないほどの数字もでてきておどろいたのではないのでしょうか。そんなみなさんの発見や考えも、この壁新聞で伝えてみてほしいかもしれませんね。

活動に対する気持ちや発見を表していくことで、みなさんだけが伝えられない情報が発信できますよ！そうすると共感の輪が広がり、全国の仲間ともつながってくると思いますよ！



上津探検隊のみなさんへ

師範から一言！

読み応えのある壁新聞ができましたね！新聞を読んで、私も「カエルランド」に行ってみたくまりました。たくさんの記事がありますが、全体の様子を知ることができる記事(1年間のカエルランドの活動や、活動場所のマップ)もあるので、各活動をよく理解することができました。活動日を書いてくれているのも、わかりやすいですね。1年を通じて楽しく活動をしていることが伝わってきます。

今年はモリアオガエルの卵が見つかったとのこと。安心しましたね。モリアオガエルの卵の数は年々減ってきているように取れるっぽう、ヤマアカガエルの卵の数は増えてきているようですね。なにが関係しているのでしょうか？考察で書いてくれているように、カエルの卵の数と環境の関係を調べることは、とても大切なことだと思います。これからの調査で分かったことがあったら、ぜひレポートしてくださいね。

とっておきのゴシドウ★

ラジオ出演のときにも質問を受けた「カエルランド調査」の内容について、もう少し詳しく書いてもらえるといいかなと思いました。1年を通じて調査を行っているということなので、カエルの卵の数以外にもいろいろなことを調べているかと思っています。調査項目や、調査方法、できれば1年間の調査結果をまとめた記事を入れれば、「カエルランド」の様子が読み手にもっと伝わるのではないかと思います。

ちなみにこの新聞で書かれているポッカ=カジカでしょうか。地域特有の呼び方かもしれませんね。地域の文化が伝わるので、この表現を使うのはとても良いと思いますが、ほかの地域の人にもわかりやすいように、ポッカ(カジカ)など注を入れておくといいかと思います。



岡山県津山市 わくわくエコクラブ

壁新聞のタイトル:わくわく新聞～海や川の豊かな自然を守るには～

わくわくエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

年間を通した様々な活動の中から、「海や川の豊かな自然を守るには」のテーマにしぼり、いろいろな角度から、とてもよくまとまった壁新聞となりました。すばらしいです。なによりも、実際に調査や活動をして、体験し、感じ取ったことを自分たちの言葉で表現されていることは、多くの人に伝わります。グラフも使いわかりやすくなっています。ウナギの養殖場の見学で、微生物の力で水をきれいに行っていることを学んだことも、モズクの生産者見学会で海水温上昇との関係を学んだこともテーマとつながっているのですね。

みなさんは既に毎回生きもの調査を行っているようですが、川の状況を定期的に見て、異常がないかを知るなど、見守り続けることはとても大切なことです。これからも続けていってください。

とっておきのゴシドウ★

水質は夏休みに毎日調査したことで、降雨との関係を調査結果から考察できたとはすばらしいです。日による条件の変化もあるでしょうが、年に数回でも何年も調査を継続していくと、また違った変化の傾向を知ることができるかもしれません。「身近な水環境の全国一斉調査」では、全国で15年以上にわたって水質調査をしています。参考にしてみてください。

川の調査でいっぱいアワが流れてきた状況は気になりますね。どこかの排水路から流れ込んだのでしょうか？自然教室の活動とは違ってしまいかもかもしれませんが上流のどの辺りからアワが見られるのかさかのぼっても何か発見があるかもしれません。注目してもらいたいところに赤テープをはったのもとても良いですね。目立つよう強調されています。「川や海を汚さないようにできることから実行したい」「プラスチック製品をできる限り使用しないように」は本当に大切なことです。そこで、さらに一歩ふみこみ、具体的にできることも考え皆さんに示して実行していけることを期待します。

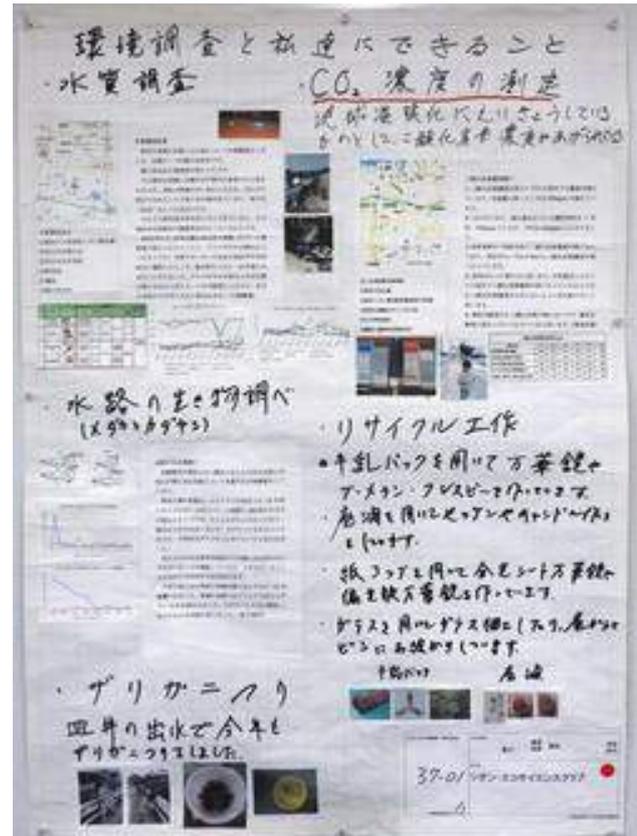


シオン・エコサイエンスクラブのみなさんへ
師範から一言！

多彩な活動を実践していますね。中でもメダカが減って、カダヤシが増えたという話は全国的に問題になっているものです。このように実際に調査をすることによって、今何が起きているかがわかります。気づかないでいると、いつかは取り返しのつかないことになる可能性もあります。コイやアメリカザリガニの存在も心配ですね。池の汚れ、二酸化炭素の増加などいろいろな環境問題がありますが、自分たちの手で調べて、そして解決策を考えていくことが何よりも大切です。みなさんの未来に、美しい環境を残せるように、これからの活動にも期待しています。

とっておきのゴシンドウ★

新聞に載っている活動は4つとも、それぞれで1枚の新聞にできるくらい内容のあるものです。水路の生きもの調査や池が汚れた原因を考えることは、毎年続けて行うことで、やがてとても貴重なデータになります。メダカを守るためにはどうしたらいいか、カダヤシやアメリカザリガニなどの外来種をこれ以上増やさないで減らすためにはどうしたらいいか、皆さんの考えをぜひ新聞にまとめて発表してみてください。全国でこの問題に取り組んでいる人たちもたくさんいます。協力して取り組んでいけたら解決の方法も見えてくるかもしれません。



香美市こどもエコクラブ 自然となかよしのみなさんへ
師範から一言！

すばらしい壁新聞をありがとう。

みんなの壁新聞を見て、そして読んで、私 壁新聞しはんがすばらしいと感じたこと、すばらしいと思ったことをお伝えします。

やっぱり一番すばらしいと思ったのは、新聞のまん中にエコまるを書いたことですね。エコまるに見てもらいたいよ！エコまるに聞いてもらいたい！自分たちはエコまるをいつも考えているよ！という意思(いし)表示をしていることが、読み取れます。

そしてエコまるのまわりにこの壁新聞で知ってもらいたいこと、聞いてもらいたいことを6つに分けて書いてあるので、壁新聞を読む人には、頭の中が整理できてわかりやすくなっていることもとてもすばらしいと思いました。

エコプロに行った時の話もおもしろいですね。エコプロに行くときにあらかじめテーマを「地球温だん化」と「ごみの分別」に決めて見学したことが大変すばらしいです。エコプロにはとてもたくさんの方がされていますので、目にとまることやおもしろいことがいろいろとあるかと思えます。あれもこれもと見学すると終わってみると、自分たちは何を見たのか、心に残った物は何か？が分からなくなってしまう。そんなことにならないように見学すること、知りたいことのテーマを決めて参加したとはすばらしいです。小学生4年生、5年生になるとそういうこともできるのですね、と感心しました。

環境日記の活動報告を読みました。ここにもとてもすばらしいことを、私は見つけました。

それは何かというと、みなさんはふだんからやっていることが、エコなんだ！と気がついたことです。そうです！ふだんなくやっていることが、実はエコのこと、エコにつながることなのです。エコなこととして特別なことをやるのではないのですね。まとめてみる、そして書いてみるとなーんだ！エコをやっていたんだ、地球温だん化につながるのだと分かりました。終わってみるとたっせい感があり、やって良かったと感じたので良かったですね。

小豆島では、あみをかいっぱいひきました。バーベキューをして自分たちがとった魚をたべたら、すごくおいしく感じました、カヌーに乗ってかいっぱいこぐとスイスイと進み、気持ち良かったようですね。自分で実際に力をこめて行動することのすばらしさのできたのは、良かったですね。このような体験をしてすばらしさに気づくことができたということがすばらしいことです。



高知県香美市 香美市子どもエコクラブ 自然となかよし 壁新聞のタイトル:エコを1年間続けたら

COOL CHOICE CUP では「環境汚染」をテーマにプラスチックにしばって、いろいろと考えてみました。町からプラスチックごみがなくなると、きれいな、そして健康的な町になる。でもプラスチックがそのまま町や川、海に出てしまうと、プラスチックが細かくこわれてマイクロプラスチックになって、魚などが食べて死んでしまうことも知りました。そこでみなさんは、プラスチックごみをなくすように立ち上がりました。ここがとてすばらしいことです。香美市にアイデアを提案したのですね。問題に気づいて行動する、これこそ環境に向かっていく子どもエコクラブの本来の目標ですよ。

プラごみ流出調査では、他の人のデータをもとに取り組めることを実践したようですね。自分たちで調べてみようと思案したことが、とてすばらしいです。

お菓子のふくろをベランダに置いて、2か月間くらいでどうなるかを実験したのですね。太陽の光で色がぬけていくこととじょうぶさもなくなったことが分かったのですね。実際に自然の中にプラスチックが出ていると、太陽の光で変化することや風に飛ばされ何かにぶつかって弱くなる、川や海では石などにぶつかってこわれるなど、プラスチックがこわれる原因はたくさんあります。プラスチックはなくなることはありません、ですから小さくなってマイクロプラスチックになります。魚が食べて、それを人間が食べて、良いはずがありません。いずれ人間にもえいきょうが出ましたと言うことが起こると思います。

私の大豆ちゃんは、大豆を使った料理を調べてみると書いてありました。知識として知っただけでなく、さらに疑問が出て自分で調べること・行動することは、すばらしいですよ。

まとめにいろいろな体験ができてよかった、達成感がありましたとの感想を読んでうれしかったです。

とっておきのゴシドウ★

最後に師範として理解できなかったことや注意する点を書きます。

東京の漏水率は3.1%であり、作った水は、全くとれていない・全くもれていないと書きたかったのでは？

「海そうがあるからあぶないよ」と言う意味が良く分かりませんでした。海そうは皆さんも食べていますよね。コンブとかひじきとか・・・ただし、岩場に海そうがあるとすべるからあぶないという意味かな？それなら分かります。

COOL CHOICE の COOL と COOL BIZ の COOL は意味が違いますので、まちがえないようにしましょう。COOL BIZ の COOL はすずしいですが、COOL CHOICE の COOL はかしこいという意味で使っています。したがって、COOL CHOICE とは、たとえば地球温だん化のために、何をやるかを考え、行動するとき、たとえば、電気をむだに使わない、自動車に乗らないで歩きや自転車で行く、買い物ではレジぶくろをって、買い物ぶくろを持って行く、あるいはごみをちゃんと分別して、すてないなど、いろいろとやれる事があります。かしこく何を選ぶかは自分で考えて、やりましょうと言うことです。

でもみなさんが作ってくれた壁新聞で、みなさん自身も成長したようで、すばらしかったですし、うれしかったです。

高知県香美市 香美市子どもエコクラブ みどりクラブ

壁新聞のタイトル:5Rで地球を救おう！

R1-39-01

香美市子どもエコクラブ みどりクラブのみなさんへ

師範から一言！

香美市子どもエコクラブ みどりクラブのみなさん、こんにちは。

『5Rで、地球を救おう！』、みなさんが伝えたいことが、ひと目で分かるとてもいい壁新聞です。「5Rってなんだろう？3Rは知っているのだけれど」、新聞を見た人はきっと興味を持って読んでくれます。「ごみとして捨てるもの減らす」皆さんの気持ちがまっすぐに伝わってきます。

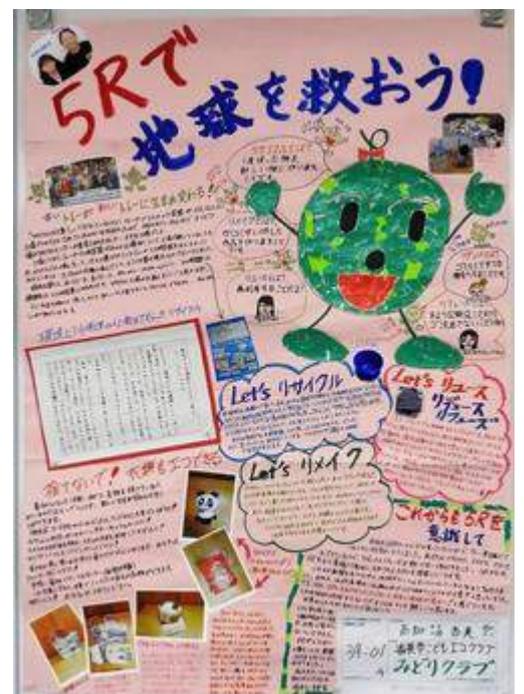
エコまるくんがとても目につき、親しみやすい新聞になっています。エコまるくんは子どもエコクラブのヒーローだからね。いいことばかりです。

『Let's(レッツ)』もいいですね。「私たちはこんな活動をしているよ」という活動報告に加えて、「さあ、みんな一緒に5R やろうよ」という、みなさんの熱い思いがまわりの人たちにも伝わってきます。壁新聞を読んだ人が行動を起こしてくれることは、その人に新しい「魂」を吹きこんでいるみたいだね。大変身!!、人のリメイクだね。

とっておきのゴシドウ★

かべ新聞の読んでいて、とてもうれしく思った言葉を見つけました。『おさがり』と『もったいない』です。みなさんが、この言葉を本で勉強したり、ひとから聞いたりした言葉としてではなく、自分たちの言葉として使っていることにとても感動しました。ウキウキです。

勉強した知識ではなく、毎日、生活する中で実行していることを『自分たちの言葉』として読む人に伝えていることがよく分かります。根っこがしっかりしていて、とてもいいですねえ。みなさんの『Let's(レッツ)、5R』には、人を動かす力を感じます。すばらしいなあ。



香美市子どもエコクラブ 自然とふれあい隊のみなさんへ
師範から一言!

自ぜんとふれあいたいのメンバー6人がかいてくれたかべしんぶんは、とってもすばらしい、とってもビックリするしんぶんでした。

このしんぶんのタイトルは、トコトコトコ1歩ずつ! 地球(ちきゅう)を守(まも)らんといかんぜよ! とかいてあり、そのとおり、6人のあしあとが1歩ずつ、下から上まで歩いているのが、まん中であって、1年かんにみんながやったことがかいてありました。このくふうにビックリ! そしていちばんすばらしいとおもいました。

すばらしいことの二つ目は、守(まも)らんといかんぜよ、地球がばくはつするぜよ、アユ、魚をだいにせんといかんぜよ、生き物や人げんも生きれなくなるぜよ! などなど、みんながすんでいるまちの、とさべんで書いてくれました。自分のまちのことでしゃべり、書くことは、いいな! 自分のまちがだいすきですということが、とってもよくわかります。

まだまだ、このしんぶんのすばらしいことがあります。スイカのダイエット、たべおわたままだと725gありました。そとにだしてたいようにあてました。はかりではかると270gになりました。455gもかるくなりました。このようなじっけんをちゃんとやってみて、ほんとうにかるくなるのかをしらべたことが、とつてもりっぱです。まいにち、おうちからはなまごみがでますよね。そのままだとおもたいから、かわかして水をのぞくとかるくなり、ごみがすくなくなります。よーくわかりますね。

もう一つ、ぼくの家で出たごみを7月21日から8月14日までしらべました。じっさいにしらべることを行ったというのが、とつてもすばらしいことです。ほかのひとのけっかを見るのではなく、自分でやってみるということを、じっさいにやったことをほめたいです。

そこでわかったことは、プラスチックのごみが多いということでした。おもたいということより、りょうが多いということにきがつきました。どうしたらへらせるか? そうだ! おりたたむことでりょうがへらせることに気がつきましたね。いま、日本中のおうちからでるごみでは、プラスチックのごみが、とつても多いです。そのままだかるいけれど、大きなふくろいっぱいになりやります。だけどおりたたむと、小さいふくろではいようになりやりますね。ごみがすくなくなりますよ。

エコではないところはいくつ? というクイズも、すばらしいです。えに書いてエコでないところをはっけんするクイズにしたところと、えを自分たちで書いたところのくふうがすばらしいです。えを見るだけでなく、書いてみることでエコか? エコでないか? のちがいがよくわかりますね。それとどこがエコでないかも、はっきりとわかるようになりますね。とつてもすばしくふうです。

とつておきのゴシドウ★

プラスチックごみはどうしていけないの。このことについても、みんなはじっさいに、アユのさんらんを見に行つてわかりましたね。川や海がよごれているとアユがいきれなくなります。アユはきれいな水がだいすきです。きたない水には、アユがすめないの、きたない川にはこないのですね。アユだけではありません。いま、せかいの海がプラスチックでいっぱいになっています。プラスチックをえさだとおもつてたべしてしまうお魚がいます。あるいは、プラスチックが足にからまったり、口をふさいだりして、こまっているかめやあざらしがいっぱいいます。どうろや草むらになげすたプラスチックが、風にとばされて川にいき、川をながれて海にいきます。そうして、せかいの海がプラスチックでよごれています。

1年かんのまとめの さかもとりょう馬 のにがおえはよくにしていますね、じょうずにかけています。えのじょうずなメンバーがいるようですね。

1年かんのかつどうから、みんながはっけんし、きがついた ちきゅうをまもるためにやることを、まとめて①から⑦まで書いてあります。たくさんありますね。ぜんぶができなくてもいいですよ。わたしはこれとこれ、ぼくはこれとこれをやりますで、いいとおもいます。そして毎日、すこしずつ、つづけていこうにするのがだいじです。

だいじょうぶだ! みんなはできると思います。とさべんでは、“できるぜよ”とつうのかな?



香美市子どもエコクラブ ハッピーアドベンチャーのみなさんへ
師範から一言!

大変すばらしい壁新聞です。何がすばしいかと言うと、”はじめに“でみんなが考えている問題を提示して、次にモクモクとえんとつから出る煙=CO2を利用して、たすけてー!!のみんなの悲鳴が聞こえます。どうやって助けるか?皆さんがLet's Cool Choiceとして地球温暖化を止める4つの切り口を明確にして、煙の中に書き込みました。その4つの切り口とは、「人にとっての自然は?」「山が荒れると川も海も荒れる」「まだ使えるのに・・・」「食品ロス…フードマイレージ…」でした。煙はえんとつからばかりでなく、車からもブー、ブー、モクモクと出ます。そして最後の”おわりに“で多くの方に環境問題に目覚(めざ)めてください、自分たちもエコクラブのメンバーとして活動し、後輩(こうはい)にエコクラブの誇を伝えると締めた新聞の構成がすばらしいです。

4つの切り口がなぜ、地球温暖化を阻止(そし)することになるかを、実例と自らが活動した内容で説明し、味付けをするという構成にしたことが、とっても素晴らしい、且つ、手作り感がいっぱいなのもいいですねー!

人にとって自然は?と言う事で人間と自然を対比させて、アンケートを240人に取りました。アンケートの取り方も上手ですね、一般の人だけではなく市役所の職員、先生、農業委員会、商工会、漁協などいろいろな立場の人を対象に選んでいることはすばらしいと思いました。アンケート結果データも数値で、かつ年齢別にまとめました。大変だったと思います。

物部の山を守る活動は、皆さんが実際にやったようで、大変すばらしいことだと思います。ブナを植えて1年前は67cmだったのが、今年は90cmにまで成長しているのが分かるとうれしいですね。シカによって葉っぱや幹の皮を食べられると木が成長せず、枯れてしまうとCO2の吸収がなくなって地球温暖化が進んでしまいます。だから、植林をすることが大事なのですね。シカをどうやって退治するかですが、皆さんは料理をして食べたのですね。

それも一つの方法ですね。食う“シカ”がない。は、食うシカないのではないですか?

クッキングをする時の心得が書いてありますが、これはまさに地球温暖化を止める一つの考えですね。

リサイクル、リメイクもごみを増やさない一つのやり方です。ごみを減らすことで地球温暖化を進めるのをおくらせることができますね。

まだ使えるのに・・・の中の記事で直してくださいと言う点があります。CO2は有毒だと書いてありますが、有毒ではありません。地球温暖化を進める原因の物質ですが、有毒ではありません。人類、生き物にとって、そして地球にとってはとても大事な物質です。皆さんも良く知っているはずですが、植物が成長するためには、絶対に必要な物質ですよ。まだ、光合成と言う事は習っていないのかな?植物は、光とCO2と水があると光合成をして、大きく成長し、でんぷんをためてジャガイモを作ったり、ミカンがなったり、花が咲いたりするのです。植物がなくなったら植物を食べる動物は、エサが無くなるので滅(ほろ)びます。そしてそれらの動物をエサとして食べる肉食の動物も滅(ほろ)びます。もちろん人類も滅(ほろ)んでしまいます。地球上に生き物がいなくなってしまいます。もう一点、地球が程よい気温(平均14℃)になっているのはCO2が空気の中にあるからです。

と言うことでCO2に対する考え方を教えてください。

地産地消レストラン“EZE”での活動もすばらしいですね。自分で作った料理は、大変おいしかったと思います。それと食べ残しもしなかったと思います。作った人に感謝(かんしゃ)する気持ちにもなったかと思います。そうすると毎日のご飯で食べる時にもお米を作った人に、お魚を捕(と)った人に、豚や牛やニワトリを育てた人に感謝(かんしゃ)する気持ちを持つようにしたいですね。そうすることによって、食品ロスを減らすことにつながります。フードマイレージにも気づきましたね。えらい!

地産地消で運搬(うんぱん)する距離(きょり)が少なくなり、トラックにしても、鉄道にしても、船にしてもガソリンなどを使う必要が無くて、CO2が減りますよね。

と言うことで皆さんが経験したことは、地球温暖化を少しでも遅(おく)らせる、そして最後には止めることにつながりますね。チョットだけ要望したいことがあります。もうすでに十分知っていることでしょうが、地球温暖化を防止したいと言う事ですから、自分たちはその原因物質のCO2をどうしたら減らせるかを考えました、と“はじめに”にはっきり書くと良いと思います。その上で、それぞれの活動の最後に・・・の効果でCO2が減りますと締(し)めの言葉を書くとはっきりと皆さんのねらいが浮き上がってきます。

Co2の書き方は、正確には大文字のCとOと書き、2はOの右下に小さく書くのが正解です。

最後に絵も大変すばしかつたとほめたいと思います。

高知県香美市 香美市子どもエコクラブ ハッピーアドベンチャー
壁新聞のタイトル:Let's Cool Choice!

とっておきのゴシドウ★

壁新聞師範としての感想です:アンケートの内容はむずかしい。何がむずかしいかというと、人間のどこにと自然のどこに、何に、価値があるかをはっきりさせてなくて、どっちが豊かか?人間と自然の立場の関係は?を聞き、どっちが良いかを問うているのは、回答者にはむずしかったと思います。したがって、皆さんも気付きましたが、逆の結果が出たようですね。と言うのは、人間も自然も、環境も、見る視点で価値や良さ、悪さ、効果があるかないか?などは変わります。

私は環境問題には答えはいくつでもある。ないと言うことはない。でも正解はないと思っていて、子どもにも大人の人にも常々言っています。と言う事で結果が逆になることは、いくらでもあります。こちらの側面から見た場合、考えた場合は〇〇はどうですか?と聞かないと回答者は回答するのがとてもむずかしいと言う事を知ってください。

それと人や自然の価値をお金に換算(かんさん)するのは、止めた方が良いでしょう。これから皆さんが世の中に出ているいろいろな局面に遭(あ)うでしょう。例えば、人間の良さを考える場合、人に親切にするか?話し方はどうか?スポーツが上手にできるか?勉強ができるか?などによって人の評価は違いますよね?そしてその評価をお金に換算は大変むずかしいかと思えます。お金に換算できないことがむしろ多いと思えます。そんな事を知ってください。

それにしてもアンケート結果を良くまとめましたね。きれいに、年齢別までグラフや表にしてくれました。かつ、皆さんはアンケート結果から自分たちの考えや考察まで書いてくれました。大変でしたでしょう。



高知県香美市 香美市子どもエコクラブ リサイクルチーム
壁新聞のタイトル:地球を守ろうぜ エコクラブ

R1-36-05

香美市子どもエコクラブ リサイクルチームのみなさんへ

師範から一言!

リサイクルチームはクラブの人数がたったの3人です。しかし、この3人でこんなすばらしい壁新聞ができました。おどろきですよ!

壁新聞のタイトルは、地球を守るぜエコクラブです。地球を守ると言うことは、私たち人類を守ることです。さらに地球に住んでいる生きものを守ることですね。そのためには、自然を良く知って、「自然のすてき」に気づき、見分けることなのですね。そんなことも壁新聞に書いてありました。すばらしい気づきだと思います。

そして地球を守るためにできることって何だろう?と言うことを考えました。その結果がすばらしいです。「自分たちで考え、行動することだ」と気づきました。4年生のみんなが気づいたことだとすると、大変すごいことです。

アユちゃん がんばれば、アユの一生をその時々観察しに行き、写真にとりましたね。きれいにとれているのでアユの一生がよく分かりました。この活動でみんなが物部川漁業組合の人たちが、アユの産卵場所をつくり、アユの食べ物のコケがちゃんとそだつようにしてくれて、春にはアユが元気に海から川にのぼってくるようにしていることに気がついて、組合の人たちに感謝していることが良く読み取れますよ。アユの一生は、命をつなぐリレー、 なかなかすばらしい言葉ですね、こんなことにも気づいたことは大変すばらしいです。

香美市の特産物を使った料理では、「雲につかまった星」「トマト池にぼちゃん!」と言う名前の料理を考えましたね。みんなの発想がすばらしい! 緑色の星は、ふわふわした雲につかまった星=オクラなんだから、うまい表現です。トマト池にぼちゃんはトマトの冷せいスープだそうですね。トマトがどんぶりになっているのですね。さらにスープの中に小さいトマトがどんぶらどんぶらこと浮いているのかな?実際に食べてみたらとてもおいしかったとのこと、私も食べてみたかったなー。

木のスプーンづくりもやりましたね。さくらの木をけずって作ったとのこと。表面をこすってなめらかなスプーンにしたようですね。力を入れてこすったのでつかれたかな?ふだんは金属(きんぞく)のスプーンなので、木のスプーンだとちがった感じ、味がしたかな?外のレストランなどでは、木のスプーンもありますが、自分が作ったスプーンで食べるのは、特別な味がするかも知れませんね。さくら以外の木を使うと、またちがった味がするかな?

高知県香美市 香美市子どもエコクラブ リサイクルチーム
壁新聞のタイトル:地球を守ろうぜ エコクラブ

とっておきのゴシドウ★

環境絵日記で高知県の優秀特別賞をとったとのこと。大変素晴らしいことですね。良かったね。クラブの一人の絵日記を読みました。高知県なので空が汚れていることはないのですが、夜にはきれいなお星さまがいっぱい見えるはずですが、でも、ちょっと見にくいな—ということで、まわりを良くみると電灯がついていて、真っ暗にはなっていないことに気づきました。明るいので蛾(が)が集まってくる。夜行性のかえるが鳴かなくなったり、繁殖(はんしょく)できなくなっているなどの問題もおきています。本当は、人間が手をくわえずに自然のままにしておきたいのですが、防犯(ぼうはん)や事故がおきないようにしているのかも知れませんね。でも、夏の夜、大三角形や天の川を見ようと言うことで、8月〇日は星を見る日と言うことで、全ての電気を消しましょうという日があっても良いかなと思いますね。

私も星を見るのが大好きです。夜、家に帰る時に空を見上げて星を見ます。ここ神奈川県の街では小さい星、暗い星は見えませんが、それでも星が見えるといろいろなことが思い出されてホツとする気持ちになります。ISS(国際宇宙ステーション)が見える時は、その動きをズーと見て楽しんでいます。5分間くらいですが、ISSの中で宇宙飛行士が何をやっているのかな?ここ地上の私たちが見えるのかな?なんて考えて動きを追いかけています。

みなさんもISSを見てみたらどうでしょうか?ちょうど日本の上空を通る時しか見えませんが・・(参考:JAXA「きぼう」をみよう)この絵日記のすばらしいところが、もう一つあります。絵の半分が昼間、半分が夜にして書いてあるのが、いいですね。昼間のゆうだいな入道雲と空を飛ぶカモメかな?そしてクジラが水をふきあげています。対称的に、真暗な夜のお星さまを書いています。天の川や大三角形を望遠鏡で見ているあなたがいいます。高知県のすみ切った大空です。日記の文章の中にも、とっても素晴らしい内容があります。それは、山川海空のつながりを学んでいることです。こんな視点で自然を、地球を考えていることなんて、なかなか考えられることではありません。立派(りっぱ)!立派(りっぱ)!です。

1年間の活動から、エコであることとエコでないことに気づくようになったとのこと、すばらしく成長をしましたね。これからもエコかな?エコでないかな?の見方で活動を、あるいはふだんの暮らしの中を見るようにするといっぱい発見があると思います。期待しています。



高知県香美市 香美市子どもエコクラブ みどりサイクル
壁新聞のタイトル:エコクラブのみんな!地球を救おう!

R1-39-03

香美市子どもエコクラブ みどりサイクルのみなさんへ
師範から一言!

みどりサイクルのみなさん、「エコクラブのみんな!地球を救おう!」の壁新聞を作ってくれて、ありがとう!地球を救うために、みやびの丘でのシカの食害からブナの森を守るための植樹とネット張り、ササ、リュウブやイバラの下草かりなどの森をまもる活動はとても大変きついことだけど、みなさんの毎回の活動によって森の木は元気なり、木の大切なはたらきである水をしっかりとためて、地球温暖化のげんいんである二酸化炭素を吸ってとしんせんな空気をつくってくれて、みなさんの「いのち」をまもってくれていますよ!!

さらに、この活動によりみなさんが大好きな地球も救ってくれています!!シカやイノシシの肉をつかったジビエ料理、おいしそうだね。みなさんがいっしょうけんめいに森をまもる活動をしているので、きっと森からのプレゼントかもしれませんね。

婦人会の人たちからEM菌でのプリン石けん作り、レストランでのじもとのやさいをつかった「地産地消」料理のチャレンジ、そしてリサイクルセンターでの分別ごみの見学、とてもがんばりましたね。地球のために、いろいろなエコ活動をしている人たちのくろうをしり、たいけんできたことが一番の学びだったと思います。

とっておきのゴシドウ★

森をまもる活動ではきけんなことがたくさんあり、この活動を安全におこなうにはどのようなところに注意したらよいかをただしく理解して、じこがおきないようにすることが一番じゅうようです。

ノコギリ、ハサミなどの道具の使い方、きけんな動物・虫・植物などを知る、活動するところにきけんな場所はないか、熱中症や切りきずなどについて、森づくりのせんもんの人たちから安全研修をしてもらうこともとても大切ですね。



香美市子どもエコクラブ 青空にとべ！4人組のみなさんへ
師範から一言！

3年生だけだとくさんのことをやりました。

みやびのおかやさがわの森で木をうえましたが、なぜ、木をうえるのかじっさいの木をみてわかりました。シカが木のはっぱや木のまわりの皮(かわ)を食べてしまうので、木がそだたないのです。木がそだたないと雨がふったときに山がくずれてしまうのですね。そのため、木をうえて、そしてシカが食べないように、木の外がわのまわりをネットでかこんだのですね。れいなちゃんがさんぱつやさんから、かみのけをもらってきて、木のまわりにおくと、シカがよりつかないのですね。にんげんのにおいがして、けいかいして木によりつかないのかな？4月にうえて、10月に行ってみると、木が大きくなってよかったね。雨がふったりして、土の中に水がたまって、それを木がすったのですね。そして大きくそだちました。木が大きくなろうとする力、しよくぶつが大きくなろうとする力ってすごいですね。自分がうえた木に自分のなまえを書かなかったのかな？書いておくと自分のいもうとやおとうとのようにかんじて、大きくなるとうんとうれしいよね。

エフピコへ行って、いろいろなことをおしえてもらいましたね。みんなが1日ですごみのりょうが、920グラム、やく1キログラムです。1キログラムってどのくらいか？できたらはかりではかってみると、びっくりするほど多いですよ。じぶんの家のごみばこにたまっているごみをはかりではかると、1キログラムって多いなーとわかります。エフピコのさぎょうを見て、プラスチックを分けたり、つぶしたり、水であらったりするところも見学したのですね。とつても早くしごとをしていたでしょう。みんなもまねして、そのくらいの早さでしごとができるかな？レストラン エズでは、地さん地しょうということもおしえてもらいましたね。とおくのはたけや海からやさいや魚を車や船でもってくると、ガソリンをたくさんつかいます。でも、近くのところからやさいや魚を車や手でもってくれば、ガソリンは少なくてよいか、ガソリンはいらないよね。お金がかかりません。きたないはいガスもすくなくてすみます。かんきょうにやさしいことがわかりますね。それに、みなさんはしんせんさがちがう、おいしいさもちがうと気がつきましたね。そのとおりです。ですから、近くでとれたやさいや魚を食べてかんきょうにやさしくらしをするのがよいですよ。

木のスプーンづくりも、おもしろかったでしょう。ひのきでスプーンを作ったのですね。

木のかおりがよかったと思います。ふくどめ先生がおしえてくれ、スプーンの形まではつくってくれて、みんなはでこぼこをすくなくするように、かみやすりでこすったのですね。むずかしかったけれどつるつるになってきれいになったので、うれしかったですよ。

このつぎは、スプーンの形を作るところからやれるようになるとよいと思いますが、ちょっとむずかしかな？エンヤコラ！でがんばろう。



アユがたまごをうむところを見に行きましたね。アユはきれいな水がすきです。川ごに小石があって、そこにたまごをうみます。たまごをさがしたけれど、ざんねんながら見つけることはできなかったようです。アユの赤ちゃんは海に行つて、大きくなってまた、ふるさとの川にもどつてくるようです。たまごをうむとおやのアユはしんでしまうそうです。でも赤ちゃんがいのちをリレーして大きくなり、つぎの赤ちゃんをうむそうです。

たくさんの活動(かつどう)をして、みんなは、この1年間で大きくせいちょうしたと思います。

来年のかべしんぶんがたのしみです。まっていますよ！

とつておきのゴシドウ★

ペットボトルはふだんでもみんなはつかっていますか？のみおわったときのペットボトルをどうするかをおしえてもらいましたね。きょねんの4月からペットボトルのすてかたがかわつたのです。ふたとラベルはべつにして、プラスチックごみとして出します。ボトルはつぶしてペットボトル用のいれものにすてるのです。ボトルはリサイクルされて、べつの品物にへんしんします。たとえば、服(ふく)やエコバッグにへんしんします。役(やく)にたつ品物にへんしんするとわかると、むやみにすてないと思います。

こんかいのいろいろなかつどうやおしえてもらったことを、ミニスゴロクにしました。書いてあるのは、ちきゅうにやさしくすることは？ということをして1から16までちゃんとやるとゴールにつけるのです。このスゴロクのやりかたは、どうやるのだろうか？さいころをふつて、出た目のかずだけすすむのかな？ふりだしにもどるとか、おやすみとかはないのかな？やりかたは、たとえば5のところに行つたら、使わないものを買わないということは、なんですか？リデュースといいます。とこたえると正かいということ、一つ前にすすめるのかな？このかべしんぶんをしっかりとよんでいれば、正かいが分かるでしょう。



若松イオンチアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

みんなが作ってくれたかべしんぶんは、すごろくになっていて、スタートからたどって行くと1年かんにどんなことをやったのかがわかるしんぶんになっているのですね。わかりやすいなー。それとタイトルをくふうして、ほしのマークやハートのマーク、まるいマーク、しかくいマークで、「かっぱ隊が行く」とかいたのですね。おもしろいなー。かっぱってほしやハートがすきなのかな?

すごろくのはじめは、3月21日にひらおだいにのぼったのですね。せっかいのいわがあったようですね。いわだからかたくてこわれなかな?とおもったらそうでもないようで、雨によわいそうですね。ちょうじょうからまわりを見るときれいだっただけかな?きもちよかったですよ。

3月23日にひびきなだうめたてちでどんぐりのなえをうえて、かぜや雨でたおれないように、ささえをたてました。げんきで大きくなってほしいですね。そして、どんぐりがたくさんとれるとうれしいですね。そこで5人ならんでかんきょう みらいとし せんげん をしたようですね。「みんなでなえを手でうえます」と大きなこえでせんげんしたのかな?みらいにむかって、「木とわたしたちが大きくそだちます」ということかな?

いよいよまちにまったおいもをうえるときがきました。6月9日に1じかんかけておいものなえをうえました。うえるのってけっこうむずかしかったようですね。うえたらかれないように水をまきました。水やりもおもっていたよりむずかしかったようですね。でもしっかりとうえて、水もたくさんあげたので、大きなおいもができるとおもいます。

7月22日には、なつのがつしゆくで げんかいせいねんのいえ に行きました。しんぶんをほそくきるゲームをやったのかな?ほそくきるっていがいとむずかしかったようですね。おひるごはんは、とんかつでした。おいしかったようで、むちゅうでたべているようが見えます。かべしんぶんのしはんのわたしもとんかつはだいすきです。いっしょに食べたかったなー。

そのあと、人のかたちのしんぶんつくりをやりました。人のかたちをいろいろくふうしたようですね。みんなのグループはびっくりした人のかいたのですか?手や足やおなかのところには、みんながこれまででびっくりしたことをたくさんけいけんしたんだろうとおもいますので、それをかいたのかな?

グリーンパークで「フィールドのちがくとれきをまなぶ」というはなしをきいたようですね。しぜんをたいせつにしている人がたくさんいることがわかりましたか?いま、どうろをたくさんつくったり、いえをつくったりして、しぜんが少なくなっています。しぜんが少なくなるといきものがすめるところがなくなります。いきものがへっていきます。しぜんをたいせつにして、いきものがいっぱいいるちきゅうにしたいですね。



福岡県北九州市 イオンチアーズクラブ若松
壁新聞のタイトル:①かっぱ隊が行く ②2019 かっぱ隊が行く2

いよいよおいもが大きくなりました。11月10日においもほりをしました。はっぱやつるをとりのぞき、おいもほりだしました。かしごとです。たいへんだけど、大きくなったおいもを見るとげんき100ばい、いっしょうけんめいおいもほりをしましたね。おわたあと、ぜんいんでしゃしんをとったのかな?ひとりひとりが大きなおいもをもっています。たいへだっただけうれしかったでしょう。

12月14日に若松イオンでおいもをうったのですね。みんながいっしょうけんめいそだてたおいもです。しゃしんで見ても大きいおいもですね。おきやくさんがたくさんきましたか?おいもはぜんぶうれちゃったのかな?おいもをつつむのもみんながやったのですね。えらいなー!

おいもができて、うれました。ゴールです。すごろくのあがりです。

とっておきのゴシドウ★

みんなは1年間、いろいろなかつどうをしました。いろいろなけいけんをして、たいへんなことも、力のいることも、むずかしいこともやりました。

1年がおわると、じつはみんなは大きくせいちょうしたのです。

そしてらいねんは、さらにたくさんのことをけいけんして、たのしんで、大きくせいちょうするでしょう。

らいねんのかべしんぶんをたのしみにしています。

さいごにおねがいです。かつどうのようすをいろがみにかいてくれましたが、あかるいいろがみに、もう少しふといえんぴつでかいてくれると、よみやすくてよいとおもいます。

よろしくね!

若松イオンチアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

かっぱ隊のみなさん、今年もよろしくお願ひします!

まずはタイトル右横に描かれた生き生きとした鳥のイラストが、みなさんの元気な様子も表していますね!もちろん両脇のかっぱのイラストもかわいいです!

壁新聞の下地も、かっぱ隊のTシャツと同じ黄色!こうしたシンボルカラーの発信は、活動や情報をさらに際立たせるために有効ですね。一目で「かっぱ隊」だとわかります!

また、色といえば、一年間を通じて行った様々な活動を色分けしているのも、とてもわかりやすいです。地元新聞の掲載記事は特別金色の額縁ですね!どんどん活動の輪が広がっていくと感じた壁新聞でした!



とっておきのゴシドウ★

イラストや写真が色で整理されて、とてもわかりやすく活動が紹介できたと思います。ただ、一部、色と説明と写真がばらばらになっていたり、狭いすき間に細かく書かれていました。そのため、読んでいる途中で、話の流れがわかりづらいところがありました。

写真を貼る時に、説明の内容を思い浮かべながら全体の配置を考えておく整理しやすいですよ。あらかじめ説明書きのスペースを空けてから写真を配置していくと、写真も説明も上手に配置できると思いますよ。また、活動の順番ごとに記事を並べてみたら、活動の経過がわかりやすく伝わります。

記載する情報の内容とともに、記事の配置・構成によるわかりやすい発信の仕方も工夫してみてください!

ガールスカウトF9クラブのみなさんへ

師範から一言!

海岸清掃や川の生きもの調査、発表活動などいろいろ活動された中で、「海は泣いている ゴミのポイすてはダメ!」の大きな見出しがとてもよく目立ち、この新聞で何を言いたいのがひとめで伝わりますね。さらに、地球が泣いているイラスト、たくさんの種類の海の生きものたちのイラストは、見る人に多くのことを感じさせられます。とても良い表現だと感心しました。

川では、上流域、中流域、河口のそれぞれで調査をされて、そこにいる生きものの違いを感じたことはとてもいいことです。それぞれの生きものたちがすみやすい環境の違いもわかったのでしょうか?それぞれの環境の違いを知って、そこにいる生きものたちがすみやすい環境をみんなで守っていきましょう。

エコライフステージでは、会場にいらした方にメンバーの皆さんが教えてあげたのですね。とってもすばらしいです!このように、伝える側になって、多くの人にエコな行動を広めていきましょう。

とっておきのゴシドウ★

海岸清掃を続けているようですが、集めたごみに何か変化がありますか?種類ごとの個数や全体の量なども記録していくと、ごみの傾向がわかり、どうしたら減らしていくかの考えるヒントになるでしょう。ごみはポイすてしないことがとても大切です。でも、それだけでなく、ポイすてでなくともごみ置き場からあふれてしまったごみ、町の中に置かれたごみなどが川を通して海まで行ってしまふこともたくさんあります。そのようなごみをへらすためには、ごみとなるもの自体をへらすなど、海が泣かないよう自分たちでもできることもみなさんで考えてみるのもいいでしょう。

かべ新聞には、活動して思ったことや、これからやろうと思うことなども書いてくれると、みなさんの思いがより伝わるようになると思います。これからもがんばってください。



そねっとエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言!

いろいろな活動をする中で、今回は、ごみについてかべ新聞を作ってくれたのですね。

私たちの生活から出る、家庭ごみ、カン・ビン、ペットボトル、プラスチックごみがそれぞれ「ごみはどこへ?」いくことがわかったのでしょうか?

ごみを出すときに、まちがえた出し方をすると困ることがあること、いっぱい出し続けると困ることがあることなどがわかったようですね。「ごみを出しすぎないようにしましょう」、「ちゃんと分別しましょう」などみなさんへ呼びかけていてすばらしいと思いました。

北九州市のていたん、ブラックていたんも登場して、親しみやすい新聞になっていますね。すてきです。

とっておきのゴシドウ★

ふりかえりで「もっとごみの事を知りたい」と書いてくれているように、ごみの学習をすると、もっといろいろなことを知りたくなるのはいいことです。"知りたい"と思ったことは、どんどん探究していきましょう。

家庭ごみをもやす灰がいっぱい困ってしまうのであれば、どのようにすれば、家庭ごみを減らせるのでしょうか?きちんと分別した、かん・ビンは資源化センターでどのくらいのがどのようにリサイクルされるのでしょうか?など、さらに知りたいことがふえたのかな?どんどん調べてみてください。リサイクルするのにもたくさんのエネルギーがかかるので、ごみを減らすにはもっとよいことはないのかななどを、みなさんで考え、実行していきましょう。

もうひとつは、それぞれの見出しが、「〇〇について」となっていますが、「もやした灰が生きものに影響」「分別をまちがえない!」など、内容がわかるような小見出しをつけてみると、みんなにわかりやすい新聞になると思います。また、横書きとたて書きがまざらないよう気をつけるとさらに見やすい新聞になります。



福岡県北九州市 そねっとエコクラブ

壁新聞のタイトル:①ごみエコ新聞ごみはどこへ ②エコ新聞 ③ごみのゆくえ新聞

そねっとエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

いろいろな活動をする中で、今回は、ごみについてかべ新聞を作ってくれたので
すね。

家庭ごみを減らすことが、地球がよくなることにつながることを学べたよう
すね。とても大切なことに気づきました！すごいです。

家庭ごみ、かん・びん、ペットボトル、プラスチックそれぞれのごみのゆくえとして
どのように処理されて、その先にどうなるかを調べられていますすね。イラストで
それを示しわかりやすく工夫されています。クイズによって楽しく考えるような工も
されていますすね。

食べのこしをへらすことについても大切なことをよく伝えてくれています。

とっておきのゴシドウ★

たくさんのことを学んで、たくさんのかべ新聞に書きたいことが伝わります。
家庭ごみ、かん・びん、ペットボトル、プラスチックそれぞれについての記事があり
ますが、そのさかいになるところと、見出しをよりはっきりとさせるとよりよいでし
ょう。そうすることで何についての記事なのかが見やすくなるでしょう。

みなさんは、「3R」について学んだようすすね。3Rはどれも大事ですが、そのな
かでも順番があることを知っていますか？ ①リデュース(へらす)、②リユース
(もう一度使う)、③リサイクル(すがたを変える)の順番です。まずはリデュースで
ごみを減らすことが一番大切です。ごみをへらすことで、家庭ごみの灰のすてる
場所ができるだけ長く使えるようになるでしょう。どうしても使うものは、できる
だけもう一度使う。それもできないものはきちんと分別してリサイクルにするとい
うことを知って、みなさんで行動していきましょう。



福岡県北九州市 そねっとエコクラブ

壁新聞のタイトル:①ごみエコ新聞ごみはどこへ ②エコ新聞 ③ごみのゆくえ新聞

そねっとエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

いろいろな活動をする中で、今回は、ごみについてかべ新聞を作ってくれたので
すね。

かん・びんのゆくえ、プラスチックのゆくえについて、順番に詳しく紹介してくれて
いるので、どのようなゆくえかがよくわかりました。

プラスチックも、かん・びんも人の手で分けられていてごみ処理は大変なのです
すね。このことを知ると、家でも学校でも、きちんと分別してごみを出さないといけ
なくなりますすね。

みなさんは、ごみをへらすことが大切なことに気づいたということが、ふり返りコー
ナーでよくわかりました。すばらしいことです。では、ぐたいてきにどのようなもの
をへらしますか？どのようにしてへらしますか？次は、なにをどのようにへらすか
までも教えてくださいすね。

とっておきのゴシドウ★

写真もあるので、リサイクルセンターでどんなことが行われているのかがよくわか
る新聞になっています。せっかく写真があるのなら、写真を順番に示し、その横に
説明を書くと、資源化センターのようすを見ていない人にもよくわかるようになる
でしょう。

かん・びんもプラスチックもリサイクル工場に運ばれてさい利用されることがわか
ったようすすね。どのように再利用され、どのようなものになるのかなどまでも次
には調べてみてください。さらにその再利用されたものが、ごみとなったらどう
なるのでしょうか？また再利用されるようになって、いつまでも何度でも再利用さ
れるようになると、ずっとごみが出なくなりますすね。どのような利用がよいのかを考
えてみるのもよいかもしれません。がんばってください。



ライジングアップのみなさんへ
 師範から一言！

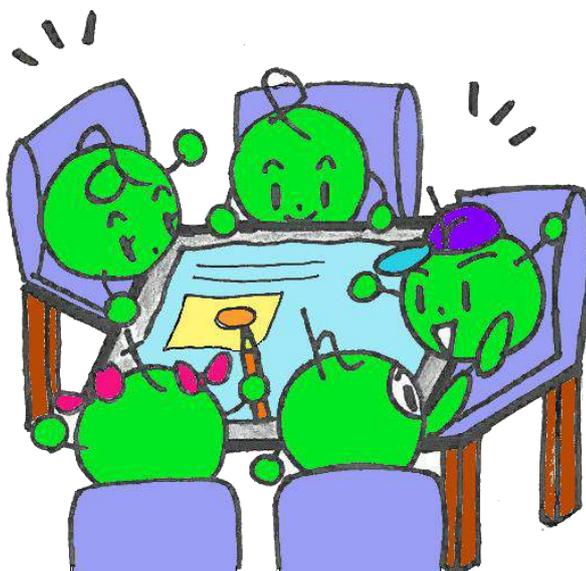
2019年は、おえかきにチャレンジしたのですね。がんばったことのうち、「よくみてかくこと」が一番、だいじだとおもいます。おじさんもメダカやドジョウを子どもたちとしっかりかんさつして、えをかくことがあります。かこうとおもったら、しっかりみるので、ふだんはきが見つからないことにきがつくのです。いろんなくつどうをしてかんじたことやみつけたことを「かべしんぶん」をつうじて全国のなかまに伝えてほしいとおもいます。こどもエコクラブの活動も継続していくことやが大事です。みんなのクラブでもがんばってください。

とっておきのゴシドウ★

えをかくときに、いろんないろをつかうのもたのしいですね。しっかりみて、おなじようないろにしてみるのもたのしいよ。はっぱもりんごもぶどうもメロンもおなじいろはないよね。もようやひかりかたやいろんせんやいろがありますね。よくみてかいたら、きっとあたらしいひみつにきがつくとおもいます。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

山や川、海の自然の中に行くだけではなく、工作や観察、工場見学、清掃体験や街の探検や市場やお店の調査でも家の周りにも一杯。自然や環境を考えるヒントはあると思います。子どもの興味や気づく力、学ぶ力をゆっくり待ちながら進められているのが壁新聞からも伝わってくるのが良いですね。子どもの成長に伴って深まったり広がったりすると思いますのでサポーターも一緒に学びながら成長してください。少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でも頑張ってください。



エコまめクラブのみなさんへ

師範から一言！

「地球温暖化」という大きなテーマについて、岳海さん・陽斗さん・溪社さんそれぞれの体験をもとに、とても分かりやすく、しっかりとまとめられた壁新聞です。天気や気温などの「データ」を調べているところも、とてもステキですね。

体験したこと、感じたこと、データなど調べたこと、人気の映画のこと、ぼくたちができることなど、とても内容が詰まっていて読み応えがあります。高温になりすぎてプールが中止になってしまったり、大雨で川があふれて被害がでたり、雨が続いて野菜が育たずに値段が上がったり。

小学生の身近にも、すでに影響が出てきていますね。子どもだからこそ作れるステキな壁新聞です！

とっておきのゴシドウ★

溪社さんは「異常気象が身近になってあたり前になってきているようです。こわいです」と書いてくれています。壁新聞の記事にも書かれています。異常気象というのは過去 30 年の気象データで平均して極端にずれていること。毎年のように異常気象が続くというのはおかしいのですが、平均気温が上がってしまうことで、「気候」そのものが変わってきていると言われています。

「沖縄より福岡の方が暑いなんて…」とも書いてくれています。研究によると将来は海に囲まれた沖縄の方が気温は上がらないという予測もあります。環境省が作った「2100年 未来の天気予報」という動画があります。もしまだ見たことがなかったら、ぜひ一度見てみてください。https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/2100weather/ これからも、「ぼくたちができること」を続けながら、地球温暖化や天気・気候についてもっと調べてみてください。次のステップとして、みなさんが「大人になったらどんな世界になっているのかな」ということを想像して、感じたことや自分たちの意見を、周りのお友達や大人にも伝えられるとステキですね。

みなさんのこれからの活動、楽しみにしています！



だいやエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

だいやエコクラブのみなさん！

こどもツーリズム・エコ会社主催(しゅさい)のエコツアーが大成功で終わり、よかったですね。社員のみなさんの事前の準備や調査(ちょうさ)から、当日の案内の様子(ようす)、また、参加された「エコ主さん」や地域の方の笑顔(えがお)がいっぱいの記録を、ワクワクしながら読ませていただきました。

世界の宝「黒島」の見どころが入った地図もとってもよく描かれています。東京に住む私も、学び行きたくまりました。

日常のエコロジカルアクションもとても充実していますね。防犯清掃パトロール、貴重(きちょう)なカブトガニを守る活動、みどりを増やす活動など、まさに自然や生態系(せいたいけい)と人を結ぶ「地球市民 家族」を実践(じっせん)しており、とても素晴らしいです。

1つ1つの行動について、企画した理由や、実際に行った後の感想などが、ていねいに説明されているため、読む人にみなさんの思いが力強く伝わって来ます。

とっておきのゴシドウ★

みなさんは、SDGs の理想(りそう)とする世界を理解したうえで、その課題(かだい)解決(かいけつ)につながる活動をしています。かべ新聞は、関連する SDGs のアイコンでいっぱいです。しかし SDGs には解決がむずかしい問題もあります。今回の活動の中で、あつかっていない目標もありますね。

SDGs は、世界のだれひとり取り残さない社会が目標です。みなさんのような若(わか)い世代も、私たち大人も、世界の人々がみんな一つになって取り組んで達成(たっせい)していくことを理想としています。

ぜひこれからも、「エコ主さん」と話し合ったり、地域(ちいき)の大人の方の経験(けいけん)を学んだり、インターネットなどを使って世界の人たちとやり取りしたりして、たくさんの人とつながり合ってください。

みなさんの、ゆたかな発想(はっそう)とまっすぐな行動力で、SDGs が描く未来を切りひらいて行ってほしいと思っています。期待(きたい)しています。



広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

地域の湧き水について、ていねいに調べている壁新聞ですね。湧き水といった自然の恵みは、阿蘇山の噴火とも関係しているのですね。噴火や地震は怖いけれど、そうやってたくさんの恵みを私たち人間や他の生き物に与えてくれることを実感します。「自然と共に生きる」ということは、そういったことに気づくことが、最初の一步ですね。

みなさんの活動ですごいなあと私が思うことは、活動に取り組む視点がたくさんあるということです。水質や溶岩の種類、生き物の種類といった科学的な視点から、地域の方の考えを聞いてみるといった社会的な視点も大切にしていると感じます。いろいろな視点で、課題の解決を考えていくことは、とても大切だと思いますので、これからも続けていってほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★

活動内容については、テーマを持って丁寧に調べたり、色々なことを発見していると思いますので、もう一歩進んで、細かい点で私が「もっと知りたいな!」と思ったことをお伝えします。

地震の被害が大きかった場所では、湧き水が多く存在するというのは、興味深い事実だと思います。ここで「被害が大きいの」というのは具体的にどのようなことになりますか?震度が大きかったということでしょうか。湧き水が多く出るということは、地盤が軟らかく、それで揺れが激しくなってしまったのかな、と想像しましたが、いかがでしょうか。

また、湧き水の量が変わるとのことですが、普段の水量のデータがあれば知りたいなと思いました。普段から湧き水を利用している方々は、感覚として「最近湧き水が少ないな」といったことを感じると思いますが、具体的にどれくらい増減しているのかなと疑問に思いました。機会があれば調べてみて下さい。



広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言!

全校で取り組んだ環境活動、素晴らしいですね。小学校での取り組みですが、地域や家庭、会社などで環境活動をするときに役立つヒントがいっぱいあると感じました。まず、全体の目標を立ててから、各クラスでも目標を決めたというのは、とても良いアイデアだと思います。学年によって、取り組みやすいことと、難しいこととありますから、各クラスで決めれば自分たちの目標になって、やる気も出ますね。委員会ごとでも目標を決めて、さらに SDGs のどれに当てはまるかを考えてみたのも、先進的な取り組みだと思います。地球環境や世界の問題は、ちょっと自分たちとは遠い世界の問題なのかな、と感じてしまいがちですが、全ての問題は私たち一人ひとりの行動が関係しています。逆に言えば、問題の解決に向けて誰でも「できること」があるということです。各委員会の活動で何かできるかを考えてみて、それが実感できたのではないかなと思います。

とっておきのゴシドウ★

電気代を1万円減らすといった目標や4S活動の達成率(?)を具体的に数字で表しているのもとてもよいです。この壁新聞を作る頃には、まだ一年間の結果が出ていなかったかもしれませんが、ふりかえりもきつと行われていると思います。その際には「達成した」「達成できなかった」だけでなく、どうして達成できた・できなかったのか、理由も考えてみましょう。達成できなかった場合はがっかりするかもしれませんが、目標が高すぎたのかもしれませんが、夏が予想より暑すぎて、エアコンを使うしかなかったのかもしれませんが、また、達成したとしても、ものすごく大変だったのであれば、ずっとその取り組みを続けていくことは難しいかもしれません。そういったこともふりかえりしてみると、翌年の活動のヒントになると思います。



イオンパークプレイス大分・チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

色合いや文字の大きさなど、とても読みやすい壁新聞ですね。内容もていねいに書かれていて、よくわかりました。毎年壁新聞を作っている経験が表れていると感じます。これからもがんばって下さいね。
「ごみ」とは何かを考えることは、とても大切です。この世に初めから「ごみ」だったものはないですね。みなさんが書かれているように、役割を終えたり、必要がなくなったりしたものを「ごみ」と呼んでいます。ごみかどうかを決めているのは、私たち人間です。20年位前は、お菓子の空き箱はごみとして捨てていましたが、今では資源ごみとしてリサイクルできます。箱にリサイクルマークがついていますね。壁新聞を読んで、「こんなものにもマークがついているんだ」と思う人も多いと思いますよ。「まとめ」に書いてあることはすでに実行していると思いますので、これからも続けていきましょう。

とっておきのゴシドウ★

大分市の環境展への出店など、地域にも活動を広めていて素晴らしいと思います。事前の準備は大変だったと思いますが、たくさんの方に参加してもらえてよかったですね。参加した方たちの様子や感想などを聞いてみると、次の活動へのヒントにもなると思います。簡単なアンケートをしてみてもいいですね。例えば家で取り組んでいることや、これから取り組もうと思ったことをいくつか挙げておき、該当するところにシールを貼って投票してもらおう、など。他の人の考えというのは、意外に印象に残るものです。参加者とみなさん、また参加者同士で交流でき、新しい発見もあると思います。機会があれば挑戦してほしいです。



大分県大分市 吉野育成クラブ
壁新聞のタイトル:①自然を大切にしよう ②しぜんを守ろう

R1-44-03、R1-44-04(全2枚)

吉野育成クラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

地球環境やその問題について、たくさん学ばれましたね！大小の木のイラストがたくさん書かれて、自然を大切にしたい気持ちが伝わりました。
また、「しぜんを守るために、ぼくらにもできることがあるよ！」とたくさんアイデアや行動を示してくれましたね。社会で守らなければいけないことから、子どもたちが一人ひとり協力できることなど、たくさん情報を集めてくれました。
そして、「自然を大切に」するためには、木を守ったり、ゴミ問題を考えたり、資源を大切にしたり、生活を考えたり、たくさん取り組んでいかなくてはなりません。これはみんなで取り組む問題だということが、とてもよく伝わってくる壁新聞でした！

とっておきのゴシドウ★

環境問題を、個別の問題ではなく、まず地球という大きな枠組みで学習していくということはとても大切なことだと思います。そこから、それぞれの問題を理解し、つながりを意識して学ぶことができます。
ただ、今回の壁新聞では、環境を守るために「～しない！」「～する！」という禁止や指示命令の言葉がたくさんでてきました。それらもとても重要なことですが、子どもたちには自然を大切にすることの喜びや感謝と一緒に発信してもらえればと思います。壁新聞は、たくさんの方が見てくれます。書かれた情報を見て、「私も一緒にやってみよう！」と多くの人と繋がるきっかけも生まれます。ぜひ、活動の楽しさや喜びも一緒に発信してみてください！



吉野育成クラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

立派な2本の木に、豊かな海の絵が大きく描かれて、とても迫力のあるメッセージになっていますね！木には、環境を守る大切なメッセージが描かれていて、木からのお願いのよう見えますね。こんなに素敵な自然の中で、左からはゴミを捨てている人が描かれていますが「こういうことはダメ！」と、はっきり伝わりますね！鳥さんも枝の上からちゃんとチェックしています(笑)また、海の仲間でも豊かな生き物たちの世界が描かれていて、海洋プラスチック問題などについてもしっかり学ばれたようですね。子どもたちのゴミ拾いによって、きれいになっている様子も見えます。豊かな自然を守りたいですね！

とっておきのゴシドウ★

一枚の絵の中に気持ちや活動内容を取り込んで、迫力のある壁新聞になっていますね。子どもたちが願う自然の姿が表現されて、守りたい気持ちが伝わってきます。
清掃活動などの環境活動によって、自分たちのできることや問題意識も育まれたと思います。自分たちの言葉で情報発信することや表現の大切さも感じたことだと思います。
今回の壁新聞では、環境を守るために「～しない！」「～する！」という大切なルールも示してもらいましたが、それと同時に、自然を大切にすることの喜びや感謝と一緒に発信してもらえればと思います。



大分県大分市 大道校区児童育成クラブ
壁新聞のタイトル:いくせいエコしんぶん

R1-44-02(A2)

大道校区児童育成クラブのみなさんへ
師範から一言！

公園や道路のクリーン作戦をしているのですね。

だいじなことです。地域の方もよろこんでくれているでしょう。公園もきれいになったら、来る人も公園を大切にしてくれるでしょうね。

おじさんも地域の公園のクリーン作戦をしていますが、大人ばかりで子どもたちの参加は、幼児の子どもがおやにつれられてくる子がたまにいますが、ほとんどないです。どうすれば子どもたちが、クリーン作戦にきてくれるか考えてみたいと思います。

公園のようすを絵にかいてくれています、公園のようすが良くわかります。

どんなゴミがおおいですか？ おかしのふくろやペットボトルがおおいですか？ タバコや空き缶やもつといろいろなゴミがおおいですか？

どんなゴミが多いか調べたら、どうやったらゴミがへるか、考えられます。

はっぱは、いっぱいあるみたいですが、どんなはっぱがおおいかもしらべてほしいな。

はっぱは、ペットボトルやレジ袋、おカシの袋のようなゴミではないですよ。公園の土にうめて肥料にもできます。

先生やみんなですらだんして、いろいろなことにチャレンジして、また壁新聞で全国のみんなに紹介してほしいです。



サポーターへのおきゴシドウ★

壁新聞は、絵が上手で見やすいと思います。よくできていると思います。

ゴミや葉っぱの種類を調べたり、可能なら公園に集まってくる昆虫や野鳥を調べたりすると公園への愛着がもっと深まってくると思います。

サポーターさんに加えて、夏休みには特別ゲストを呼んで、普段調べない昆虫や野鳥、植物のことを調べてまとめたりすると、新しい公園の魅力が子ども達や地域のみなさんに広がっていくと思います。

素晴らしい活動を、地道に継続的に進められているので、これからもテーマや指導に悩まれることもあると思いますが頑張ってください。

これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でも頑張ってください壁新聞もどんどん作って発信してください。

大分県別府市 大平山友遊エコクラブ
壁新聞のタイトル:地球はみんなの宝箱

R1-44-05

大平山友遊エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

壁新聞の「地球はみんなの宝箱」タイトルはとても素敵ですね！

きらきら輝く宝箱と地球のイラストもタイトルの期待感を高めてくれています。まずは興味をもってもらうことが大切です。

また、「地球」をテーマにして、「海」と「森」の宝を紹介する流れは、とてもわかりやすいですね。それぞれの宝を自分たちの実際の活動や経験を通して見つけて紹介しているのも、環境新聞としてとても説得力があります！

それに、用いた写真を丸く切ったり、角をとって貼り付けたりと工夫をこらしていますね。素敵なイラストとともに、記事に動きが生まれています。情報を伝えるのだけなら、文章を整理するだけでいいですが、こうした活動のわくわくや、気持ちも含めて伝えるには、こうした工夫はとても効果的だと思います。

最後のまとめは、みんなと仲良くすることも宝だと伝えていきますね。とてもすばらしいまとめだと思います！

とっておきのゴシドウ★

とても素敵な壁新聞でした。

伝えたい内容にあったイラストや写真の表現方法も工夫していますし、また自分たちの経験を語って、自然を守る大切さを伝えていきます。とてもわかりやすくまとめられているので、これからも、たくさんの活動を積み重ね、たくさん学び、さまざまな情報発信してほしいと思います。

特に、これからは、数字的なデータや、季節ごとの活動の記録などにも挑戦してみてもいいかな！自然の魅力はいろいろ変化する中にもあります。その変化を数字で表してみたり、季節の変化を感じてみたりすると、より深く自然の不思議とその理解を深めることができると思います！



姫城中ボランティアのみなさんへ
師範から一言！

「姫城中ボランティア」は、全校生徒が参加するクラブですね！とてもスケールが大きくて、その成果もやはり大きいと興味深く活動をも守っています。特に今回は、「ランチョンマット」を使うことによる水道使用状況の分析があって、全校で取り組むとこれほど変化があるのだと感心いたしました。それをわかりやすいように金額やグラフで表現されたところは、さすがです！学習という枠にとどまらず、社会や循環にもつながるこうした環境活動は、社会に対する関心や、その社会貢献による自己肯定にもつながっていきまますよね。環境ボランティア活動の発展とともに、生徒の皆さんの成長にも期待しております！

とっておきのゴシンドウ★

環境活動においては、実際に環境活動を行うのと同じぐらい、その成果や内容をわかりやすく発信していくことが大切です。なぜなら、環境活動は、1度の活動だけでは限定的で、継続的に取り組むことで、確実な成果となるからです。今回は水道使用に工夫をすることで、節水効果がありました。この情報を、広く伝えていくとともに、続けて活動して記録できれば、節水できた水資源も、その金額の成果も桁違いに大きくなりますね。社会の貢献度も大きくなります！こうした成果をについて、広く環境保全活動に役立ててもらうために、より多くの人に伝わるような情報の表現方法や情報発信の工夫も考えてみてください！



西伊敷小学校子どもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

西伊敷小学校子どもエコクラブは、いろんなことにチャレンジしていますね。調べながら勉強してみんなで大切にしようとしていることが壁新聞から伝わってきました。写真、説明も、わかりやすく上手にまとめていると思います。ピオトープは大事ですね。生きものがいつも身近に暮らしている様子を観察できることが大事だと思います。おじさんも小学校や幼稚園、こども園にピオトープを整備する活動をしてきました。壁新聞にかいてくれたように急がずゆっくりじっくり観察することが、一番、大切ですね。なぜ、ゆっくりが大事か、考えてみてください。落ち葉を集めて、落ち葉ピオトープも作っています。アルミ缶やプラタブリクサイクル、ダンボールの再利用、うら紙の再利用も、がんばっているのは感心しました。昔から取り組んでいるところは多いですが、活動の大切な理由までしっかり学んで続けているところは少ないと思います。これからももしっかり調べて、続けてほしいです。学校の仲間や全国の子どもエコクラブの仲間に、ぜひ、壁新聞を通じて教えてほしいと思います。

サポーターへのとっておきのゴシンドウ★

壁新聞は、見やすく、読みやすく割り付けも、よくできていると思います。すばらしい活動を地道に継続的に進められているので、これからもテーマや指導に悩まれることもあると思いますががんばって継続的に発信して頂けたらと思います。外部の講師や新しい取り組みも組み入れることも、総合的な活動にしたり、お世話をされているサポーターのご負担を軽減することにもなるし、サポーターもみなさんも子どもたちと一緒に学んで良いと思います。少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、子どもエコクラブの活動でもがんばって壁新聞もどんどん作って発信してください。



地域事務局からの応援メッセージ

【鹿児島市】
学校全体で環境について取り組み、環境への意識が高く、頻繁に活動を行っています。今後も環境について「今自分にできること」を続けて欲しいと思います。

【鹿児島県】
西伊敷小学校子どもエコクラブでは、学校全体で環境を守る意識が高く、様々なエコ活動に 取り組んおられます。新聞は、写真やイラスト、グラフなどを使いわかりやすくまとめられていました。今回新聞にまとめて活動を振り返ることでそれぞれの活動の大切さを改めて確認できたのではないのでしょうか。これからも学校、家庭、地域など身近な場所、環境を守るためにできることを続けて下さい。

はなぞのエコクラブのみなさんへ
師範から一言!

まず、イラストや写真がいっぱいで、海と川とまちを表している楽しいふんいきのかべ新聞だなと感じ、ワクワクしながら読みはじめました。きっとみなさんの活動も楽しく行われているのだろうなと、活動のふんいきもよく伝わっています。6月に、国場川の清掃に参加し、ごみが多いのでごみ拾い活動をはじめようと思い、実際に10月、11月にはあじゃ川やひがたでも清掃をしたのです。自分たちで感じて、実際に次の活動をしたのはとてもすばらしいことです。その中で、川のごみも、自分たちの生活のごみと一っしょと感じられたのは、とってもいいことに気づきました!

じっさいに、ポッキーのふくろやおでんのいれものが川で拾われたのかな?と読んで楽しく見ました。イラストのひとつひとつにも意味があって見る人にメッセージを伝えているのがすばらしいです。そしてごみだけでなく、生き物たちを感じているのもいいことです。『生きものがすめるようにきれいにしよう』の思いを大切にしていってください。

オオゴマダラは、さんねんでしたね。オオゴマダラが美しく飛ぶようすを沖縄で見たいものです。みなさんでオオゴマダラがたくさん飛ぶ環境を知り大切にしていってください。

そして、自分たちで育て、しゅうかくして、料理したとれたての野菜は、とってもおいしかったのですね。うらやましいです! 生ごみをひりょうにしたり、エコクッキングなど、エコなことをいろいろと考え行動できているのはりっぱです。これからもがんばってください。

とっておきのゴシドウ★

「海のごみはどこからくるの?」のタイトルのもとに、イラストでさまざまな原因をみごとに表現してまとめられています。また、1, 2, 3, 4と番号をふって、見る人に順番を示しているのも工夫されていると感じました。ごみ拾いを続けていくのであれば、種類だけでなく、種類ごとの個数の調査も行うと、ごみの状況や変化やごみの問題がよりわかるようになるかもしれません。まとめで、「私たちにできること」をメンバーの声で書かれているのが良いですね。すでにエコなメンバーのみなさんは実行できているでしょうから、このことをお友だちや家ぞくに伝え、エコな仲間をどんどん増やしていってください。

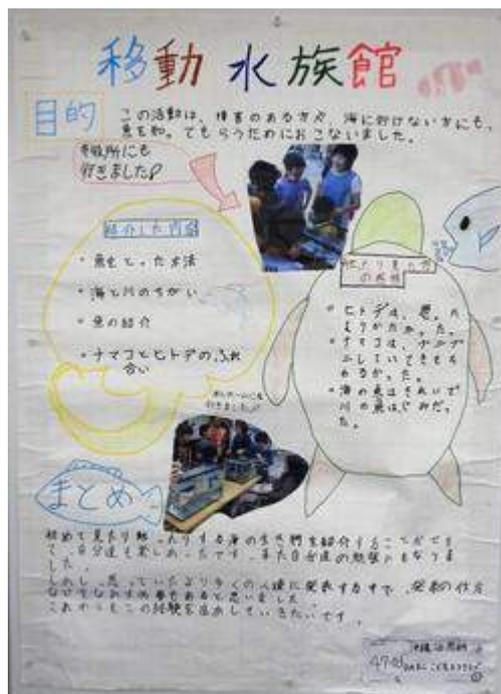


OMRC こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言!

いろいろな方法で魚を取ったり、移動水族館を行ったり、と楽しい活動を実践していますね。沖縄は海が有名ですが、川の魚はどうですか? あまり知られていなかったかもしれませんね。みなさんで取った魚を移動水族館で使ったのでしょうか。みなさんは魚の取り方を学び、そしてそれを使って海や川に行けない人たちに楽しんでもらうというのはとてもすばらしい活動だと思います。これからもそのような活動を続けていってくれることを期待しています。

とっておきのゴシドウ★

移動水族館で紹介した内容として、魚の紹介などをしたようですね。どんな魚が取れましたか? 図巻のように絵や写真と簡単な解説を新聞にのせると全国のお友達によりわかりやすくなると思います。沖縄の海や川にはたくさんの魚がいそうですね。ぜひ、次回の新聞ではそのような沖縄の海や川で取れた魚や生き物の紹介をしてください。楽しみにしています。



西表ヤマネコクラブのみなさんへ
師範から一言!

実にさまざまな活動に取り組んでいるクラブなのですね。近年懸念されているロードキルの問題も取り上げられています。ドライバーがヤマネコのことを考えて、ほんの少しゆっくり走ってくれればと思うと残念でなりません。このような活動が島の生き物を保護することにつながっていきます。学校のすぐ近くでホテルが観察できる、島の自然をこれからも見守ってください。はるか東京より応援していますし、こちらでも何か役立てることはないかを考えていきたいと思っています。環境教育賞の受賞もおめでとうございます。ぜひ、今後も活動を続けていってくださいね。

とっておきのゴシドウ★

ロードキルの問題はとても深厚な問題であり、多くの人に知ってもらうことが大切な活動なので、ぜひ全国の皆さんに知らせてほしいと思います。この地球上で西表だけにしかない貴重な生き物を守るために、今何が起きているのか、それを防ぐためにはどうすればいいのか、地元の皆さんだけでなく、日本全体でも考えていかななくてはならない問題となっています。ヤマネコ、そして西表の生き物たちを守るために何が必要か、全国の皆さんに知ってもらえるといいですね。東京からもいろいろな人に伝えていければと思っています。

